

有価証券報告書

(金融商品取引法第24条第1項に基づく報告書)

事業年度 自 2018年4月1日
(第126期) 至 2019年3月31日

株式会社 **トフ・コン**

東京都板橋区蓮沼町75番1号

(E02299)

第126期（自2018年4月1日 至2019年3月31日）

有価証券報告書

- 1 本書は金融商品取引法第24条第1項に基づく有価証券報告書を、同法第27条の30の2に規定する開示用電子情報処理組織(EDINET)を使用して、2019年6月26日に提出したデータに目次及び頁を付して出力・印刷したものであります。
- 2 本書には、上記の方法により提出した有価証券報告書の添付資料は含まれておりませんが、監査報告書は末尾に綴じ込んでおります。

株式会社 **トプコン**

目 次

頁

第126期 有価証券報告書

【表紙】	1
第一部 【企業情報】	2
第1 【企業の概況】	2
1 【主要な経営指標等の推移】	2
2 【沿革】	4
3 【事業の内容】	5
4 【関係会社の状況】	7
5 【従業員の状況】	11
第2 【事業の状況】	12
1 【経営方針、経営環境及び対処すべき課題等】	12
2 【事業等のリスク】	12
3 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】	14
4 【経営上の重要な契約等】	17
5 【研究開発活動】	17
第3 【設備の状況】	19
1 【設備投資等の概要】	19
2 【主要な設備の状況】	19
3 【設備の新設、除却等の計画】	20
第4 【提出会社の状況】	21
1 【株式等の状況】	21
2 【自己株式の取得等の状況】	27
3 【配当政策】	28
4 【コーポレート・ガバナンスの状況等】	29
第5 【経理の状況】	46
1 【連結財務諸表等】	47
2 【財務諸表等】	83
第6 【提出会社の株式事務の概要】	94
第7 【提出会社の参考情報】	95
1 【提出会社の親会社等の情報】	95
2 【その他の参考情報】	95
第二部 【提出会社の保証会社等の情報】	96

監査報告書

内部統制報告書

【表紙】

【提出書類】 有価証券報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 2019年6月26日

【事業年度】 第126期(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

【会社名】 株式会社トプコン

【英訳名】 TOPCON CORPORATION

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 平野 聡

【本店の所在の場所】 東京都板橋区蓮沼町75番1号

【電話番号】 03(3558)2536

【事務連絡者氏名】 取締役兼上席執行役員 財務本部長 秋山 治彦

【最寄りの連絡場所】 東京都板橋区蓮沼町75番1号

【電話番号】 03(3558)2536

【事務連絡者氏名】 財務本部 財務部 部長 森口 忠輔

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

(1) 連結経営指標等

回次	第122期	第123期	第124期	第125期	第126期
決算年月	2015年3月	2016年3月	2017年3月	2018年3月	2019年3月
売上高 (百万円)	128,569	130,735	128,387	145,558	148,688
経常利益 (百万円)	14,880	7,366	7,622	10,674	11,497
親会社株主に帰属する 当期純利益 (百万円)	8,670	4,197	4,395	6,028	6,548
包括利益 (百万円)	11,639	△903	3,460	7,235	5,203
純資産額 (百万円)	64,610	61,143	63,313	68,336	71,148
総資産額 (百万円)	143,181	166,542	158,280	160,747	160,288
1株当たり純資産額 (円)	587.52	550.04	563.30	614.78	651.11
1株当たり当期純利益 (円)	80.27	38.97	41.46	56.87	61.76
潜在株式調整後1株 当たり当期純利益 (円)	—	—	—	56.86	61.75
自己資本比率 (%)	44.3	35.0	37.7	40.5	43.1
自己資本利益率 (%)	14.8	6.9	7.4	9.7	9.8
株価収益率 (倍)	36.7	38.1	48.0	36.5	21.1
営業活動による キャッシュ・フロー (百万円)	17,143	4,180	18,192	14,541	14,511
投資活動による キャッシュ・フロー (百万円)	△9,192	△27,301	△4,954	△9,053	△6,667
財務活動による キャッシュ・フロー (百万円)	△7,602	22,889	△13,807	△7,258	△7,797
現金及び現金同等物 の期末残高 (百万円)	16,252	15,499	14,703	12,698	12,935
従業員数 (人)	4,148	4,459	4,497	4,723	4,932

(注) 1. 売上高には、消費税等は含んでおりません。

2. 第122期から第124期までの潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

3. 「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」（企業会計基準第28号 平成30年2月16日）等を第126期の期首から適用しており、第125期に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を遡って適用した後の指標等となっております。

(2) 提出会社の経営指標等

回次		第122期	第123期	第124期	第125期	第126期
決算年月		2015年 3月	2016年 3月	2017年 3月	2018年 3月	2019年 3月
売上高	(百万円)	44,716	41,989	42,420	44,894	45,976
経常利益	(百万円)	4,571	3,206	1,286	3,305	5,988
当期純利益又は当期純損失(△)	(百万円)	2,862	3,109	1,732	3,215	△1,399
資本金	(百万円)	16,638	16,638	16,638	16,638	16,658
発行済株式総数	(株)	108,085,842	108,085,842	108,085,842	108,085,842	108,105,842
純資産額	(百万円)	55,766	54,259	54,293	56,592	52,039
総資産額	(百万円)	110,525	131,244	127,203	127,725	121,738
1株当たり純資産額	(円)	516.29	511.82	512.14	533.55	490.35
1株当たり配当額 (内、1株当たり 中間配当額)	(円) (円)	16.00 (8.00)	24.00 (12.00)	16.00 (8.00)	20.00 (10.00)	24.00 (12.00)
1株当たり当期純利益 又は当期純損失(△)	(円)	26.50	28.87	16.34	30.33	△13.20
潜在株式調整後1株 当たり当期純利益	(円)	—	—	—	30.33	—
自己資本比率	(%)	50.5	41.3	42.7	44.3	42.7
自己資本利益率	(%)	5.2	5.7	3.2	5.8	—
株価収益率	(倍)	111.2	51.4	121.9	68.5	—
配当性向	(%)	60.4	83.1	97.9	65.9	—
従業員数	(人)	733	703	704	681	683
株主総利回り (比較指標：配当込み TOPIX)	(%) (%)	175.2 (130.7)	90.1 (116.5)	121.0 (133.7)	127.2 (154.9)	83.1 (147.1)
最高株価	(円)	3,100	3,230	2,152	2,917	2,242
最低株価	(円)	1,570	947	915	1,763	1,282

(注) 1. 売上高には、消費税等は含んでおりません。

2. 第122期から第124期までの潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。また、第126期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式は存在するものの、1株当たり当期純損失であるため記載しておりません。

3. 第126期の自己資本利益率、株価収益率及び配当性向については、当期純損失であるため記載しておりません。

4. 最高・最低株価は、東京証券取引所市場第一部におけるものであります。

5. 「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を第126期の期首から適用しており、第125期に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を遡って適用した後の指標等となっております。

2 【沿革】

1932年9月	服部時計店精工舎の測量機部門を母体とし、資本金1,000千円にて創立。 商号 東京光学機械株式会社 本社 東京市京橋区銀座4丁目2番地 工場 東京市豊島区、滝野川区
1933年4月	東京市板橋区志村本蓮沼町180番地(現在地)に本社工場を完成し移転。
1946年12月	山形機械工業(現、(株)トプコン山形)を山形県山形市に設立。
1949年5月	東京・大阪証券取引所に株式を上場。
1960年3月	東京芝浦電気(株)(現、(株)東芝)の関係会社となる。
1969年10月	東京光学精機(株)(現、(株)オプトネクス)を福島県田村郡に設立。
1970年4月	Topcon Europe N.V.(現、Topcon Europe B.V.)をオランダ、ロッテルダムに設立。
1970年9月	Topcon Instrument Corporation of America(現、Topcon Medical Systems, Inc.)をアメリカ、ニューヨーク(現、ニュージャージー州)に設立。
1975年1月	測量機販売会社トプコン測機(株)(現、(株)トプコンソキアポジショニングジャパン)を設立。
1976年12月	医科器械販売会社の(株)トプコンメディカルジャパンを設立。
1979年4月	Topcon Singapore Pte. Ltd. をシンガポールに設立。
1986年4月	Topcon Optical(H.K.)Ltd. を香港に設立。
1986年9月	東京・大阪証券取引所 市場第一部に指定。
1989年4月	会社名を株式会社トプコンに変更。
1994年9月	Topcon Laser Systems Inc.(現、Topcon Positioning Systems, Inc.)をアメリカ、カリフォルニア州に設立、Advanced Grade Technology社を買収し、マシンコントロール事業に進出。
2000年7月	アメリカのJavad Positioning Systems, Inc. を買収し、精密GPS受信機及び関連システム製品を販売開始。
2001年7月	持株会社としてTopcon America Corporationをアメリカ、ニュージャージー州に設立し、医用機器と測量機器の事業分野別に販売会社等を再編。
2002年7月	Topcon Singapore Pte.Ltd. を清算し、シンガポールに新たにTopcon South Asia Pte.Ltd.(現、Topcon Singapore Holdings.Pte.Ltd.)を設立。
2004年2月	中国北京市にTopcon(Beijing) Opto-Electronics Corporation(現、Topcon(Beijing) Opto-Electronics Development Corporation)を、北京拓普康商貿有限公司との合弁により設立。
2004年7月	中国東莞市にTopcon Optical(H.K.)Ltd. がYue Long Industrial Companyとの合弁によりTopcon Optical(Dongguan)Technology Ltd. を設立。
2005年7月	Topcon Europe Positioning B.V.、Topcon Europe Medical B.V. をオランダに設立。
2006年10月	農業分野への本格参入を目的として、オーストラリアのKEE Technologies Pty Ltd.(現、Topcon Precision Agriculture Pty Ltd.)を買収。
2007年5月	アメリカのJavad Navigation Systems, Inc. より移動体制御に関する営業権を譲受。
2008年2月	(株)ソキア(現、(株)ソキア・トプコン)の株式公開買付けを実施し、子会社化。
2009年3月	大阪証券取引所への上場を廃止。
2010年7月	Topcon Medical Laser Systems, Inc. をアメリカ、カリフォルニア州に設立し、網膜レーザー治療機の製造・販売を開始。
2014年12月	ドイツのディスプレイメーカー Wachendorff Elektronik GmbH & Co. KG(現、Topcon Electronics GmbH & Co. KG)とその販売子会社を買収。
2015年4月	IT農業事業の拡充を目的として、アメリカのDigi-Star Investments, Inc.(現在はTopcon Positioning Systems, Inc. に統合済み)とその子会社を買収。
2015年6月	IT農業事業の拡充を目的として、カナダのNORAC Systems International, Inc.(現、Topcon Agriculture Canada, Inc.)とその子会社を買収。
2015年9月	(株)東芝の関係会社でなくなる。
2016年11月	IT農業事業の統括会社として、Topcon Agriculture S.p.A. をイタリアに設立。
2017年8月	アイケアIoTビジネスの推進拠点として、Topcon Healthcare Solutions, Inc. をアメリカ、ニュージャージー州に設立。
2018年2月	BIM向けソフトウェア会社であるアメリカのClearEdge3D, Inc. を買収。
2018年4月	アイケアIoTシステムの開発会社であるフィンランドのKIDE Clinical Systems, Oy.(現、Topcon Healthcare Solutions EMEA Oy)を買収。

3 【事業の内容】

当企業グループは、2019年3月31日現在、当社、連結子会社82社、及び関連会社10社で構成され、スマートインフラ事業、ポジショニング・カンパニー、アイケア事業の各セグメントでの、高度技術に支えられた製品の製造・販売・サービスを事業内容としております。

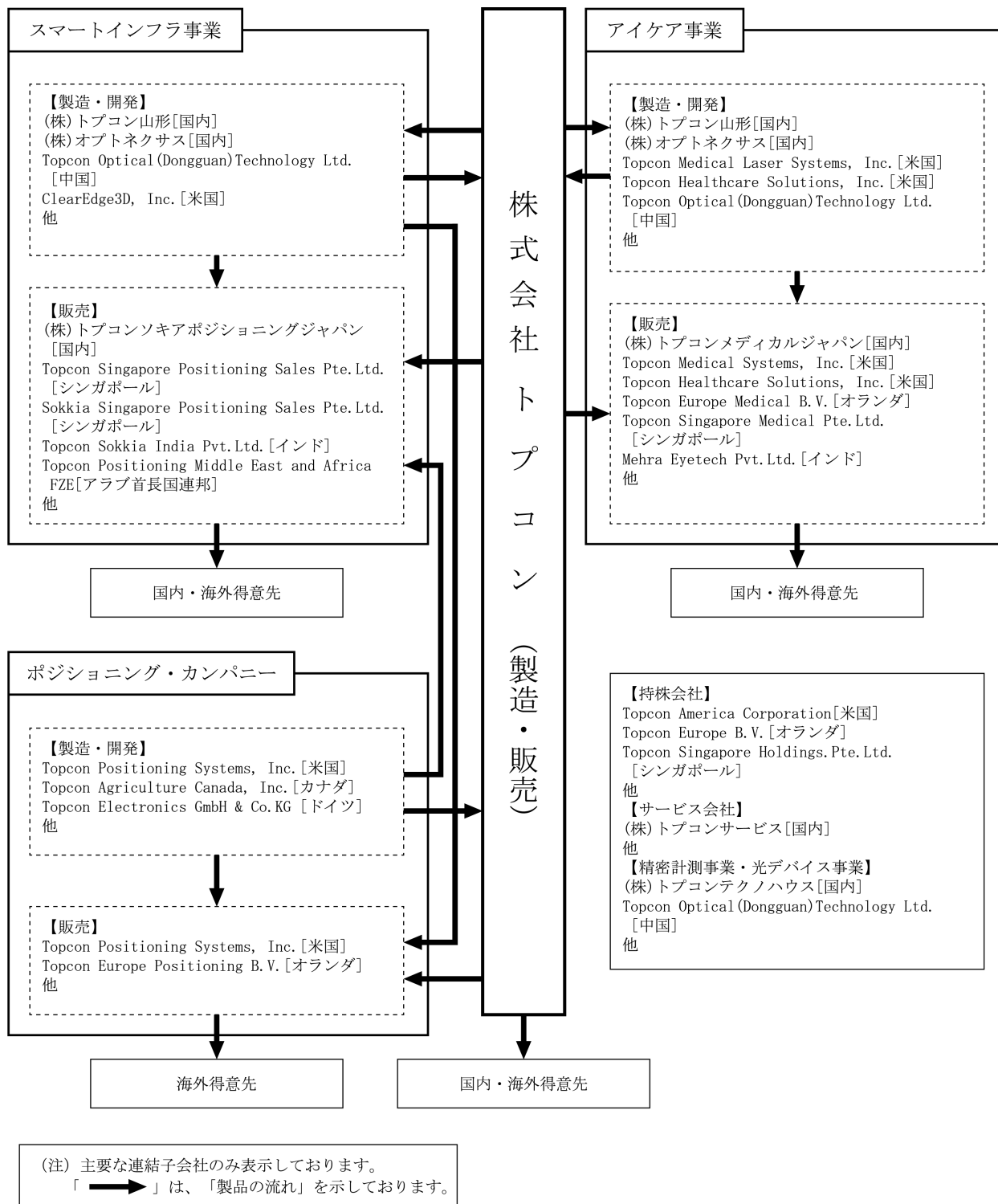
主要な連結子会社とセグメントとの関連は、次のとおりであります。

なお、当該セグメントは「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 (1) 連結財務諸表 注記事項」に掲げるセグメントの区分と同一であります。

主要製品名	主要な連結子会社の位置付け	
	製造・開発	販売・サービス・他
<p>[スマートインフラ事業]</p> <p>トータルステーション（自動追尾トータルステーション、モータードライブトータルステーション、マニュアルトータルステーション、工業計測用トータルステーション、イメージングステーション）、レイアウトナビゲーター、MILLIMETER GPS、3D移動体計測システム、3Dレーザーキャナー、データコレクタ、セオドライト、電子レベル、レベル、ローテーションレーザー、パイプレーザー</p>	<p>(株)トプコン山形 (株)オプトネクス Topcon Optical (Dongguan) Technology Ltd. ClearEdge3D, Inc.</p>	<p>(株)トプコンソキアポジショニングジャパン Topcon Singapore Positioning Sales Pte.Ltd. Sokkia Singapore Positioning Sales Pte.Ltd. Topcon Sokkia India Pvt.Ltd. Topcon Positioning Middle East and Africa FZE</p>
<p>[ポジショニング・カンパニー]</p> <p>測量用GNSS（GPS+GLONASS+GALILEO等）受信機、GNSSリファレンスステーションシステム、土木施工用マシンコントロールシステム、精密農業用マシンコントロールシステム、農業向け計量システム、アセットマネジメントシステム、土木施工・精密農業システム向けディスプレイ</p>	<p>Topcon Positioning Systems, Inc. Topcon Agriculture Canada, Inc. Topcon Electronics GmbH & Co. KG</p>	<p>Topcon Positioning Systems, Inc. Topcon Europe Positioning B.V.</p>
<p>[アイケア事業]</p> <p>3次元眼底像撮影装置、眼底カメラ、無散瞳眼底カメラ、眼科用レーザー光凝固装置、ノンコンタクトタイプトノメーター、スリットランプ、手術用顕微鏡、スペキュラーマイクロスコプ、光学式眼軸長測定装置、眼科検査データファイリングシステムIMAGEnet、眼科電子カルテシステムIMAGEnet eカルテ、ウェーブフロントアナライザー、オートレフラクトメータ、オートケラトレフラクトメータ、オートケラトレフラクトトノメーター、視力検査装置、屈折検査システム、視力表、レンズメーター、スクリーノスコープ、デジタルPDメーター、検眼レンズセット</p>	<p>(株)トプコン山形 (株)オプトネクス Topcon Medical Laser Systems, Inc. Topcon Healthcare Solutions, Inc. Topcon Optical (Dongguan) Technology Ltd.</p>	<p>(株)トプコンメディカルジャパン (株)トプコンサービス Topcon Medical Systems, Inc. Topcon Healthcare Solutions, Inc. Topcon Europe Medical B.V. Topcon Singapore Medical Pte. Ltd. Mehra Eyetech Pvt.Ltd.</p>

(注) スマートインフラ事業とポジショニング・カンパニーは、事業関連性が高く、対象とする顧客も類似しております。そのため、スマートインフラ事業とポジショニング・カンパニーは、双方の製品の販売を行っており、スマートインフラ事業は主に日本及びアジアの各地域で、ポジショニング・カンパニーは主に北米及びヨーロッパの各地域で、販売活動を行っております。

事業の系統図は次のとおりであります。



4 【関係会社の状況】

名称	住所	資本金 又は出資金 (百万円)	主要な事業 の内容	議決権の所有 (被所有)割合		関係内容	摘要
				所有 割合 (%)	被所有 割合 (%)		
(連結子会社) ㈱ソキア・トプコン	東京都板橋区	100	スマートインフラ事業	100.0		当社所有の建物の一部を賃借しております。当社役員2人及び従業員1人がその会社の役員を兼任しております。	注2
㈱トプコン山形	山形県山形市	371	スマートインフラ事業 アイケア事業	100.0		当社のスマートインフラ、アイケア製品の一部を製造。当社役員3人及び従業員1人がその会社の役員を兼任しております。	注2
㈱オプトネクス	福島県田村市	100	スマートインフラ事業 アイケア事業	100.0 (100.0)		当社のスマートインフラ、アイケア製品の一部を製造。従業員2人がその会社の役員を兼任しております。	
㈱トプコンソキアポジショニングジャパン	東京都板橋区	269	スマートインフラ事業 ポジショニング・カンパニー	100.0		当社のスマートインフラ、ポジショニング製品を販売。なお当社所有の建物の一部を賃借しております。当社従業員4人がその会社の役員を兼任しております。	注2 注4
㈱トプコンメディカルジャパン	東京都板橋区	100	アイケア事業	100.0		当社のアイケア製品を販売。なお当社所有の建物の一部を賃借しております。当社従業員4人がその会社の役員を兼任しております。	
㈱トプコンサービス	東京都板橋区	57	スマートインフラ事業 アイケア事業	100.0		当社製品のアフターサービス。なお当社所有の建物の一部を賃借しております。当社役員1人及び従業員3人がその会社の役員を兼任しております。	
㈱トプコンテクノハウス	東京都板橋区	55	精密計測事業	100.0		当社の精密計測製品の販売・アフターサービス。なお、当社所有の建物の一部を賃借しております。当社役員1人及び従業員1人がその会社の役員を兼任しております。	
Topcon America Corporation	Oakland New Jersey U. S. A.	千US\$ 165,020	ポジショニング・カンパニー アイケア事業	100.0		Topcon Positioning Systems, Inc. 及びTopcon Medical Systems, Inc. 等の持株会社。当社役員3人及び従業員1人がその会社の役員を兼任しております。	注2
Topcon Positioning Systems, Inc.	Livermore California U. S. A.	千US\$ 138,905	ポジショニング・カンパニー スマートインフラ事業	100.0 (100.0)		当社のポジショニング製品の販売、マシンコントロールシステム、精密GPS受信機等の製造・販売、及びスマートインフラ製品の販売。当社役員4人及び従業員1人がその会社の役員を兼任しております。	注2 注4
Cacioppe Communications Companies, Inc.	Niles Michigan U. S. A.	千US\$ 1	ポジショニング・カンパニー スマートインフラ事業	66.9 (66.9)		当社のポジショニング、スマートインフラ製品を販売。	
Bunce Industries, LLC	Stow Massachusetts U. S. A.	千US\$ 3,128	ポジショニング・カンパニー スマートインフラ事業	100.0 (100.0)		当社のポジショニング、スマートインフラ製品を販売。	
Topcon Agriculture Canada, Inc.	Saskatchewan Canada	千CAN\$ 0	ポジショニング・カンパニー	100.0 (100.0)		当社のポジショニング製品の開発。	
Portland Precision Instrument & Repair Co.	Oregon U. S. A.	千US\$ 13	ポジショニング・カンパニー スマートインフラ事業	100.0 (100.0)		当社のポジショニング、スマートインフラ製品を販売。	
Productivity Products and Services Inc.	Saxsonburg Pennsylvania U. S. A.	千US\$ 1	ポジショニング・カンパニー スマートインフラ事業	80.0 (80.0)		当社のポジショニング、スマートインフラ製品を販売。	
ClearEdge3D, Inc.	Virginia U. S. A.	千US\$ 24	スマートインフラ事業	100.0 (100.0)		当社のスマートインフラ製品の一部を開発。当社役員2人及び従業員2人がその会社の役員を兼任しております。	
TPS Australia Holdings Pty Ltd.	Mawson Lakes SA Australia	千US\$ 30,521	ポジショニング・カンパニー	100.0 (100.0)		Topcon Precision Agriculture Pty Ltd. 及びTopcon Positioning Systems (Australia) Pty. Ltd. の持株会社。	注2

名称	住所	資本金 又は出資金 (百万円)	主要な事業 の内容	議決権の所有 (被所有)割合		関係内容	摘要
				所有 割合 (%)	被所有 割合 (%)		
Topcon Agriculture S. p. A.	Turin Italy	千EUR 6,364	ポジショニング ・カンパニー	100.0 (100.0)		当社役員3人及び従業員1人がその会 社の役員を兼任しております。	
Tierra S. p. A.	Turin Italy	千US\$ 2	ポジショニング ・カンパニー スマートインフ ラ事業	50.1 (50.1)		当社のポジショニング、スマートイ ンフラ製品の一部を開発。	
Topcon Precision Ag Europe S. L.	Madrid Spain	千US\$ 0	ポジショニング ・カンパニー	100.0 (100.0)		当社のポジショニング製品を販売。	
Dynaroad Oy	Helsinki Finland	千EUR 1	ポジショニング ・カンパニー	100.0 (100.0)		当社のポジショニング製品を開発。	
Shanghai Topcon-Sokkia Technology and Trading Co., Ltd.	Shanghai China	千US\$ 1	ポジショニング ・カンパニー スマートインフ ラ事業	100.0 (100.0)		当社のポジショニング、スマートイ ンフラ製品を販売。 当社従業員1人がその会社の役員を 兼任しております。	
Topcon Medical Systems, Inc.	Oakland New Jersey U. S. A.	千US\$ 16,094	アイケア事業	100.0 (100.0)		当社のアイケア製品を販売。 当社役員1人及び従業員2人がその会 社の役員を兼任しております。	注2
Topcon Canada, Inc.	Boisbriand Canada	千CAN\$ 3,872	アイケア事業	100.0 (100.0)		当社のアイケア製品を販売。 当社従業員1人がその会社の役員を 兼任しております。	
Topcon Medical Laser Systems, Inc.	Santa Clara California U. S. A.	千US\$ 10,000	アイケア事業	100.0 (100.0)		当社のアイケア製品を製造。 当社役員1人及び従業員2人がその会 社の役員を兼任しております。	
Topcon Healthcare Solutions, Inc.	Oakland U. S. A.	千US\$ 10	アイケア事業	100.0 (100.0)		当社のアイケア製品を開発・販売。 当社役員1人及び従業員3人がその会 社の役員を兼任しております。	
Topcon Healthcare Solutions EMEA Oy	Finland	千EUR 1,724	アイケア事業	100.0 (100.0)		当社のアイケア製品を開発・販売。 当社役員1人及び従業員1人がその会 社の役員を兼任しております。	
Topcon Healthcare Solutions Asia Pacific Pte. Ltd.	Singapore	千SG\$ 1,000	アイケア事業	100.0 (100.0)		当社のアイケア製品を開発・販売。	
Topcon Europe Positioning B. V.	Capelle Netherlands	千EUR 18	ポジショニング ・カンパニー スマートインフ ラ事業	100.0 (100.0)		当社のポジショニング、スマートイ ンフラ製品を販売。	
Topcon Deutschland Positioning GmbH	Hamburg Germany	千EUR 25	ポジショニング ・カンパニー スマートインフ ラ事業	100.0 (100.0)		当社のポジショニング、スマートイ ンフラ製品を販売。	
Topcon Positioning Belgium N. V.	Brussels Belgium	千EUR 198	ポジショニング ・カンパニー スマートインフ ラ事業	100.0 (100.0)		当社のポジショニング、スマートイ ンフラ製品を販売。	
Topcon Positioning Italy s. r. l.	Ancona Italy	千EUR 46	ポジショニング ・カンパニー スマートインフ ラ事業	100.0 (100.0)		当社のポジショニング、スマートイ ンフラ製品を販売。	
Topcon Electronics GmbH & Co. KG	Geisenheim Germany	千EUR 0	ポジショニング ・カンパニー	100.0 (100.0)		当社のポジショニング製品を製造・ 販売。	
Mirage Technologies S. L.	Valencia Spain	千EUR 3	スマートインフ ラ事業	100.0 (100.0)		当社のスマートインフラ製品の一部 を開発。 当社従業員1人がその会社の役員を 兼任しております。	
ThunderBuild Group B. V.	Eindhoven Netherlands	千EUR 35	ポジショニング ・カンパニー	100.0 (100.0)		当社のポジショニング製品を開発・ 販売。	
Topcon Positioning France SAS	Saint-Denis France	千EUR 1,700	ポジショニング ・カンパニー	100.0 (100.0)		当社のポジショニング、スマートイ ンフラ製品を販売。	
Topcon Positionig (Great Britain) Ltd.	Staffordshire U. K.	千£ 2,000	ポジショニング ・カンパニー	100.0 (100.0)		当社のポジショニング、スマートイ ンフラ製品を販売。	

名称	住所	資本金 又は出資金 (百万円)	主要な事業 の内容	議決権の所有 (被所有)割合		関係内容	摘要
				所有 割合 (%)	被所有 割合 (%)		
Topcon Europe B.V.	Capelle Netherlands	千EUR 5,437	アイケア事業	100.0		Topcon Europe Medical B.V. 等の持株会社。	
Topcon Europe Medical B.V.	Capelle Netherlands	千EUR 18	アイケア事業	100.0 (100.0)		当社のアイケア製品を販売。 当社役員1人がその会社の役員を兼 任しております。	注2
Topcon Deutschland Medical GmbH	Willich Germany	千EUR 2,812	アイケア事業	100.0 (100.0)		当社のアイケア製品を販売。 当社役員1人がその会社の役員を兼 任しております。	
Topcon France Medical SAS	Clichy Cedex France	千EUR 1,372	アイケア事業	100.0 (100.0)		当社のアイケア製品を販売。 当社役員1人がその会社の役員を兼 任しております。	
Topcon España, S. A.	Barcelona Spain	千EUR 962	アイケア事業	100.0 (100.0)		当社のアイケア製品を販売。 当社役員1人がその会社の役員を兼 任しております。	
Topcon Scandinavia A.B.	Molndal Sweden	千SKR 5,250	アイケア事業	100.0 (100.0)		当社のアイケア製品を販売。 当社役員1人がその会社の役員を兼 任しております。	
Topcon(Great Britain) Medical Ltd.	Newbury Berkshire U. K.	千£ 2,500	アイケア事業	100.0 (100.0)		当社のアイケア製品を販売。 当社役員1人がその会社の役員を兼 任しております。	
Topcon Polska Sp. Zo. o.	Warszawska Poland	千PLN 1,330	アイケア事業	100.0 (100.0)		当社のアイケア製品を販売。 当社役員1人がその会社の役員を兼 任しております。	
ifa systems AG	Frechen Germany	千EUR 2,750	アイケア事業	52.56 (52.56)		当社のアイケア製品を製造・販売。 当社従業員1人がその会社の役員を 兼任しております。	
Topcon Singapore Holdings Pte.Ltd.	Singapore	千US\$ 1,420	スマートインフ ラ事業 アイケア事業	100.0		Topcon Singapore Positioning Pte.Ltd.及びTopcon Singapore Medical Pte.Ltd.等の持株会社。 当社役員3人及び従業員1人がその会 社の役員を兼任しております。	
Topcon Singapore Medical Pte.Ltd.	Singapore	千US\$ 4,000	アイケア事業	100.0 (100.0)		当社のアイケア製品を販売。 当社従業員1人がその会社の役員を 兼任しております。	
Topcon Singapore Positioning Pte.Ltd.	Singapore	千US\$ 3,000	スマートインフ ラ事業	100.0 (100.0)		Topcon Singapore Positioning Sales Pte.Ltd.及び Sokkia Singapore Positioning Sales Pte.Ltd.の持株会社。 当社従業員1人がその会社の役員を 兼任しております。	
Topcon Singapore Positioning Sales Pte.Ltd.	Singapore	千US\$ 1,000	スマートインフ ラ事業 ポジショ ニング・カンパニー	100.0 (100.0)		当社のスマートインフラ、ポジショ ニング製品を販売。 当社従業員2人がその会社の役員を 兼任しております。	
Sokkia Singapore Positioning Sales Pte.Ltd.	Singapore	千US\$ 1,000	スマートインフ ラ事業 ポジショ ニング・カンパニー	100.0 (100.0)		当社のスマートインフラ、ポジショ ニング製品を販売。 当社従業員2人がその会社の役員を 兼任しております。	
Topcon Instruments (Malaysia)Sdn. Bhd.	Kuala Lumpur Malaysia	千MYR 6,600	スマートインフ ラ事業 ポジショ ニング・カンパニー アイケア事業	100.0 (100.0)		当社のスマートインフラ、ポジショ ニング、アイケア製品を販売。	
Topcon Instrument (Thailand) Co., Ltd.	Bangkok Thailand	千BAT 19,000	スマートインフ ラ事業 ポジショ ニング・カンパニー アイケア事業	49.0 (49.0)		当社のスマートインフラ、ポジショ ニング、アイケア製品を販売。	
Topcon Sokkia India Pvt. Ltd.	Gurgaon India	千INR 10,973	スマートインフ ラ事業 ポジショ ニング・カンパニー	100.0		当社のスマートインフラ、ポジショ ニング製品を販売。 当社役員1人及び従業員2人がその会 社の役員を兼任しております。	
Mehra Eyetech Pvt.Ltd.	Mumbai India	千INR 9,000	アイケア事業	51.0		当社のアイケア製品を販売。 当社従業員1人がその会社の役員を 兼任しております。	

名称	住所	資本金 又は出資金 (百万円)	主要な事業 の内容	議決権の所有 (被所有)割合		関係内容	摘要
				所有 割合 (%)	被所有 割合 (%)		
Sokkia Korea Co., Ltd.	Seoul Korea	千KRW 2,041,700	スマートインフラ事業 ポジショニング・カンパニー	100.0		当社のスマートインフラ、ポジショニング製品を販売。 当社従業員3人がその会社の役員を兼任しております。	
Topcon Optical (H. K.) Ltd.	Shatin, N. T. Hong Kong	千HK\$ 24,251	スマートインフラ事業 アイケア事業 光デバイス事業	100.0		当社のスマートインフラ、アイケア、光デバイス製品の一部を製造。 当社役員1人及び従業員2人がその会社の役員を兼任しております。	
Topcon Optical (Dongguan) Technology Ltd.	Guangdong Province China	千US\$ 12,000	スマートインフラ事業 アイケア事業 光デバイス事業	90.0 (90.0)		当社のスマートインフラ、アイケア、光デバイス製品の一部を製造。 当社従業員4人がその会社の役員を兼任しております。	
Topcon HK (BD) Ltd.	Chittagong Bangladesh	千HK\$ 5,265	光デバイス事業	90.0 (90.0)		当社従業員1人がその会社の役員を兼任しております。	
Topcon (Beijing) Medical Technology Co., Ltd.	Beijing China	千人民元 10,000	アイケア事業	100.0		当社のアイケア製品を販売。 当社従業員3人がその会社の役員を兼任しております。	
Topcon Positioning Middle East and Africa FZE	Dubai UAE	千US\$ 1,089	スマートインフラ事業 ポジショニング・カンパニー	100.0		当社のスマートインフラ、ポジショニング製品を販売。 当社従業員1人がその会社の役員を兼任しております。	
その他連結子会社22社							
(持分法適用関連会社) 計10社							

- (注) 1. 主要な事業の内容欄には、主にセグメントの名称を記載しております。
2. 特定子会社に該当します。
3. 有価証券届出書又は有価証券報告書を提出している会社はありません。
4. 次の2社については、売上高(連結会社間の内部売上高を除く)の連結売上高に占める割合が100分の10を超えております。

主要な損益情報等

Topcon Positioning Systems, Inc.

(1) 売上高	45,888百万円
(2) 経常利益	4,795百万円
(3) 当期純利益	3,883百万円
(4) 純資産額	49,831百万円
(5) 総資産額	70,406百万円

(株)トプコンソキアポジショニングジャパン

(1) 売上高	16,077百万円
(2) 経常利益	1,736百万円
(3) 当期純利益	1,189百万円
(4) 純資産額	4,947百万円
(5) 総資産額	10,669百万円

5. 議決権の所有割合の()内は、間接所有割合で内数であります。
6. 関係内容欄には、2019年3月31日現在の当社との関係を記載しております。また、当社役員の人数には執行役員も含めて記載しております。

5 【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

2019年3月31日現在

セグメントの名称	従業員数(人)
スマートインフラ事業	980
ポジショニング・カンパニー	2,001
アイケア事業	1,721
その他	230
合計	4,932

(注) 上記の従業員数は、正規従業員の稼動人員であります。

(2) 提出会社の状況

2019年3月31日現在

従業員数(人)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(円)
683	44.3	17.6	7,610,261

セグメントの名称	従業員数(人)
スマートインフラ事業	365
アイケア事業	318
合計	683

(注) 1. 上記の従業員数は、正規従業員の稼動人員であります。
2. 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。

(3) 労働組合の状況

当社の労働組合はトプコン労働組合と称し、上部団体には加盟しておりません。2019年3月31日現在の組合員数は486人で、労使間には特記すべき事項はありません。

第2 【事業の状況】

1 【経営方針、経営環境及び対処すべき課題等】

(1) 会社の経営の基本方針

当社は、「TOPCON WAY」を施行し、全ての社員がこの理念を理解して具体的に行動できるようにしております。

[TOPCON WAY]

[経営理念]

トプコンは「医・食・住」に関する社会的課題を解決し、豊かな社会づくりに貢献します。

[経営方針]

トプコンは先端技術にこだわり、モノづくりを通じ、新たな価値を提供し続けます。

トプコンは多様性を尊重し、グローバルカンパニーとして行動します。

トプコンはコンプライアンスを最優先し、全てのステークホルダーから信頼される存在であり続けます。

(2) 中長期的な会社の経営戦略

当社は、当年度(2018年度)を最終年度とする3か年の中期経営計画のもと取り組んでまいりましたが、更に、2019年度を初年度とする3か年の中期経営計画を下記の通り新たに策定し、下記課題の解決に向けて引き続き取り組んでいく方針です。

[中計基本方針]

2019年度から2021年度を第三次中期経営計画期間と定め、この3か年で成長戦略の推進加速をしてまいります。

[中計基本戦略]

1. 成長市場での事業展開の加速を図る。
2. 基盤事業での収益力の強化を図る。
3. 潜在的な新市場の創出を図る。

(3) 目標とする経営指標

当社は、当社グループの中期経営計画において、自己資本利益率(ROE)を重要指標としております。

(4) 経営環境及び対処すべき課題

当社の各事業分野においては、「医(Healthcare)」では、世界的な高齢化に伴う眼疾患の増加に対処すべく、当社のフルオートスクリーニング機を活用したスクリーニングビジネスの拡大に努め、疾患の早期発見と医療効率の向上を目指します。「食(Agriculture)」では、世界的な人口増加に伴う食糧不足に対処すべく、当社のIT農業機器や光学センサー技術を活用した「農業の工場化」の推進に努め、農業の生産性及び品質の向上を目指します。「住(Infrastructure)」では、世界的なインフラ需要増に伴う技術者不足に対処すべく、当社のICT自動化施工技術や3次元計測技術を活用した「建設工場の工場化」の推進に努め、建設現場における生産性向上と人手不足解消を目指します。

2 【事業等のリスク】

事業の状況、経理の状況等に関する事項で、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項は、以下のとおりであります。

(1) 製品需要に関する経済状況について

当社グループは、主たる事業として、スマートインフラ事業、ポジショニング・カンパニー、アイケア事業の3つの事業を展開しております。製品に対する需要においては、それぞれの事業セグメントの属する市場動向(土木建設市場、農業市場、眼科・眼鏡市場等)の影響を受けるため、その市場に大きな変動があるような場合には、当社グループの財政状態及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

また、当社グループは海外売上高比率が高く、日本国内のほか、米国、欧州、アジア、中国等、世界に向けて販売していることから、各地域の経済状況は、当社グループの財政状態及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

(2) 海外への事業展開について

当社グループは、製品の輸出及び海外における現地生産等、広く海外活動を展開しております。このため、海外での政治や経済情勢の悪化や、貿易・外貨規制、法令・税制の改革、治安悪化、紛争テロ、戦争、災害等の発生は、海外での事業活動に支障をきたし、当社グループの財政状態及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

(3) 競合(価格/非価格競争)の激化について

当社グループは、各事業において、同種の製品を供給する他社との競合が存在しております。競争優位に立てるよう、新製品の逸早い市場の投入や、新技術の開発、コスト削減等を推進しておりますが、新製品開発の遅延や新技術開発の長期化、原材料価格の高騰等が発生した場合には成長性や収益性を低下させ、当社グループの財政状態及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

(4) 金利・為替等の金融市場の状況変化について

当社グループは、連結売上高に占める海外売上高比が高く、為替相場変動リスクに晒されているため、実需の範囲内での先物為替予約により適切な為替ヘッジを行っておりますが、急激な為替相場の変動が生じた場合には、当社グループの財政状態及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。また、金融機関からの借入金については、金利変動のリスクに晒されており、金融市場の状況の変化により金利が著しく上昇した場合には、支払金利の増加により当社グループの財政状態及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

(5) 資金調達について

当社グループは、必要な資金の調達は金融機関からの借入、社債の発行等により行っております。今後、金融市場の悪化や当社経営成績等により、借入の継続および新規借入を行うことができない可能性があります。また、格付機関による当社グループの信用格付の引下げ等の事態が生じた場合、資金調達が制約されるとともに調達コストが増加する可能性があります。これらの事態が生じた場合には、当社グループの財政状態及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

(6) 新規事業戦略について

当社グループでは、将来の成長のために新規事業への取り組みを随時検討しておりますが、新規事業は不確定要素が多く、計画通り達成できなかった場合は、当社グループの財政状態及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

(7) 企業買収等について

当社グループでは、事業の特性に応じて最適な事業形態を取れる体制の構築に努めており、事業拡大のため企業買収等を実施することがあります。しかしながら、市場環境や競争環境の著しい変化により、買収した事業が計画通りに進展しない場合や、効率的な経営資源の活用を行うことができなかった場合には、当社グループの財政状態及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

(8) 固定資産について

当社グループでは、有形固定資産や企業買収等によって取得したのれん等の無形固定資産を保有しております。これらの固定資産について、収益性の低下や時価の下落等に伴い資産価値が低下した場合は、減損損失の発生や売却時での売却損の発生により、当社グループの財政状態及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

(9) 資材等調達について

当社グループにおける生産活動において、一部特殊な材料を使用する場合、外注先が限られているものや外注先の切替が困難なものがあります。これらについて供給遅延等が生じた場合には購入費用が増加したり、生産の遅延等により、当社グループの財政状態及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

(10) 品質問題について

当社グループでは、製品の特性に応じて最適な品質が確保できるよう、全力をあげて品質管理に取り組んでいますが、予期せぬ事情によりリコール、訴訟等に発展する品質問題が発生する可能性が皆無とはいえず、当社グループの財政状態及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

(11) 知的所有権について

当社グループは、研究開発活動上様々な知的所有権を使用しており、それらは当社所有のものであるかあるいは適法に使用許諾を受けたものであると認識しておりますが、当社の認識の範囲外で第三者から知的所有権に関する侵害訴訟を提訴される可能性があります。知的所有権を巡っての係争が発生した場合には、当社グループの財政状態及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

(12) 法的規制について

当社グループの生産する製品のうちアイケア事業の一部製品は、医療用具として日本国の薬事法のほか、関係各国の医療用具に関する法的規制を受けており、これらの規制が変更された場合や、事業活動に必要な各国の許認可を適時に取得することができない場合には、当社グループの財政状態及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

(13) 自然災害、事故等について

当社グループが事業展開している地域において、予期せぬ火災、地震、テロ、戦争、疫病等の人災、天災が発生した場合には、人的、物的損害や事業活動の停止等により、当社グループの財政状態及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

(14) 季節的変動について

当社グループの業績は、第4四半期に偏重する傾向があります。

3 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

当連結会計年度における当社グループ(当社、連結子会社及び持分法適用会社)の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フロー(以下、「経営成績等」という。)の状況の概要並びに経営者の視点による当社グループの経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容は次のとおりであります。

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を当連結会計年度の期首から適用しており、財政状態の状況については、当該会計基準等を遡って適用した後の数値で前連結会計年度との比較・分析を行っております。

なお、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において判断したものであります。

(1) 経営成績

当期における経済環境は、日本では内需や個人消費が比較的堅調に伸長しましたが、米国では建設や農業分野において市況の減速が見られ、米中貿易摩擦の激化や米欧の政治的混乱などからの世界的な景気減速が懸念されるなど、不透明な状態が続きました。

このような経済環境にあつて当社グループは、『「医・食・住」に関する社会的課題を解決し、豊かな社会づくりに貢献します。』を経営理念に掲げ、持続的な企業価値向上の実現に取り組んでまいりました。

こうした中で、当期の当社グループの〔連結〕業績は、次のようになりました。

売上高は、主に日本・北米・欧州での増加により、148,688百万円(前年度と比べ2.1%の増加)となりました。

利益面では、この売上高の増加により、営業利益は13,596百万円の利益(前年度と比べ12.6%の増加)となり、経常利益は11,497百万円(前年度と比べ7.7%の増加)となりました。親会社株主に帰属する当期純利益は、当連結会計

年度での特別損失の計上があったものの、繰延税金資産の計上による法人税等の減少の影響等により、6,548百万円(前年度と比べ8.6%の増加)となりました。

セグメント毎の業績は、次のとおりであります。

スマートインフラ事業では、主力のトータルステーションを中心に販売が伸長したことにより、売上高は36,744百万円(前年度と比べ0.3%の増加)となり、営業利益は、原価低減の効果等により6,393百万円の利益(前年度と比べ25.3%の増加)となりました。

ポジショニング・カンパニーでは、主にICT自動化施工システムの販売が堅調に伸長したこと等により、売上高は77,722百万円(前年度と比べ3.7%の増加)となり、営業利益は、成長のための先行投資による費用増があったものの、この売上高の増加により、8,358百万円の利益(前年度と比べ4.2%の増加)となりました。

アイケア事業では、主に日本及びアジア・オセアニアで伸長したことにより、売上高は47,713百万円(前年度と比べ2.6%の増加)となり、営業利益は、この売上高の増加の影響等により2,896百万円の利益(前年度と比べ42.1%の増加)となりました。

生産、受注及び販売の実績は、次のとおりであります。

①生産実績

当連結会計年度における生産実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	生産高(百万円)	前年度比(%)
スマートインフラ事業	30,253	+10.5
ポジショニング・カンパニー	56,237	△1.0
アイケア事業	46,233	+3.7
その他	1,752	△24.5
合計	134,478	+2.6

(注) 金額は販売価格によっており、消費税等は含まれておりません。

②受注実績

当社は見込生産を主体としているため、受注実績の記載を省略しております。

③販売実績

当連結会計年度における販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	販売高(百万円)	前年度比(%)
スマートインフラ事業	36,744	+0.3
ポジショニング・カンパニー	77,722	+3.7
アイケア事業	47,713	+2.6
その他	1,698	△31.9
内部取引消去	△15,190	—
合計	148,688	+2.1

(注) 1 セグメント間の取引については、内部売上高を含めて表示しております。
2 上記の金額は、消費税等を含んでおりません。

(2) 経営者の視点による経営成績等の状況に関する分析・検討内容

当社は当連結会計年度を最終年度とする第二次中期経営計画(2016-2018年度)のもと、重要指標であるROEの改善(15%目標)を目指し、成長戦略の加速に取り組んで参りました。この結果、先端技術や新規事業の開発・開拓のための基盤を固めるべく先行投資を優先させながらも、経営基盤の強化等により第一次中期経営計画の最終年度である2015年度から増益を達成しました。これに伴いROEは2015年度の6.9%から、当連結会計年度では9.8%へと改善を果たしました。第三次中期経営計画(2019-2021年度)においても「医・食・住」の成長事業の推進を加速し、企業価値向上に引き続き取り組んで参ります。

(3) 財政状態

当年度末の資産は、前年度末に比べ459百万円減少し、160,288百万円となりました。流動資産は、「たな卸資産」の減少等があったものの、「売上債権」の増加等により、前年度末に比べ940百万円増加し、96,154百万円となりました。固定資産は、「有形固定資産」の増加等があったものの、「無形固定資産」の減少等により、前年度末に比べ1,399百万円減少し、64,133百万円となりました。

当年度末の負債は、前年度末に比べ3,271百万円減少し、89,139百万円となりました。流動負債は、主に「短期借入金」の減少等により、前年度末に比べ3,483百万円減少し、44,360百万円となりました。固定負債は、主に「退職給付に係る負債」その他により、前年度末に比べ212百万円増加し、44,779百万円となりました。

当年度末の純資産合計は、「利益剰余金」の増加等により、前年度末に比べ2,812百万円増加し、71,148百万円となりました。

(4) キャッシュ・フロー

当年度末における現金及び現金同等物(以下「資金」という)は、固定資産の取得や借入金の返済等による「資金」の減少等があったものの、「税金等調整前当期純利益」等による「資金」の増加等により、前年度末に比べ、236百万円増加し、12,935百万円となりました。

当年度における営業活動による「資金」の増加は、14,511百万円(前年度は14,541百万円の増加)となりました。これは主に、税金等調整前当期純利益、及び未払費用の増加等による「資金」の増加によるものであります。

当年度における投資活動による「資金」の減少は、6,667百万円(前年度は9,053百万円の減少)となりました。これは主に、子会社株式の取得による支出1,604百万円や、有形固定資産及び無形固定資産の取得による支出5,739百万円等によるものであります。

当年度における財務活動による「資金」の減少は、7,797百万円(前年度は7,258百万円の減少)となりました。これは主に、借入金の返済4,695百万円等によるものであります。

(5) 資本の財源及び資金の流動性に係る情報

当社は、営業活動によるキャッシュ・フロー及び自己資金を財源に、M&A投資、設備投資、開発投資等をしていくことを基本方針としておりますが、外部からの資金調達が必要な場合は、特定の手法に限定することなく、最適な資金調達手段を選択して対応してまいります。当連結会計年度におきましては、M&A投資については、眼科向けデータマネジメント会社「KIDE Clinical Systems, Oy.」を買収するなど、事業領域拡大のために投資を行いました。設備投資については、i-Constructionの推進に向け、国内で4拠点目となるトレーニングセンタの増設や業務効率改善等、成長戦略推進と経営効率改善のために必要な投資を行いました。開発投資については、IoTビジネスの創出、新製品開発や次世代技術や新規事業領域に参入するための開発投資を積極的に行いました。これらの投資活動の財源としては、営業活動によるキャッシュ・フローで生成された資金により賄うことが出来ました。今後も成長分野におけるシェア拡大のために、新技術・新事業領域等への投資を継続してまいります。

資金の流動性につきましては、当社及び一部の連結子会社においてCMS(キャッシュマネジメント・サービス)を活用することにより、資金効率の向上を図っております。また、資金調達の機動性及び安定性の確保を目的として取引金融機関とコミットメントライン契約を締結し、流動性リスクに備えております。

当連結会計年度のキャッシュ・フローの概要につきましては、前項「(4) キャッシュ・フロー」を参照ください。また、当社の配当政策につきましては、「第4 提出会社の状況 3 配当政策」に記載しております。

4 【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

5 【研究開発活動】

当社グループは、世界市場におけるVOC(Voice Of Customer、顧客の声)を捉え、本社、並びに米国・欧州における子会社の各技術部門等で、積極的な研究開発活動を行っております。また、新技術の早期確立のために、内外の外部研究機関との交流を活発に行っております。特に広帯域波長に対応できる光学応用技術、GNSS(Global Navigation Satellite System)技術やOCT(Optical Coherence Tomography)技術を含む計測・センシング技術、画像処理などの画像応用技術等のコアコンピタンス研究開発に注力するとともに、近年注目されているAI技術による新たな機能の開発やIoTの将来的な普及を見据えた、クラウドコンピューティング技術などのITソリューションによる事業領域拡大に向けた研究開発投資を行い、各事業分野における技術アドバンテージの強化を目指しております。

当年度におけるグループ全体の研究開発費は、14,014百万円(前年度比8.1%の増加)であり、セグメント毎の研究目的、研究成果、及び研究開発費は次のとおりであります。なお下記のほか、全社共通費用として先端研究開発を行っており、その研究開発費は1,677百万円であります。

(1) スマートインフラ事業

スマートインフラ事業は、自社保有技術の高度化・高機能化への研究開発を鋭意継続すると共に、他に類を見ない高付加価値差異化商品を他社に先駆け市場に投入すべく、新たな技術の研究開発と、そのIT応用に関する研究開発を行っております。

当年度における研究成果は次のとおりであり、当セグメントに係わる研究開発費は、1,729百万円であります。

- ・ UAV空中写真測量においては、自動追尾トータルステーションを用いてカメラ位置を直接計測するTSトラッキング UAS MATRICE 600 PRO for TSをリリースいたしました。3D点群処理ソフトウェアMAGNET Collageとの組み合わせで、標定点測量や対空標識の設置作業を行うことなく安定した計測精度が得られますので、従来に比べ最大6倍の作業効率向上が図れます。
- ・ 3D点群データの処理サービスの業務内容を拡充し、新たに設計データの作成サービスを開始いたしました。国土交通省が推進する『i-Construction』で必要不可欠な3次元設計データの作成・処理は、専門的な知識や経験が必要であり、かつ多くの時間や手間が掛かる業務ですが、この業務をアウトソーシングすることにより、お客様の働き方改革にも貢献できると考え、トプコングループでは今後もサービスの拡充を図り、i-Constructionの普及に向け更なる支援を行ってまいります。

(2) ポジショニング・カンパニー

ポジショニング・カンパニーは、最先端のGNSSコア技術、マシンコントロール(MC)技術、IMU応用技術、精密農業(AG)技術、土地測量応用技術、ウェブ・クラウドコンピューティング技術を基幹として、各事業分野に幅広い製品とサービスを提供するために世界の18拠点で研究開発活動を展開しております。

当年度における研究成果は次のとおりであり、当セグメントに係わる研究開発費は、7,555百万円であります。

- ・ MC分野では、マシンコントロール向けGNSSレシーバーGR-i3をリリース致しました。GR-i3は従来の衛星情報だけでなく、BeidouやQZSSなどより多くの衛星から情報を受信できるようになり、測位環境が向上しました。また、iOSやAndroidで動作する測量ソフトMAGNET Constructの最新版をリリース致しました。引き続き、建設現場での生産性・安全性・品質の改善に貢献する製品の開発を行ってまいります。
- ・ GNSS分野では、Beidou, QZSS, IRNSS信号を受信できるミドルクラスGNSSレシーバーHiPer VR / GRX 3をリリースしました。
- ・ AG分野では、超音波センサーを利用して、正確な深度制御をしながら自動で田畑を耕す事が出来るシステムTillage Depth Controlをリリースしました。また、オートステアリングシステムのナビゲーションやコントロールを行うソフトウェア Horizonの最新バージョンをリリース致しました。今後も農業の効率を高め食糧安保を強化するために革新的な研究開発を続けています。

(3) アイケア事業

アイケア事業は、“人の目の健康への貢献”、特にQuality of Vision(見え方の質)の向上を目指し、眼科医向け及び眼鏡店向けの検査・診断用機器、治療機器、そのIT応用に関する研究開発を行っております。

当年度における研究成果は次のとおりであり、当セグメントに係わる研究開発費は、2,931百万円であります。

- ・3次元眼底像撮影装置3D OCT-1(Type Maestro2)をリリースいたしました。3D OCT-1(Type Maestro2)は、3D OCT-1の後継機であり、OCT Angiographyのフルオート撮影機能及び経過観察を簡単に実施するフォローアップスキャン機能を新たに搭載しています。OCT Angiographyは造影剤を使用することなく眼底の血管像を観察する技術です。さらに3次元的に取得されるOCT画像を使用することより層別に血管構造を観察することが可能です。その他の特徴としてカラー眼底撮影、デジタルレッドフリー撮影が可能で、研究領域のみならず臨床の現場においてもその能力が最大限に発揮することが期待できる装置です。

第3 【設備の状況】

1 【設備投資等の概要】

当年度において実施いたしました当社グループの設備投資の総額は、6,234百万円であります。

各事業セグメント別の設備投資の総額は、スマートインフラ事業で1,370百万円、ポジショニング・カンパニーで2,973百万円、アイケア事業で1,804百万円であり、その主なものは、研究開発、生産体制の整備、業務効率改善、金型等の更新を目的とした投資であります。

生産能力に重要な影響を及ぼすような設備の除却、売却等はありません。

2 【主要な設備の状況】

(1) 提出会社

2019年3月31日現在

事業所名 (所在地)	セグメントの名称	設備の内容	帳簿価額(百万円)						従業員数 (人)
			建物 及び 構築物	機械装置 及び 運搬具	土地 (面積㎡)	リース 資産	その他	合計	
本社工場 (板橋区)	スマートインフラ事 業、アイケア事業	全社管理業務 設備 製造・販売・ 研究開発設備	2,459	287	236 (21,011)	142	6,477	9,602	683 [24]

- (注) 1. 帳簿価額には、建設仮勘定の金額を含んでおりません。
 2. 連結会社以外へ貸与中の土地23百万円を含んでおります。
 3. 現在休止中の主要な設備はありません。
 4. 従業員数の [] は、臨時従業員数を外書しております。
 5. 連結会社以外からの主要な賃借設備の内容は、下記のとおりであります。

2019年3月31日現在

事業所名	セグメント の名称	設備の内容	台数	リース期間	年間リース料 (百万円)	リース契約 残高(百万円)
本社工場	スマートインフラ 事業、アイケア事 業	設計開発用・事務用 コンピュータ、 その他	一式	3～5年	45	142

(2) 国内子会社

2019年3月31日現在

会社名	事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の 内容	帳簿価額(百万円)						従業員数 (人)
				建物 及び 構築物	機械装置 及び 運搬具	土地 (面積㎡)	リース 資産	その他	合計	
㈱トプコン 山形	本社工場 (山形県 山形市)	スマートイン フラ事業、ア イケア事業	製造設備	873	31	557 (43,425)	1	104	1,567	267 [35]
㈱オプトネ クス	本社工場 (福島県 田村市)	スマートイン フラ事業、ア イケア事業	製造設備	123	129	16 (14,404)	13	12	295	157 [10]

- (注) 1. 帳簿価額には、建設仮勘定の金額を含んでおりません。
 2. 現在休止中の主要な設備はありません。
 3. 従業員数の [] は、臨時従業員数を外書しております。

(3) 在外子会社

2019年3月31日現在

会社名	事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の 内容	帳簿価額(百万円)						従業員数 (人)
				建物 及び 構築物	機械装置 及び 運搬具	土地 (面積㎡)	リース 資産	その他	合計	
Topcon Positioning Systems, Inc.	California U. S. A.	ポジショニング・カンパニー	製造・ 販売設備	1,270	853	760 (188,018)	—	346	3,230	865 [—]
Topcon Optical (Dongguan) Technology Ltd.	Guangdong Province China	スマートインフラ事業、アイケア事業、光デバイス事業	製造設備	—	170	—	—	106	276	324 [—]

- (注) 1. 帳簿価額には、建設仮勘定の金額を含んでおりません。
2. 現在休止中の主要な設備はありません。
3. 従業員数の [] は、臨時従業員数を外書しております。

3 【設備の新設、除却等の計画】

(1) 重要な設備の新設等

会社名	事業所名	セグメント の名称	設備の 内容	投資予定額		資金調達 方法	着手年月	完了予定	完成後の 増加能力
				総額 (百万円)	既支払額 (百万円)				
提出 会社	本社 工場	スマートインフラ 事業、アイケア事 業	機械装置他	1,899	—	自己資金	2019年 4月	2020年 3月	品質改善、 合理化、 研究開発
			金型・ 専用工具	591	—	自己資金	2019年 4月	2020年 3月	更新

(注) 上記金額には消費税等は含まれておりません。

(2) 重要な設備の除却等

該当事項はありません。

第4 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

① 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	160,000,000
計	160,000,000

② 【発行済株式】

種類	事業年度末現在 発行数(株) (2019年3月31日)	提出日現在 発行数(株) (2019年6月26日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	108,105,842	108,105,842	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数は100株であります。
計	108,105,842	108,105,842	———	———

(2) 【新株予約権等の状況】

① 【ストックオプション制度の内容】

当社は、ストックオプション制度を採用しております。当該制度は、会社法に基づき新株予約権を発行する方法によるものです。当該制度の内容は、以下のとおりです。

第2回新株予約権（2018年6月27日取締役会決議）

決議年月日	2018年6月27日
付与対象者の区分及び人数(名)	当社取締役 6名
新株予約権の数(個)	250
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式(注) 1
新株予約権の目的となる株式の数(株)	25,000(注) 1
新株予約権の行使時の払込金額(円)	(注) 2
新株予約権の行使期間	(注) 3
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額(円)	(注) 4
新株予約権の譲渡に関する事項	(注) 5
新株予約権の行使の条件	(注) 6
当社が新株予約権を取得する事由及び取得の条件	(注) 7
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	(注) 8

※当事業年度の末日（2019年3月31日）における内容を記載しております。なお、提出日の前月末（2019年5月31日）現在において、これらの事項に変更はありません。

第3回新株予約権（2018年6月27日取締役会決議）

決議年月日	2018年6月27日
付与対象者の区分及び人数(名)	当社執行役員 1名
新株予約権の数(個)	1,000
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式(注) 1
新株予約権の目的となる株式の数(株)	100,000(注) 1

新株予約権の行使時の払込金額(円)	(注) 2
新株予約権の行使期間	(注) 3
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額(円)	(注) 4
新株予約権の譲渡に関する事項	(注) 5
新株予約権の行使の条件	(注) 6
当社が新株予約権を取得する事由及び取得の条件	(注) 7
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	(注) 8

※当事業年度の末日（2019年3月31日）における内容を記載しております。なお、提出日の前月末（2019年5月31日）現在において、これらの事項に変更はありません。

第4回新株予約権（2019年6月26日取締役会決議）

決議年月日	2019年6月26日
付与対象者の区分及び人数(名)	当社取締役 6名 当社執行役員 1名
新株予約権の数(個)	260
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式 (注) 1
新株予約権の目的となる株式の数(株)	26,000 (注) 1
新株予約権の行使時の払込金額(円)	(注) 2
新株予約権の行使期間	(注) 3
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額(円)	(注) 4
新株予約権の譲渡に関する事項	(注) 5
新株予約権の行使の条件	(注) 6
当社が新株予約権を取得する事由及び取得の条件	(注) 7
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	(注) 8

※当事業年度の末日（2019年3月31日）における内容を記載しております。なお、提出日の前月末（2019年5月31日）現在において、これらの事項に変更はありません。

(注) 1 新株予約権の目的である株式は当社普通株式とし、各新株予約権の目的である株式の数（以下、「付与株式数」という。）は新株予約権1個あたり100株とする。

なお、新株予約権を割り当てる日（以下、「割当日」という。）後、当社が普通株式に関する株式分割（株式無償割当てを含む。）又は株式併合を行う場合、次の算式により付与株式数を調整するものとする。但し、かかる調整は、新株予約権のうち、当該時点で行使されていない新株予約権の目的である株式の数について行われ、調整の結果生じる1株未満の端株についてはこれを切り捨てるものとする。

調整後付与株式数＝調整前付与株式数×株式分割・株式併合の比率

上記のほか、付与株式数の調整をする必要がある場合には、当社取締役会が必要と認める調整を行う。

(注) 2 新株予約権の行使に際して出資される財産の価額は、以下の通りである。

(1) 第2回、第4回新株予約権

新株予約権の行使により交付を受けることができる株式1株あたり1円とし、これに割当株式数を乗じた金額とする。

(2) 第3回新株予約権

新株予約権の行使により交付を受けることができる株式1株あたり、2018年3月の各日の東京証券取引所における当社普通株式の普通取引の終値の平均値（1円未満の端数は切り上げ）である2,202円とし、これに割当株式数を乗じた金額とする。

- (注) 3 新株予約権の行使期間は以下の通りである。
- (1) 第2回、第4回新株予約権
新株予約権割当日の1年後の応当日を権利行使期間の始期とし、権利行使期間の始期から10年後の応当日を権利行使期間の終期とする。
- (2) 第3回新株予約権
2021年7月1日から2026年6月30日まで
- (注) 4 新株予約権の行使により株式を発行する場合において増加する資本金及び資本準備金については次のとおりとする。
- ①新株予約権の行使により株式を発行する場合における増加する資本金の額は、会社計算規則第17条第1項に従い算出される資本金等増加限度額の2分の1の金額とし、計算の結果生じる1円未満の端数は、これを切り上げる。
- ②新株予約権の行使により株式を発行する場合における増加する資本準備金の額は、前記①記載の資本金等増加限度額から前記①に定める増加する資本金の額を減じた額とする。
- (注) 5 譲渡による新株予約権の取得については、取締役会の決議による承認を要する。
- (注) 6 新株予約権の行使にあたっては、下記(1)ないし(2)の区分に応じて、それぞれその全ての条件が成就されていることを要する。
- (1) 第2回、第4回新株予約権
- ①新株予約権者が割当日から1年以上、割当日に就任していた役職と同等以上の役職に継続して就任していること（但し、割当日から1年以内に行われる定時株主総会の終了時において任期が満了する者については、当該任期満了時まで継続して就任していたこと。）。
- ②新株予約権者において当社就業規則に定める各懲戒事由相当の事実が発生していないこと並びに当社の定める内部規律及び当社と締結している契約に違反していないと当社が認めること。
- ③前記3(1)に定める権利行使期間内に新株予約権者が死亡した場合においては、その配偶者（配偶者が存しない場合においては法定相続人のうち最年長の者）又は当社が別途認めた者が、新株予約権者の死亡した日から3か月以内に、当社の定める方式にて行使すること。
- (2) 第3回新株予約権
- ①新株予約権者は、2021年3月期における新株予約権者が担当する当社の事業（以下「担当事業」という）の連結売上高を指標とし、当社取締役会で決定した段階的な目標値を超過した場合に、それぞれ定められた割合の個数の新株予約権を行使することができるものとする。
- ②新株予約権者が自己の責に帰すべき事由以外的事由により解任された場合または当社が担当事業の全部を第三者に譲渡した場合であって、かかる解任日または譲渡日が一定の期間中の場合、新株予約権者は、当該解任日または譲渡日の属する事業年度の前事業年度における担当事業の連結売上高を指標とし、当社取締役会で決定した段階的な目標値を超過した場合に、それぞれ定められた割合の個数の新株予約権を行使することができるものとする。
- ③新株予約権者が、自己の責に帰すべき事由により解任された場合その他新株予約権割当契約書に定める場合、新株予約権者は新株予約権を行使することはできない。
- ④前記3(2)に定める権利行使期間内に新株予約権者が死亡した場合においては、その配偶者（配偶者が存しない場合においては法定相続人のうち最年長の者）又は当社が別途認めた者が、新株予約権者の死亡した日から3か月以内に、当社の定める方式にて行使する場合に限り、新株予約権の行使を認めるものとする。
- ⑤その他の新株予約権の行使に関する条件については、新株予約権の募集事項を決定する取締役会の決議に基づき、当社と新株予約権を引き受けようとする者との間で締結する「新株予約権割当契約書」に定めるところによる。
- (注) 7 当社が新株予約権を取得する事由及び取得の条件
- (1) 第2回、第4回新株予約権
当社取締役会が定める場合のほか、当社は、新株予約権を、下記①の場合については①の決算が取締役会において承認された日以降において、下記②から④の場合は当該事実が発生した時点以降において、取締役会で別途定める日に、無償で取得することができるものとする。
- ①割当日の属する事業年度の当社の連結損益計算書において当期純損失となった場合。
- ②当社の組織再編等において当社取締役会が必要と認めた場合。
- ③新株予約権者において当社就業規則に定める各懲戒事由相当の事実が発生した、当社の定める内部規律又は当社と締結している契約に違反した等と当社が認めた場合。
- ④新株予約権者が当社から解任された場合。
- (2) 第3回新株予約権
- ①当社は、新株予約権者が前記6(2)に定める権利行使条件を充たさず新株予約権の全部または一部を行使し得なくなった場合、取締役会で別途定める日に、かかる新株予約権を無償で取得することができるものとする。
- ②当社は、当社の組織再編等において当社取締役会が必要と認めた場合、当社の取締役会が別途定める日に、新株予約権を無償で取得することができるものとする。

(注) 8 組織再編行為に伴う新株予約権の交付に関する事項

当社が、合併（当社が合併により消滅する場合に限る）、吸収分割若しくは新設分割（それぞれ当社が分割会社となる場合に限る）または株式交換若しくは株式移転（それぞれ当社が完全子会社となる場合に限る）（以上を総称して以下、「組織再編行為」という）をする場合には、組織再編行為の効力発生日（吸収合併につき吸収合併がその効力を生ずる日、新設合併につき新設合併設立株式会社の成立の日、吸収分割につき吸収分割がその効力を生ずる日、新設分割につき新設分割設立株式会社の成立の日、株式交換につき株式交換がその効力を生ずる日及び株式移転につき株式移転設立完全親会社の成立の日）をいう。以下同じ）の直前において残存する新株予約権（以下、「残存新株予約権」という）を保有する新株予約権者に対し、それぞれの場合につき、会社法第236条第1項第8号のイからホまでに掲げる株式会社（以下、「再編対象会社」という）の新株予約権をそれぞれ交付することとする。ただし、以下の各号に沿って再編対象会社の新株予約権を交付する旨を、吸収合併契約、新設合併契約、吸収分割契約、新設分割計画、株式交換契約または株式移転計画において定めることを条件とする。

① 交付する再編対象会社の新株予約権の数

新株予約権者が保有する残存新株予約権の数と同一の数をそれぞれ交付する。

② 新株予約権の目的である再編対象会社の株式の種類

再編対象会社の普通株式とする。

③ 新株予約権の目的である再編対象会社の株式の数

組織再編行為の条件等を勘案の上、前記1に準じて決定する。

④ 新株予約権の行使に際して出資される財産の価額

交付される各新株予約権の行使に際して出資される財産の価額は、以下に定められる再編後行使価額に前記③に従って決定される当該新株予約権の目的である再編対象会社の株式の数を乗じて得られる金額とする。再編後行使価額は、交付される各新株予約権を行使することにより交付を受けることができる再編対象会社の株式1株当たり下記の金額とする。

(1) 第2回、第4回新株予約権

1円

(2) 第3回新株予約権

2,202円

⑤ 新株予約権を行使することができる期間

前記3に定める新株予約権を行使することができる期間の開始日と組織再編行為の効力発生日のうちいずれか遅い日から、前記3に定める新株予約権を行使することができる期間の満了日までとする。

⑥ 新株予約権の行使により株式を発行する場合における増加する資本金及び資本準備金に関する事項

前記4に準じて決定する。

⑦ 譲渡による新株予約権の取得の制限

譲渡による新株予約権の取得については、再編対象会社の取締役会の決議による承認を要する。

⑧ 新株予約権の取得条項

前記7に準じて決定する。

⑨ その他の新株予約権の行使の条件

前記6に準じて決定する。

② 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

③ 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
2018年8月8日(注)	20,000	108,105,842	19	16,658	19	19,147

(注) 新株予約権の行使による増加であります。

(5) 【所有者別状況】

2019年3月31日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数100株)							単元未満 株式の状況 (株)	
	政府及び 地方公共 団体	金融機関	金融商品 取引業者	その他の 法人	外国法人等		個人 その他		計
					個人以外	個人			
株主数 (人)	—	45	55	159	294	11	14,491	15,055	—
所有株式数 (単元)	—	406,390	18,957	20,602	499,962	185	134,619	1,080,715	34,342
所有株式数 の割合(%)	—	37.60	1.75	1.90	46.26	0.01	12.45	100.00	—

- (注) 1. 自己株式2,074,411株は「個人その他」に20,744単元及び「単元未満株式の状況」に11株含まれております。
 なお、自己株式2,074,411株は株主名簿記載上の株式数であり、期末日現在の実質的な所有株式数であります。
2. 上記「その他の法人」の中には、証券保管振替機構名義の株式が90単元含まれております。

(6) 【大株主の状況】

2019年3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 (自己株式を 除く。)の 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
日本トラスティ・サービス信託 銀行株式会社(信託口)	東京都中央区晴海1丁目8-11	8,356	7.88
SSBTC CLIENT OMNIBUS ACCOUNT (常任代理人 香港上海銀行東 京支店カスタディ業務部)	米国、マサチューセッツ (東京都中央区日本橋3丁目11-1)	7,967	7.51
日本マスタートラスト信託銀行 株式会社(信託口)	東京都港区浜松町2丁目11番3号	7,571	7.14
第一生命保険株式会社 (常任代理人 資産管理サービ ス信託銀行株式会社)	東京都千代田区有楽町1丁目13-1 (東京都中央区晴海1丁目8-12晴海アイラ ンドトリトンスクエアオフィスタワーZ棟)	4,350	4.10
THE BANK OF NEW YORK MELLON 140051(常任代理人 株式会社 みずほ銀行決済営業部)	米国、ニューヨーク (東京都港区港南2丁目15-1品川インター シティA棟)	3,602	3.39
JPMC OPPENHEIMER JASDEC LENDING ACCOUNT(常任代理人 株式会社三菱UFJ銀行)	米国、コロラド (東京都千代田区丸の内2丁目7-1)	3,298	3.11
日本トラスティ・サービス信託 銀行株式会社(信託口9)	東京都中央区晴海1丁目8-11	2,870	2.70
日本トラスティ・サービス信託 銀行株式会社(信託口5)	東京都中央区晴海1丁目8-11	2,105	1.98
資産管理サービス信託銀行株式 会社(証券投資信託口)	東京都中央区晴海1丁目8-12晴海トリ トンスクエアタワーZ	2,071	1.95

SAJAP (常任代理人 株式会社三菱UFJ銀行)	サウジアラビア、リヤド (東京都千代田区丸の内2丁目7-1)	1,984	1.87
計	————	44,179	41.67

- (注) 1. 大株主は、2019年3月31日現在の株主名簿に基づくものであります。
2. ベイリー・ギフォード・アンド・カンパニー及びその共同保有者から2018年11月21日付で公衆の縦覧に供されている大量保有報告書(変更報告書)により、2018年11月15日現在で以下の株式を所有している旨が記載されているものの、当社として2019年3月31日現在における実質所有株式数の確認ができませんので、上記大株主の状況に含めておりません。
- なお、大量保有報告書(変更報告書)の内容は以下のとおりであります。

氏名又は名称	住所	保有株券等の数 (千株)	株券等保有割合 (%)
ベイリー・ギフォード・アンド・カンパニー(Baillie Gifford & Co)	カルトン・スクエア、1グリーンサイド・ロウ、エジンバラ EH1 3AN スコットランド	4,229	3.91
ベイリー・ギフォード・オーバースーズ・リミテッド(Baillie Gifford Overseas Limited)	カルトン・スクエア、1グリーンサイド・ロウ、エジンバラ EH1 3AN スコットランド	6,255	5.79
計	————	10,484	9.70

3. キャピタル・リサーチ・アンド・マネージメント・カンパニー及びその共同保有者から2019年4月3日付で公衆の縦覧に供されている大量保有報告書(変更報告書)により、2019年3月27日現在で以下の株式を所有している旨が記載されているものの、当社として2019年3月31日現在における実質所有株式数の確認ができませんので、上記大株主の状況に含めておりません。また、当該株主は前事業年度末現在においては主要株主に該当していましたが、当事業年度末においては主要株主に該当しなくなりました。
- なお、大量保有報告書(変更報告書)の内容は以下のとおりであります。

氏名又は名称	住所	保有株券等の数 (千株)	株券等保有割合 (%)
キャピタル・リサーチ・アンド・マネージメント・カンパニー(Capital Research and Management Company)	米国カリフォルニア州、ロスアンジェルス、サウスホープ・ストリート333	7,664	7.09
キャピタル・インターナショナル・リミテッド (Capital International Limited)	英国SW1X 7GG、ロンドン、グロスヴェノー・プレイス40	150	0.14
キャピタル・インターナショナル・インク (Capital International, Inc.)	米国カリフォルニア州90025、ロスアンジェルス、サンタ・モニカ通り11100、15階	157	0.15
キャピタル・インターナショナル株式会社	東京都千代田区丸の内二丁目1番1号 明治安田生命ビル14階	1,733	1.60
キャピタル・インターナショナル・エス・エイ・アール・エル (Capital International Sarl)	スイス国、ジュネーヴ1201、プラス・デ・ベルグ3	178	0.17
計	————	9,884	9.14

4. アセットマネジメントOneより2018年10月22日付で公衆の縦覧に供されている大量保有報告書により、2018年10月15日現在で以下の株式を保有している旨が記載されているものの、当社として2019年3月31日現在における実質所有株式数の確認ができませんので、上記大株主の状況に含めておりません。
- なお、大量保有報告書の内容は以下のとおりであります。

氏名又は名称	住所	保有株券等の数 (千株)	株券等保有割合 (%)
アセットマネジメントOne株式会社	東京都千代田区丸の内一丁目8番2号	5,618	5.20
計	————	5,618	5.20

(7) 【議決権の状況】

① 【発行済株式】

2019年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式(その他)	—	—	—
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 2,074,400	—	—
完全議決権株式(その他)	普通株式 105,997,100	1,059,971	—
単元未満株式	普通株式 34,342	—	—
発行済株式総数	108,105,842	—	—
総株主の議決権	—	1,059,971	—

- (注) 1. 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式が9,000株含まれております。また、「議決権の数」欄には同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数90個が含まれております。
2. 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式11株が含まれております。

② 【自己株式等】

2019年3月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数の 合計(株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社トプコン	東京都板橋区蓮沼町 75番1号	2,074,400	—	2,074,400	1.92
計	—	2,074,400	—	2,074,400	1.92

2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】

会社法第155条第7号による普通株式の取得

(1) 【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2) 【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

区分	株式数(株)	価額の総額(百万円)
当事業年度における取得自己株式	374	0
当期間における取得自己株式	92	0

- (注) 当期間における取得自己株式数には、2019年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式を含めておりません。

(4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額 (円)	株式数(株)	処分価額の総額 (円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式	—	—	—	—
消却の処分を行った取得自己株式	—	—	—	—
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式	—	—	—	—
その他	—	—	—	—
保有自己株式数	2,074,411	—	2,074,503	—

(注) 当期間における保有自己株式数には、2019年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式を含めておりません。

3 【配当政策】

当社は、株主への利益還元として、配当を重視し、主に「連結」業績の伸長に対応して、安定的な配当を継続することを、利益配分に関する基本方針としております。

剰余金の配当につきましては、中間配当と期末配当の年2回の配当を行なうことを基本としております。また、株主総会の決議によらず、取締役会の決議によること、及び、期末配当の基準日を毎年3月31日、中間配当の基準日を毎年9月30日とし、この他にも基準日を定めて剰余金の配当を行なうことができる旨、定款に定めております。

当年度の剰余金の配当につきましては、連結業績は前年度実績からの増益を達成することができましたことから、計画通り、中間配当を1株当たり12円（前年度中間配当10円）実施いたしましたのに加え、期末配当を1株当たり12円（前年度期末配当10円）とし、合わせて年間24円（前年度配当20円）の配当とさせていただきます。

内部留保資金の使途については、研究開発投資や設備投資等、将来の積極的な事業展開に有効に活用してまいります。

なお、当期に係る剰余金の配当は以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)
2018年10月31日 取締役会決議	1,272	12.00
2019年5月21日 取締役会決議	1,272	12.00

4 【コーポレート・ガバナンスの状況等】

(1) 【コーポレート・ガバナンスの概要】

①コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

当社は、当社及びその関係会社で構成されるトップコングループ（以下、「当社グループ」という）の役員・社員が共有すべき価値観、判断軸と行動の基本原則である「TOPCON WAY」に基づき、当社グループの持続的な成長と中長期的な企業価値の向上を実現するため、TOPCONコーポレートガバナンス・ガイドラインを制定し、実効性のあるコーポレートガバナンスを実現します。

②コーポレート・ガバナンス体制の概要

1. 機関設計

当社は、会社法上の機関設計として、監査役会設置会社を選択しております。監査役会と、内部監査部門である「経営監査室」とは、事前かつ相互に監査計画や監査方針等につき協議し、年度中、定期的に情報交換を行うなどの相互連携を図り、監査役の業務の効率性・実効性を高めております。

2. 取締役会

i) 取締役会の役割・責務

取締役会は、当社グループの持続的な成長と中長期的な企業価値の向上のために、株主に対する受託者責任を認識し、「経営の健全性の維持」「経営の透明性の確保」に加え、「経営効率の向上」を正しく達成し、当社グループの企業経営に関わるすべてのステークホルダーに対する社会的責任を果たすよう行動しております。

- ・取締役会は、上記の責任を果たすため、当社グループの業績等の評価、内部統制システム、リスク管理体制の適切な整備・運用その他経営全般に関する監督を独立した客観的な立場から行っております。
- ・取締役会は、法令・定款に定めのある事項その他経営に関する重要事項の意思決定を行い、その意思決定に基づく業務執行体制として執行役員制度を設け、執行役員に日常の業務執行を委ねております。執行役員は、当社グループの事業分野において必要とされる知識・経験の有無を考慮し、取締役会の決議により選任しております。
- ・取締役会は、監査役又は会計監査人が不正を発見し適切な対応を求めた場合や、不備・問題点を指摘した場合の対応体制を確立しております。
- ・取締役会は、取締役会全体の実効性について分析・評価を行い、結果の概要を開示しております。

ii) 取締役会の構成

- ・取締役会は、取締役9名（うち社外取締役3名）で構成されております。

（構成員の氏名）

平野 聡（議長、代表取締役社長）、岩崎 眞（代表取締役）、江藤隆志（取締役）、福間康文（取締役）、秋山治彦（取締役）、山崎貴之（取締役）、松本和幸（社外取締役）、須藤 亮（社外取締役）、山崎直子（社外取締役）

- ・当社は、複数の独立社外取締役を選任し、独立社外取締役が取締役会において独立かつ客観的な立場から意見を述べることにより、経営の監督体制を確保しております。
- ・取締役会は、専門知識や経験等のバックグラウンドが異なる多様な取締役で構成するとともに、取締役会の意思決定及び監督機能を効果的に発揮できる適切な員数を維持しております。

iii) 内部統制

取締役会は、適切な統制のもとで迅速な業務執行が行われるようにするため、内部統制システムの整備に関する基本方針を定め、コンプライアンス、財務報告の適正性の確保、リスクマネジメント等のための当社グループの体制構築と運用状況を監督しております。

- ・当社は、内部監査部門として「経営監査室」を設け、内部管理体制の適正性や有効性を検証し、重要な事項があれば取締役会等に適時に報告する体制を整備しております。
- ・当社は、「リスク・コンプライアンス基本規程」を定め、当社グループに生ずるあらゆるリスクに、その内容に応じ、適時・適切に対応し得る危機管理体制を整備しております。
- ・当社は、取締役の競業取引及び取締役と会社の取引その他両者の利益が相反する取引について、取締役会の

承認事項としております。

3. 監査役会

i) 監査役会の役割・責務

監査役会は、株主に対する受託者責任を認識し、当社グループの持続的な成長と中長期的な企業価値の向上に向けて企業の健全性を確保し、株主共同の利益のために行動しております。

・監査役会は、監査役4名(うち社外監査役2名)で構成されております。

(構成員の氏名)

中村昭久(議長、常勤監査役)、三竹昭則(常勤監査役)、黒柳達弥(社外監査役)、竹谷敬治(社外監査役)

・当社は、透明性や公正性の確保の観点から、監査役会の半数以上を独立社外監査役としております。また、監査役は、適切な経験・能力及び必要な財務・会計・法務に関する知見を有している者を選任し、特に、財務・会計に関する十分な知見を有している者を1名以上選任しております。

・監査役会は、社外取締役及び内部監査部門と連携しております。

ii) 会計監査人及び内部監査部門との関係

監査役会、会計監査人及び内部監査部門と連携し、十分かつ適正な監査を行うことができる体制を確保しております。

・監査役会は、会計監査人を適切に選定し、評価するための評価基準及び選任基準を策定し、独立性と専門性について確認しております。

・監査役会は、会計監査人又は内部監査部門が不正を発見し適切な対応を求めた場合や、不備・問題点を指摘した場合に対応する体制を確立しております。

4. 会計監査人

会計監査人は、当社グループの財務情報の信頼性を担保する重要な役割を担い、株主や投資家に対して責務を負います。

・会計監査人は、監査役会と連携し、適正な監査を行うことができる体制を確保しております。

・会計監査人は、独立性と専門性を確保しております。

・会計監査人は、会計監査を適正に行うために必要な監査の品質管理の基準を遵守しております。

5. 報酬諮問委員会

当社は、取締役の報酬等の取り扱いに係る客観性・透明性を確保することを目的として、取締役会から独立した報酬諮問委員会を設置しております。

・報酬諮問委員会は、代表取締役社長、独立社外取締役1名及び独立社外監査役1名の計3名で構成されております。

(構成員の氏名)

松本和幸(委員長、独立社外取締役)、平野 聡(代表取締役社長)、黒柳達弥(独立社外監査役)

・報酬諮問委員会は、取締役会の諮問に応じて、取締役会に対して提言を行っております。

6. 内部監査部門等

当社は、内部監査部門として「経営監査室」を設け、以下のとおり内部管理体制の適切性や有効性を検証しております。経営監査室は、5名で構成されております。

・経営監査室は、当社グループにおけるコーポレートガバナンス・リスクマネジメントの向上に資することを目的とし、当社グループの内部監査に関する業務を掌り、コンプライアンス等の内部管理体制の適正性や有効性を検証し、重要な問題事項があれば、取締役会、監査役会及び代表取締役社長へ適時に報告する体制を整備しております。

・経営監査室は、監査役及び会計監査人と連携しております。

・経営監査室は、当社の内部通報に関し、リスク情報の早期発見及び迅速・適切な通報内容への対応を行っております。

7. 取締役及び監査役

i) 取締役

取締役は、株主に対する受託者責任を認識し、当社グループの持続的な成長と中長期的な企業価値の向上に向けて、取締役としての職務を執行しております。

- ・取締役は、取締役会の一員として、業務執行取締役及び執行役員による業務執行を監督しております。
- ・取締役は、その職務を執行するために十分な情報を収集するとともに、取締役会において説明を求め、積極的に発言し、自由闊達で建設的な議論を行っております。
- ・取締役は、その役割・責務を適切に果たすために積極的に情報を収集し、必要な場合には、当社の負担において外部の専門家の助言を得ております。
- ・取締役は、他の会社の役員等を兼任する場合は合理的な範囲に留め、当社における役割と責務を適切に果たすための時間を確保しております。
- ・当社は、インセンティブとして、当社グループの持続的な成長と中長期的な企業価値の向上に向けた中長期業績連動報酬を採用しております（社外取締役を除く）。

ii) 監査役

監査役は、株主に対する受託者責任を認識し、当社グループの持続的な成長と中長期的な企業価値の向上に向けて企業の健全性を確保し、監査役としての職務を執行しております。

- ・監査役は、監査役会が定めた監査の方針及び監査の分担に従い、取締役会をはじめとした当社の重要な会議に出席し、取締役等から職務の執行状況の報告、資料・情報の提供を受け、内部監査部門及び会計監査人との連携を図り、取締役及び執行役員等の職務執行状況を監査しております。
- ・監査役は、取締役会の意思決定及び内部統制システムの構築と運用状況を監査しております。
- ・監査役は、当社の重要な会議への出席等により監査に必要な情報を積極的に収集し、必要に応じて取締役に對して適切に意見を述べております。
- ・監査役は、その役割・責務を適切に果たすために積極的に情報を収集し、必要な場合には、当社の負担において外部の専門家の助言を得ております。
- ・監査役は、他の会社の役員等を兼任する場合は合理的な範囲に留め、当社における役割と責務を適切に果たすための時間を確保しております。

iii) 独立社外取締役及び独立社外監査役

独立社外取締役及び独立社外監査役は、執行の監督、当社グループの持続的な成長と中長期的な企業価値の向上を図るための助言、利益相反の監督を行うとともに、少数株主をはじめとするステークホルダーの意見を取締役会に反映しております。

- ・独立社外取締役は3名、独立社外監査役は2名であります。
- ・独立社外取締役は、当社グループの事業に関する事項及びコーポレートガバナンスについて情報を共有し、各取締役、執行役員、監査役との意見交換を行っております。
- ・当社は、金融商品取引所が定める独立性要件を満たす社外取締役及び社外監査役を選任しております。
- ・独立社外取締役及び独立社外監査役は、定期的な会合の開催等により、独立した客観的な立場に基づく情報交換、認識共有に努めております。

iv) 支援体制

当社は、以下のとおり、取締役及び監査役がその役割・責務を果たすための実効的かつ十分な支援体制を整備しております。

- ・取締役会で十分な議論が可能となるよう、以下のとおり取締役会を運営しております。
 - 1) 取締役会の年間スケジュールを作成し、審議事項の年間計画を立てております。
 - 2) 取締役会において十分な議論ができる適切な審議時間を設定しております。
 - 3) 取締役会の審議事項に関する資料を、十分に先立って配付しております。
 - 4) 上記に限らず、取締役が意思決定に必要な情報並びに監査役がその職務遂行に必要な情報を随時提供しております。
- ・監査役の職務の補助、その他監査役の活動を支援するべく、必要に応じて補助者を選任し、監査役の求める会社情報の提供や、社内連携の調整を行っております。

- ・社外取締役及び社外監査役の職務の執行に必要な情報提供を求められた場合、積極的に情報を提供しております。
- ・取締役及び監査役の職務の執行に必要と認められる予算を確保しております。

v) トレーニングの方針

当社は、以下のとおり、取締役及び監査役がその役割・責務を適切に果たすために必要な事業活動に関する情報、知識を提供しております。

- ・取締役又は監査役が新たに就任する際は、当社グループの事業に関連する法令やコーポレートガバナンスに関する研修を実施し、就任後においても、これらの研修を継続的に実施しております。
- ・上記に加えて、社外取締役又は社外監査役が新たに就任する際は、当社グループの事業・組織等に関する内容を説明し、就任後においても当社グループの事業戦略や対処すべき課題等について、必要な情報を継続的に提供しております。

③現状のコーポレート・ガバナンスの体制を採用する理由

当社は、複数の社外取締役を選任し、経営に外部の視点を直接取り入れ、監督機能の充実を図っております。また、監査役（社外監査役含む）、監査役会及び会計監査人を設置し、これらが内部監査部門である経営監査室と連携して監査を行うことにより、経営の監視機能が十分に機能すると判断しているため、現状の体制を採用しております。

④コーポレートガバナンスに関するその他の事項

1. 内部統制システムの整備の状況

i) 取締役及び使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制

- 1) トプコングループ共通の価値観である「TOPCON WAY」、及びその具体的な行動指針である「トプコングローバル行動基準」を定め、会社記念日等あらゆる機会に経営トップからグループ全役員・全従業員に対し、その重要性を認識させ、また、日常の教育活動を通じて周知徹底を図っております。
- 2) 当社及びグループ会社全体に影響を及ぼす重要事項は、取締役会において決定しております。取締役の職務の執行に関する監督機能の維持、強化のため社外取締役を選任しております。
- 3) 「内部通報制度」の活用により、問題の早期発見と、適時適切な対応の充実に努めております。
- 4) 内部監査部門として社長直属の「経営監査室」を設け、コンプライアンス等の内部管理体制の適正性・有効性を検証し、重要な問題事項があれば、社長・取締役会へ適時に報告する体制を整備しております。
- 5) 業務遂行状況の可視化を通じての透明性の確保、重要な会社情報の開示についての適時適正性を担保するための体制づくり、及び業務プロセスの改革を図っております。
- 6) 職務執行に当たっては、法令遵守を第一として徹底し、特に、独占禁止法関係・輸出管理・インサイダー取引規制・個人情報や秘密情報の保護、環境保護等の側面では、個別に社内規程や管理体制を整備しております。
- 7) 「トプコングローバル行動基準」に反社会的勢力との関係の遮断に関する指針を定め、反社会的勢力の事業活動への関与の拒絶を全社に徹底しております。

ii) 取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制

- 1) 法令及び定款、並びに「取締役会規程」、「執行役員会規程」、「グループガバナンス規程」、「情報セキュリティ基本規程」、「文書取扱規程」、「書類保存基準（規則）」等の社内規程に基づいて、取締役会及び執行役員会の議事録とそれらの資料、並びに稟議書等の重要書類を適切に保存・管理しております。（当社は、執行役員制度を採用しているため、ここにいる「職務の執行に係る情報」には、取締役会のみならず、執行役員会に係る情報等が含まれております。）
- 2) 取締役、監査役、会計監査人及びそれらに指名された使用人が、必要に応じ重要書類を閲覧できる体制を整備しております。

iii) 損失の危険の管理に関する規程その他の体制

- 1) 「リスク・コンプライアンス基本規程」を定め、危機管理責任者を設けて、当社及びグループ会社に生ずるあらゆるリスクに、その内容に応じ、適時適切に対応し得る体制を整備しております。
- 2) 通常の職制を通じたルートとは別に、リスクの発見者から、リスク情報を、直接に連絡出来る「内部通報

制度」を導入し、これにより、リスク情報の早期発見に資し、発生事態への迅速・適切な対応に役立てるとともに、グループ会社も含む全役員・全従業員のリスク管理への認識向上に努めております。なお、「内部通報制度」は、内部監査部門である「経営監査室」が所管しております。

- 3) 個人情報の保護については「個人情報保護基本規程」、また秘密情報の取扱については「情報セキュリティ基本規程」を、それぞれ、その下部規程類を含めて整備し、グループ会社を含めて、その周知徹底を図っております。
- iv) 取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制
 - 1) 取締役会は、毎月1回(その他臨時に)開催され、経営の基本方針や、法令、定款に定めのある事項、その他経営に関する重要事項について審議し、報告を受けることにより、監督機能の強化に努めております。
 - 2) 執行役員に日常の業務執行を委ねるとともに、執行役員会を設置し、社内規程に基づく社長の決裁権限の範囲内で重要な業務執行案件の審議、決定を行うことによって、取締役会における十分かつ実質的な議論を確保し、迅速な意思決定が出来る体制を整備しております。
 - 3) 「取締役会規程」、「執行役員会規程」、「グループガバナンス規程」、「業務組織規程」等の規程類に定められた適正な手続に則って、それぞれの業務が執行されております。
- v) 当該株式会社並びにその親会社及び子会社からなる企業集団における業務の適正を確保するための体制
 - 1) トプコングループ共通の価値観である「TOPCON WAY」を通じて、各国、各地域のグループの全役員・全従業員が国境や会社の枠を超えて、グループの価値観・判断基準を共有しております。また、その具体的な行動指針である「トプコングローバル行動基準」を、当社内への徹底はもとより、グループ会社にも採択させ、法令遵守の認識を確立させております。
 - 2) 当社及びグループ会社を対象とした「グループガバナンス規程」を制定し、決裁基準及び報告事項を明確に定め、これを徹底するとともに、年度中、幾度もの事業遂行状況報告の場を設けて、トプコングループ内における情報共有化と、グループ会社に対する遵法認識の向上のための指導に努めております。
 - 3) 当社の内部監査部門である「経営監査室」は、監査役による監査、会計監査人による監査等とも連携して、グループ会社についても監査し、業務の適正の確保に役立てております。
 - 4) 財務報告の信頼性及び適正性を確保するため、当社及びグループ会社は金融商品取引法の定めに従い、内部統制の環境整備及び運用体制の構築を行うとともに、内部統制システムの有効性を継続的に評価し必要な是正を行っております。
- vi) 監査役がその職務を補助すべき使用人を置くことを求めた場合における当該使用人に関する事項
監査役の求めに応じ、内部監査部門である「経営監査室」に属する使用人を、随時、監査役の職務の補助に当たらせております。
- vii) 監査役がその職務を補助すべき使用人の取締役からの独立性に関する事項
監査役がその職務を補助に当たる「経営監査室」の使用人による当該業務については、取締役、執行役員の間と外とするとともに、当該使用人の人事異動に関しては、予め監査役会と協議しております。
- viii) 取締役及び使用人が監査役に報告をするための体制その他監査役への報告に関する体制
 - 1) 監査役が、意思決定のプロセスの監査を行うために、取締役会、執行役員会、その他の社内重要会議に出席し、あるいは、会議議事録、その他資料を閲覧して情報を収集する体制を整備しております。
 - 2) 監査役が、年度中、当社内の各業務執行部門から、その業務の状況につき、報告を聴取し、またグループ会社に赴き、その業務の状況を監査出来る体制を確保しております。
 - 3) 監査役は、上記のほか、何時にても必要に応じ、当社及びグループ会社の、取締役・執行役員・使用人に対し、業務の報告を受けることが出来ます。
 - 4) 監査役に対しては、経営監査室より内部監査に関わる状況とその監査結果の報告を行い、連携と効率化を図っております。
- ix) その他監査役がその職務を補助すべき使用人の取締役からの独立性に関する事項
監査役が、取締役会、執行役員会その他の社内重要会議に出席するほか、会社(グループ会社を含む)の業務執行状況を定期的に監査する機会を確保し、職務補助に当たらせる者を指名するなど、取締役の職務執行に対する監査役監査が十分に行えるよう、取締役会には配慮しております。
 - 2) 監査役と取締役との定期的な意見交換の場を設け、監査役の意見を経営判断に適正に反映させる機会を確保しております。

3) 監査役と会計監査人とは情報・意見交換の場を設置しております。

2. 責任限定契約の内容の概要

当社は、各社外取締役及び各社外監査役との間で、会社法第427条第1項及び定款の規定に基づき、任務を怠ったことによる損害賠償責任を法令に定める最低責任限度額に限定する契約を締結しております。

3. 取締役の定数

当社の取締役は、17名以内とする旨を定款で定めております。

4. 取締役の選任の決議要件

当社は、取締役の選任決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨を定款で定めております。

また、取締役の選任決議は、累積投票によらない旨も定款で定めております。

5. 株主総会決議事項を取締役会で決議できるとした事項

i) 自己の株式の取得

当社は、機動的な資本政策の遂行を可能とするため、会社法第165条第2項の定めにより、取締役会の決議をもって、自己の株式を取得することができる旨を定款で定めております。

ii) 剰余金の配当等

当社は、株主への機動的な利益還元等を可能とするため、剰余金の配当等、会社法第459条第1項各号に定める事項については、法令に別段の定めのある場合を除き、株主総会の決議によらず、取締役会の決議により定める旨を定款で定めております。

6. 取締役会決議事項を株主総会では決議できないとした事項

当社は、株主への機動的な利益還元等を可能とするため、剰余金の配当等、会社法第459条第1項各号に定める事項については、法令に別段の定めのある場合を除き、株主総会の決議によらず、取締役会の決議により定める旨を定款で定めております。

7. 株主総会の特別決議要件

当社は、株主総会における特別決議の定足数確保をより確実にするため、会社法第309条第2項に定める株主総会の特別決議要件について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨を定款で定めております。

(2) 【役員の状況】

①役員一覧

男性12名 女性1名 (役員のうち女性の比率7.6%)

役職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (株)
代表取締役 取締役社長	平野 聡	1957年12月12日生	1982年4月 1996年4月 2001年7月 2007年6月 2010年6月 2012年6月 2013年6月	当社入社 Topcon Laser Systems, Inc. 副社長 Topcon Positioning Systems, Inc. 席副社長 当社執行役員 当社取締役兼執行役員 当社ポジショニングビジネスユニット長 当社取締役兼常務執行役員 当社代表取締役社長 CEO(現任)	注4	32,433
代表取締役 専務執行役員 品質保証本部長 総務・法務統括部長	岩崎 眞	1955年8月10日生	1979年4月 2000年6月 2010年6月 2011年6月 2012年4月 2014年4月 2014年6月 2015年6月 2016年4月 2017年4月 2018年4月 2018年11月	当社入社 当社生産・環境グループ部品工場長 当社執行役員 当社品質・生産グループ統括 当社生産グループ統括 当社総務・法務統括部長 当社取締役兼執行役員 当社取締役兼常務執行役員 当社取締役兼専務執行役員 当社代表取締役兼専務執行役員(現任) 当社製造本部長 当社総務・法務統括部長(現任) 当社品質保証本部長(現任)	注4	14,670
取締役 常務執行役員 スマートインフラ 事業本部長 経営企画本部長	江藤 隆志	1960年2月18日生	1990年4月 2007年6月 2009年7月 2013年6月 2014年4月 2015年4月 2015年6月 2016年4月 2018年4月	当社入社 ㈱トプコン販売取締役社長 当社ポジショニングビジネスユニット グローバル事業企画部部長 当社執行役員 当社スマートインフラ・カンパニー 副社長 当社アイケア・カンパニー副長 当社アイケア・カンパニー長 当社取締役兼執行役員 当社取締役兼常務執行役員(現任) 当社営業本部長 当社スマートインフラ事業本部長 (現任) 当社経営企画本部長(現任)	注4	16,990
取締役 常務執行役員 R&D本部長	福間 康文	1958年2月13日生	1981年4月 2007年4月 2011年6月 2013年6月 2014年4月 2015年4月 2017年4月 2018年4月	当社入社 Topcon Medical Systems, Inc. Topcon Advanced Biomedical Imaging Laboratory ゼネラルマネージャー 当社執行役員 当社取締役兼執行役員 当社アイケア・カンパニー社長 当社アイケア・カンパニー長 当社技術本部長 当社取締役兼常務執行役員(現任) 当社R&D本部長(現任)	注4	16,013

役職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (株)
取締役 上席執行役員 財務本部長	秋山 治彦	1963年2月25日生	1986年4月 2005年6月 2014年4月 2014年6月 2015年4月 2015年6月 2016年4月 2019年6月	当社入社 当社総務・経理グループ財務グループ 部長 当社経理統括部次長 当社執行役員 当社経理本部次長 当社取締役兼執行役員 当社経理本部長 当社財務本部長(現任) 当社取締役兼上席執行役員(現任)	注4	13,908
取締役 上席執行役員 製品開発本部長	山崎 貴之	1966年8月10日生	1989年4月 2006年10月 2012年6月 2014年4月 2014年6月 2016年6月 2018年4月 2019年6月	当社入社 Topcon Positioning Systems, Inc. 上席副社長 当社経営戦略室 経営企画部部長 当社経営企画部上席部長 当社執行役員 当社経営企画室長 当社取締役兼執行役員 当社製品開発本部長(現任) 当社取締役兼上席執行役員(現任)	注4	11,406
取締役	松本 和幸	1945年9月21日生	1970年4月 2000年6月 2001年6月 2003年9月 2004年6月 2005年6月 2011年6月 2013年6月	帝人製機(株)(現ナブテスコ(株))入社 同社執行役員 同社取締役 ナブテスコ(株)執行役員 同社取締役執行役員 同社技術本部副本部長(技術開発担当) 同社代表取締役社長 同社取締役会長 当社取締役(現任) (株)キッツ社外取締役(現任)	注4	5,000
取締役	須藤 亮	1951年9月11日生	1980年4月 2007年6月 2008年6月 2010年6月 2011年6月 2013年6月 2014年6月 2016年6月 2017年6月 2018年5月	東京芝浦電気(株)(現(株)東芝)入社 同社電力システム社統括技師長 同社執行役常務(研究開発センター 所長) 同社執行役上席常務(研究開発センター 所長) 同社執行役専務 同社取締役代表執行役副社長 同社常任顧問 当社取締役(現任) (株)東芝技術シニアフェロー (株)東芝特別嘱託(現任) 内閣府科学技術政策参与(現任)	注4	—

役職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (株)
取締役	山崎直子	1970年12月27日生	1996年4月	宇宙開発事業団（現国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構（JAXA））入社（2011年8月退職）	注4	—
			2001年9月	国際宇宙ステーション搭乗宇宙飛行士として認定		
			2004年5月	ソユーズ宇宙船フライトエンジニア（運航技術者）の資格取得		
			2006年2月	スペースシャトル搭乗運用技術者（MS）の資格取得		
			2010年4月	スペースシャトル・ディスカバリー号に、ミッションスペシャリストとして搭乗し、国際宇宙ステーション（ISS）組立補給ミッションに従事		
			2011年9月	全国珠算教育連盟名誉会長（現任）		
			2012年4月	立命館大学客員教授（現任）		
			2012年7月	内閣府宇宙政策委員会委員（現任）		
			2013年5月	女子美術大学客員教授（現任）		
			2015年7月	日本ロケット協会理事（現任）兼「宙女（そらじょ）」委員会委員長（現任）		
			2015年12月	ロボット国際競技大会実行委員会諮問会議メンバー（現任）		
			2016年3月	ナプテスコ（株）社外取締役（現任）		
			2017年9月	（株）オプトラン社外取締役（現任）		
			2018年6月	当社取締役（現任）		
			2018年7月	（一社）スペースポートジャパン代表理事（現任）		
常勤監査役	中村昭久	1961年3月26日生	1985年4月	当社入社	注5	7,624
			2002年10月	Topcon Singapore Pte. Ltd. 社長		
			2010年4月	当社ポジショニングビジネスユニット ポジショニングアジア営業部部長		
			2015年4月	Topcon Sokkia India Pvt. Ltd. 社長		
			2017年6月	当社執行役員		
			2017年8月	Topcon Singapore Holdings Pte. Ltd. 社長		
			2019年4月	当社社長付		
			2019年6月	当社監査役（現任）		
常勤監査役	三竹昭則	1961年1月29日生	1984年4月	（株）測機舎（現（株）ソキア・トプコン）入社	注5	1,009
			1997年4月	Sokkia Corporation (U.S.A.) 副社長		
			2004年4月	（株）ソキア（現（株）ソキア・トプコン） 経理部長		
			2011年6月	当社経理グループ主査兼（株）ソキア・ トプコン財務部長		
			2015年4月	当社経営監査室経営監査部		
			2016年4月	Topcon (Beijing) Opto-Electronics Development Corporation 総経理		
			2017年4月	当社経営監査室経営監査部		
			2018年6月	当社監査役（現任）		

役職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (株)
監査役	黒柳達弥	1956年11月7日生	1979年4月 1999年3月 2001年5月 2007年5月 2009年8月 2011年6月	三菱商事(株)入社 同社金融事業本部企業投資部投資チーム リーダー、ミレニア・ベンチャー・パー トナーズ(株)代表取締役社長兼務 ミレニア・ベンチャー・パートナーズ(株) 代表取締役社長 (株)RHJインターナショナル・ジャパン エグゼクティブ・ディレクター (株)カドタ・アンド・カンパニー シニア・アドバイザー(現任) 当社監査役(現任)	注5	5,000
監査役	竹谷敬治	1956年7月8日生	1980年4月 2006年4月 2010年6月 2015年9月 2016年6月 2017年6月	ソニー(株)入社 同社CICR推進室(内部統制主幹)部長 ソニーセミコンダクタ(株)常勤監査役 ソニー(株)リスク&コントロール部 シニアアドバイザー 当社監査役(現任) (株)探採社外監査役(常勤)(現任)	注5	—
計						124,053

- (注) 1. 取締役松本和幸、須藤 亮及び山崎直子は社外役員(会社法施行規則第2条第3項第5号)に該当する社外取締役(会社法第2条第15号)であります。
2. 監査役黒柳達弥及び竹谷敬治は社外役員(会社法施行規則第2条第3項第5号)に該当する社外監査役(会社法第2条第16号)であります。
3. 当社は、法令に定める監査役の数に欠けることになる場合に備え、会社法第329条第3項に定める補欠監査役1名を選任しております。補欠監査役の略歴は次のとおりであります。

氏名	生年月日	略歴		所有株式数 (株)
門多丈	1947年4月18日生	1971年7月 2003年4月 2007年4月 2007年6月 2009年9月 2019年1月	三菱商事(株)入社 同社金融事業本部長 (株)カドタ・アンド・カンパニー代表取締役社長(現任) (株)八十二銀行社外監査役(現任) (一社)実践コーポレートガバナンス研究会代表理事 (現任) GPSSホールディングス(株)社外取締役(現任)	—

4. 取締役の任期は、2019年3月期に関する定時株主総会の終結時から2020年3月期に関する定時株主総会の終結時までであります。
5. 監査役の任期は、2019年3月期に関する定時株主総会の終結時から2023年3月期に関する定時株主総会の終結時までであります。
6. 当社は執行役員制度を導入しております。上記の執行役員を兼務している取締役を除く執行役員は、専務執行役員 ポジショニング・カンパニー長(Topcon Positioning Systems, Inc. 社長) Raymond O' Connor、常務執行役員 アイケア事業本部長 大上二三雄、上席執行役員 製造本部長 塚田正三、製品開発本部副長 熊谷薫、アイケア事業本部副長 荻野滋洋、広報・IR室長 平山貴昭、スマートインフラ事業本部副長 笠信之、(Topcon America Corporation 社長) David Alan Mudrick、(Topcon Positioning Systems, Inc. 最高戦略責任者) Ivan Di Federico、(Topcon Europe Medical B.V. 社長) Eric Franken、製造本部副長(株式会社トプコン山形社長) 定近一史、品質保証本部副長 西澤裕之、(Topcon Medical Systems, Inc. Topcon Advanced Biomedical Imaging Laboratory 研究所長) Kinpui Chan、経営監査室長 一木信夫、総務・法務統括部副長 渡邊玲子、製造本部副長 二宮康之、(Topcon Healthcare Solutions Inc. 社長) 馬場昭文、経営企画本部副長 伊藤嘉邦となっております。
7. 上記所有株式数には、トプコン役員持株会名義の実質所有株式数が含まれております。なお、2019年6月分の持株会による取得株式数については、この有価証券報告書提出日現在確認ができないため、2019年5月31日現在の実質所有株式数を記載しております。

②社外役員の状況

- ・当社の社外取締役は3名、社外監査役は2名であります。
- ・当社は、複数の独立社外取締役を選任し、独立社外取締役が取締役会において独立かつ客観的な立場から意見を述べることにより、経営の監督体制を確保しております。
- ・取締役会は、専門知識や経験等のバックグラウンドが異なる多様な取締役で構成するとともに、取締役会の意思決定及び監督機能を効果的に発揮できる適切な員数を維持しております。
- ・当社は、透明性や公正性の確保の観点から、監査役会の半数以上を独立社外監査役としております。また、監査役

は、適切な経験・能力及び必要な財務・会計・法務に関する知見を有している者を選任し、特に、財務・会計に関する十分な知見を有している者を1名以上選任しております。

- ・当社は、金融商品取引所が定める独立性要件を満たす社外取締役及び社外監査役を選任しております。
- ・社外取締役及び社外監査役と当社との間には、特別な人的関係、資本的关系又は取引関係その他の利害関係はありません。
- ・独立社外取締役及び独立社外監査役は、執行の監督、当社グループの持続的な成長と中長期的な企業価値の向上を図るための助言、利益相反の監督を行うとともに、少数株主をはじめとするステークホルダーの意見を取締役会に反映しております。

③社外取締役または社外監査役による監督又は監査と内部監査、監査役監査及び会計監査との相互連携並びに内部統制部門との関係

- ・独立社外取締役は、当社グループの事業に関する事項及びコーポレートガバナンスについて情報を共有し、各取締役、執行役員、監査役との意見交換を行っております。
- ・独立社外取締役及び独立社外監査役は、定期的な会合の開催等により、独立した客観的な立場に基づく情報交換、認識共有に努めております。
- ・監査役会は、社外取締役及び内部監査部門と連携しております。
- ・監査役会は、会計監査人及び内部監査部門と連携し、十分かつ適正な監査を行うことができる体制を確保しております。
- ・監査役会は、会計監査人を適切に選定し、評価するための評価基準及び選任基準を策定し、独立性と専門性について確認しております。
- ・監査役会は、会計監査人または内部監査部門が不正を発見し適切な対応を求めた場合や、不備・問題点を指摘した場合に対応する体制を確立しております。
- ・会計監査人は、監査役会と連携し、適正な監査を行うことができる体制を確保しております。
- ・当社は、内部監査部門として「経営監査室」を設け、以下のとおり内部管理体制の適切性や有効性を検証しております。
- ・経営監査室は、当社グループにおけるコーポレートガバナンス・リスクマネジメントの向上に資することを目的とし、当社グループの内部監査に関する業務を掌り、コンプライアンス等の内部管理体制の適正性や有効性を検証し、重要な問題事項があれば、取締役会、監査役会及び代表取締役社長へ適時に報告する体制を整備しております。
- ・経営監査室は、監査役及び会計監査人と連携しております。

(3) 【監査の状況】

① 監査役監査の状況

1. 監査役会

i) 監査役会の役割・責務

監査役会は、株主に対する受託者責任を認識し、当社グループの持続的な成長と中長期的な企業価値の向上に向けて企業の健全性を確保し、株主共同の利益のために行動しております。

- ・監査役会は、監査役4名(うち社外監査役2名)で構成されております。
- ・当社は、透明性及び公正性の確保の観点から、監査役会の半数以上を独立社外監査役としております。また、監査役は、適切な経験・能力及び必要な財務・会計・法務に関する知見を有している者を選任し、特に、財務・会計に関する十分な知見を有している者を1名以上選任しております。
- ・監査役三竹昭則氏は、長年にわたる財務及び会計業務の経験を、監査役黒柳達弥氏は、長年にわたる金融関係業務の経験を、監査役竹谷敬治氏は、長年にわたる経営管理業務の経験をそれぞれ有し、各氏は財務及び会計に関する相当程度の知見を有しております。
- ・監査役会は、社外取締役及び内部監査部門と連携しております。

ii) 会計監査人及び内部監査部門との関係

監査役会、会計監査人及び内部監査部門と連携し、十分かつ適正な監査を行うことができる体制を確保しております。

- ・監査役会は、会計監査人を適切に選定し、評価するための評価基準及び選任基準を策定し、独立性と専門性について確認しております。
- ・監査役会は、会計監査人又は内部監査部門が不正を発見し適切な対応を求めた場合や、不備・問題点を指摘した場合に対応する体制を確立しております。

2. 監査役

監査役は、株主に対する受託者責任を認識し、当社グループの持続的な成長と中長期的な企業価値の向上に向けて企業の健全性を確保し、監査役としての職務を執行しております。

- ・監査役は、監査役会が定めた監査の方針及び監査の分担に従い、取締役会をはじめとした当社の重要な会議に出席し、取締役等から職務の執行状況の報告、資料・情報の提供を受け、内部監査部門及び会計監査人との連携を図り、取締役及び執行役員等の職務執行状況を監査しております。
- ・監査役は、取締役会の意思決定及び内部統制システムの構築と運用状況を監査しております。
- ・監査役は、当社の重要な会議への出席等により監査に必要な情報を積極的に収集し、必要に応じて取締役に對して適切に意見を述べております。
- ・監査役は、その役割・責務を適切に果たすために積極的に情報を収集し、必要な場合には、当社の負担において外部の専門家の助言を得ております。
- ・監査役は、他の会社の役員等を兼任する場合は合理的な範囲に留め、当社における役割と責務を適切に果たすための時間を確保しております。

② 内部監査の状況

当社は、内部監査部門として「経営監査室」を設け、以下のとおり内部管理体制の適切性及び有効性を検証しております。経営監査室は、5名で構成されております。

- ・経営監査室は、当社グループにおけるコーポレートガバナンス・リスクマネジメントの向上に資することを目的とし、当社グループの内部監査に関する業務を掌り、コンプライアンス等の内部管理体制の適正性及び有効性を検証し、重要な問題事項があれば、取締役会、監査役会及び代表取締役社長へ適時に報告する体制を整備しております。
- ・経営監査室は、監査役及び会計監査人と連携しております。
- ・経営監査室は、当社の内部通報に関し、リスク情報の早期発見及び迅速・適切な通報内容への対応を行っております。

③ 会計監査の状況

a. 監査法人の名称

EY新日本有限責任監査法人

b. 業務を執行した公認会計士

指定有限責任社員 業務執行社員：古杉裕亮、腰原茂弘、市川亮悟

c. 監査業務に係る補助者の構成

公認会計士11名、会計士試験合格者等12名、その他14名

d. 監査法人の選定方針と理由

当社監査役会は、会計監査人の評価・選定基準を策定しており、会計監査人の独立性・専門性・監査体制・欠格事由の有無・監査の実施状況や品質等に関する情報を収集した後に、当該基準に定める事項に基づいて監査役会の協議において評価を行っています。その結果、上記記載の会計監査人の独立性・専門性・監査体制・監査の実施状況・品質等を妥当と認め、経営執行部門から会計監査人選解任に関する意見聴取を行い、当該会計監査人を再任することを適当であると判断致しました。

当社監査役会は、会計監査人の職務の執行に支障がある場合等、その必要があると判断した場合に、株主総会に提出する会計監査人の解任又は不再任に関する議案の内容を決定いたします。

また、監査役会は上記の場合のほか、会計監査人が会社法第340条第1項各号のいずれかに該当すると認められる場合に、監査役全員の同意に基づき監査役会が会計監査人を解任いたします。この場合、監査役会が選定した監査役は、解任後最初に招集される株主総会において、会計監査人を解任した旨と解任の理由を報告いたします。

e. 監査役及び監査役会による監査法人の評価

当社監査役会は、日本監査役協会の「会計監査人の評価及び選定基準策定に関する監査役等の実務指針」に定める評価・選定基準を参照した会計監査人に対する選定・評価基準を策定し、当該基準に定める事項に基づいて監査役の協議において評価を行っております。その結果、当該会計監査人を再任することを適当であると判断致しました。

④ 監査報酬の内容等

a. 監査公認会計士等に対する報酬の内容

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)
提出会社	118	—	85	—
連結子会社	—	—	—	—
計	118	—	85	—

b. 監査公認会計士等と同一のネットワークに属する組織に対する報酬 (a. を除く)

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)
提出会社	—	9	—	11
連結子会社	243	143	280	169
計	243	152	280	180

提出会社及び連結子会社における非監査業務の内容は、主に、税務に関する支援・助言業務等であります。

c. その他の重要な監査証明に基づく報酬の内容

該当事項はありません。

d. 監査報酬の決定方針

当社の会計監査人に対する監査報酬につきましては、当社の規模、業務特性等を勘案し、適切な監査日数、工数を見積り、これに基づき、監査報酬の額を決定しております。

e. 監査役会が会計監査人の報酬等に同意した理由

当社監査役会は、取締役、社内関係部門及び会計監査人より必要な資料の入手、報告を受けた上で、会計監査人の監査計画の内容、会計監査の職務遂行状況、報酬見積もりの算定根拠について確認し、審議した結果、これらについて適切であると判断したため、会社法第399条第1項の同意をしております。

(4) 【役員の報酬等】

① 役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針に係る事項

当社は、取締役の報酬等の取り扱いに係る客観性・透明性を確保することを目的として、社外取締役を委員長とし、委員の過半数を社外役員で構成する報酬諮問委員会を設置しております。報酬諮問委員会は、取締役会の諮問に応じて、取締役会に対して提言を行っております。

各取締役の報酬等の額は、株主総会の決議により決定した取締役の報酬額の総額の範囲内で、取締役会の決議により決定している取締役の報酬に関する方針に基づく報酬諮問委員会の審議、提言を踏まえ、取締役会の決議により決定しております。また、各監査役の報酬等の額は、株主総会の決議により決定した監査役の報酬額の範囲内で、監査役の協議により決定しております。

取締役(社外取締役を除く)の報酬等は、役位に応じた固定報酬と、当該事業年度の一定の指標を基準に算定する業績連動報酬により構成されております。また、業績連動報酬は、当事業年度の実績に基づく短期業績連動報酬、中期経営計画期間の累計実績に基づく中期業績連動報酬及び長期的な業績向上に対する意欲や士気を一層高めるためのストックオプションにより構成されております。社外取締役及び監査役の報酬等は固定報酬のみとなっております。

取締役の業績連動報酬は、取締役の業績向上に対する意欲や士気を高め、株主との利害の一致を図るため、連結の親会社株主に帰属する当期純利益及びROE等に基づき算定しております。当事業年度の実績は、親会社株主に帰属する当期純利益65億円、ROE9.8%、第二次中期経営計画の累計実績は、親会社株主に帰属する当期純利益169億円、ROE9.0%(平均)となっております。

当社の取締役の報酬額は、2018年6月27日開催の第125期定時株主総会決議により、総額を年額800百万円以内(固定部分を400百万円以内、当該事業年度の一定の指標を基準に算定する業績連動部分を年額400百万円以内)とし、そのうち社外取締役の総額を年額100百万円以内(固定部分のみ)と定められております。また、当該決議時の対象となる取締役の員数は9名(うち社外取締役3名)となります。

当社の監査役の報酬額は、2013年6月26日開催の第120期定時株主総会の決議により、年額100百万円以内と定められております。また、当該決議時の対象となる監査役の員数は4名(うち社外監査役2名)となります。

当事業年度の取締役の報酬等の額の決定に係る報酬諮問委員会は2018年6月及び2019年5月(2回)に、取締役会は2018年6月にそれぞれ開催しております。また、2018年7月以降の監査役の報酬等の額の決定に係る監査役の協議は、2018年6月に実施しております。

② 役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (百万円)	報酬等の種類別の総額(百万円)			対象となる 役員の員数 (人)
		固定報酬	業績連動報酬	退職慰労金	
取締役(社外取締役を除く。)	312	178	134	—	6
監査役(社外監査役を除く。)	32	32	—	—	3
社外役員	43	43	—	—	5

- (注) 1. 監査役(社外監査役を除く。)の員数には、2018年6月27日開催の第125期定時株主総会の終結の時をもって退任した監査役1名が含まれております。
2. 取締役の報酬等の総額には、使用人兼務取締役の使用人分給与は含まれておりません。
3. 当社は、2009年6月26日開催の第116期定時株主総会の終結の時をもって役員退職慰労金制度を廃止しております。

③ 報酬等の総額が1億円以上である者の報酬等の総額等

氏名	役員区分	会社区分	報酬等の総額 (百万円)	報酬等の種類別の額(百万円)		
				固定報酬	業績連動報酬	退職慰労金
平野 聡	取締役	提出会社	126	78	48	—

(5) 【株式の保有状況】

① 投資株式の区分の基準及び考え方

当社は、保有目的が純投資目的である投資株式と純投資目的以外の目的である投資株式の区分について、専ら株式の価値の変動又は株式に係る配当によって利益を受けることを目的とする投資を純投資目的である投資株式とし、それ以外の投資を純投資目的以外の目的である投資株式と区分しております。

② 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式

a. 保有方針及び保有の合理性を検証する方法並びに個別銘柄の保有の適否に関する取締役会等における検証の内容

当社は、政策保有株式については、事業活動を営むうえで必要である安定的な調達や取引の維持・強化に該当する場合において保有します。取引状況等、中長期的な経済合理性を検証し、売却も含め保有の合理性について取締役会にて適宜見直しを行い、当社グループの中長期的な企業価値向上につながると判断できる場合に限り、政策保有株式を保有するものとしております。当事業年度においては、2018年12月開催の取締役会において、取引状況や中長期的な経済合理性を検証し、売却も含め株式保有の合理性について見直しを行いました。

b. 銘柄数及び貸借対照表計上額

	銘柄数 (銘柄)	貸借対照表計上額の 合計額(百万円)
非上場株式	7	380
非上場株式以外の株式	13	2,297

(当事業年度において株式数が増加した銘柄)

	銘柄数 (銘柄)	株式数の増加に係る取得 価額の合計額(百万円)	株式数の増加の理由
非上場株式	1	99	事業上の関係の維持のため。
非上場株式以外の株式	—	—	

(当事業年度において株式数が減少した銘柄)

	銘柄数 (銘柄)	株式数の減少に係る売却 価額の合計額(百万円)
非上場株式	—	—
非上場株式以外の株式	1	1

c. 特定投資株式及びみなし保有株式の銘柄ごとの株式数、貸借対照表計上額等に関する情報

特定投資株式

銘柄	当事業年度	前事業年度	保有目的、定量的な保有効果 及び株式数が増加した理由	当社の 株式の 保有の 有無
	株式数(株)	株式数(株)		
	貸借対照表 計上額(百万円)	貸借対照表 計上額(百万円)		
㈱オハラ	673,600	673,600	硝材購入元として主要取引先であり、円滑、 且つ継続的な材料供給を受けるため。	有
	852	1,700		
東芝機械㈱ (注) 1	214,000	1,070,000	レンズ加工機関連の主要な取引先であり、円滑、 且つ継続的な取引強化のため。	有
	476	800		
日本電子㈱ (注) 1	208,000	416,000	技術関連の主要な取引先であり、円滑、且つ 継続的な取引強化のため。	有
	414	407		
㈱三菱UFJ フィナンシャル・グループ	195,910	195,910	事業活動を営む上で必要な安定的資金調達等 の維持・強化や国内外の情報収集のため。	有
	107	136		
㈱群馬銀行	101,500	101,500	事業活動を営む上で必要な安定的資金調達等 の維持・強化や国内外の情報収集のため。	有
	42	61		
愛眼㈱	60,492	60,492	主要な販売先であり、円滑、且つ継続的な取 引強化のため。	有
	18	28		
西尾レントオール㈱	48,338	48,338	主要な販売先であり、円滑、且つ継続的な取 引強化のため。	無
	154	157		
㈱三城ホールディングス	43,579	45,679	主要な販売先であり、円滑、且つ継続的な取 引強化のため。	無
	17	23		
㈱三井住友 フィナンシャルグループ	22,930	22,930	事業活動を営む上で必要な安定的資金調達等 の維持・強化や国内外の情報収集のため。	有
	88	102		
福井コンピュータ㈱	20,000	20,000	主要な販売先であり、円滑、且つ継続的な取 引強化のため。	有
	41	47		
三井住友トラスト ホールディングス㈱	12,260	12,260	事業活動を営む上で必要な安定的資金調達等 の維持・強化や国内外の情報収集のため。	有
	48	52		
㈱小松製作所	10,000	10,000	主要な販売先であり、円滑、且つ継続的な取 引強化のため。	無
	25	35		
清水建設㈱	10,000	10,000	主要な販売先であり、円滑、且つ継続的な取 引強化のため。	無
	9	9		

(注) 1 東芝機械(株)は、当事業年度において株式併合(5株を1株に併合)を実施しております。
日本電子(株)は、当事業年度において株式併合(2株を1株に併合)を実施しております。

みなし保有株式

該当事項はありません。

③ 保有目的が純投資目的である投資株式

該当事項はありません。

④ 当事業年度中に投資株式の保有目的を純投資目的から純投資目的以外の目的に変更したもの

該当事項はありません。

⑤ 当事業年度中に投資株式の保有目的を純投資目的以外の目的から純投資目的に変更したもの

該当事項はありません。

第5 【経理の状況】

1. 連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

(1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和51年大蔵省令第28号。以下「連結財務諸表規則」という。)に基づいて作成しております。

なお、当連結会計年度(2018年4月1日から2019年3月31日まで)の連結財務諸表に含まれる比較情報のうち、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則等の一部を改正する内閣府令」(平成30年3月23日内閣府令第7号。以下「改正府令」という。)による改正後の連結財務諸表規則第15条の5第2項第2号及び同条第3項に係るものについては、改正府令附則第3条第2項により、改正前の連結財務諸表規則に基づいて作成しております。

(2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。)に基づいて作成しております。

なお、当社は、特例財務諸表提出会社に該当し、財務諸表等規則第127条の規定により財務諸表を作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度(2018年4月1日から2019年3月31日まで)の連結財務諸表及び事業年度(2018年4月1日から2019年3月31日まで)の財務諸表について、EY新日本有限責任監査法人により監査を受けております。

なお、EY新日本有限責任監査法人は2018年7月1日をもって新日本有限責任監査法人から名称変更しております。

3. 連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みを行っております。具体的には、会計基準等の内容を適切に把握し、又、会計基準等の変更等についての的確に対応することができる体制を整備するため、公益財団法人財務会計基準機構へ加入するとともに、同機構等が主催する研修等へ参加しております。

1 【連結財務諸表等】

(1) 【連結財務諸表】

① 【連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当連結会計年度 (2019年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	14,316	13,894
受取手形及び売掛金	※4 44,647	※4 45,609
商品及び製品	19,019	18,509
仕掛品	1,863	1,377
原材料及び貯蔵品	10,545	11,254
その他	6,788	7,608
貸倒引当金	△1,967	△2,098
流動資産合計	95,214	96,154
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	7,014	7,085
機械装置及び運搬具（純額）	2,247	2,455
土地	2,592	2,813
建設仮勘定	412	525
その他（純額）	3,633	4,070
有形固定資産合計	※1 15,900	※1 16,950
無形固定資産		
のれん	14,771	13,162
ソフトウェア	8,627	10,122
その他	12,064	9,130
無形固定資産合計	35,464	32,415
投資その他の資産		
投資有価証券	※2 5,031	※2 3,961
長期貸付金	204	419
繰延税金資産	7,949	9,272
その他	1,025	1,144
貸倒引当金	△43	△30
投資その他の資産合計	14,168	14,767
固定資産合計	65,533	64,133
資産合計	160,747	160,288

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当連結会計年度 (2019年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	※4 12,384	※4 11,990
短期借入金	17,776	13,563
リース債務	670	641
未払費用	7,814	9,829
未払法人税等	1,519	1,420
製品保証引当金	1,075	1,069
その他	6,603	5,846
流動負債合計	47,843	44,360
固定負債		
社債	20,000	20,000
長期借入金	10,449	10,497
リース債務	4,390	3,853
繰延税金負債	2,942	2,622
役員退職慰労引当金	48	57
退職給付に係る負債	5,883	6,391
その他	853	1,356
固定負債合計	44,567	44,779
負債合計	92,411	89,139
純資産の部		
株主資本		
資本金	16,638	16,658
資本剰余金	20,799	20,819
利益剰余金	33,464	37,595
自己株式	△2,090	△2,091
株主資本合計	68,811	72,981
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,757	879
繰延ヘッジ損益	△7	5
為替換算調整勘定	△4,158	△3,776
退職給付に係る調整累計額	△1,228	△1,051
その他の包括利益累計額合計	△3,637	△3,943
新株予約権	29	47
非支配株主持分	3,133	2,063
純資産合計	68,336	71,148
負債純資産合計	160,747	160,288

② 【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】

【連結損益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2017年 4月 1日 至 2018年 3月 31日)	当連結会計年度 (自 2018年 4月 1日 至 2019年 3月 31日)
売上高	145,558	148,688
売上原価	※1, ※3 70,574	※1, ※3 70,173
売上総利益	74,984	78,515
販売費及び一般管理費	※2, ※3 62,910	※2, ※3 64,918
営業利益	12,073	13,596
営業外収益		
受取利息	136	165
受取配当金	49	65
その他	258	361
営業外収益合計	444	592
営業外費用		
支払利息	947	1,041
持分法による投資損失	117	67
為替差損	214	501
その他	563	1,081
営業外費用合計	1,842	2,692
経常利益	10,674	11,497
特別利益		
事業譲渡益	※4 141	—
段階取得に係る差益	91	—
債務消滅益	—	※7 148
特別利益合計	233	148
特別損失		
事業構造改革費用	※5 304	—
投資有価証券評価損	268	—
減損損失	※6 1,128	※6 2,772
固定資産除却損	—	※8 497
特別退職金	—	254
関係会社退職給付制度終了損	—	※9 294
関係会社清算損	—	※10 827
無償修理費用	—	522
特別損失合計	1,702	5,167
税金等調整前当期純利益	9,205	6,478
法人税、住民税及び事業税	4,648	2,611
法人税等調整額	△1,068	△1,783
法人税等合計	3,579	827
当期純利益	5,625	5,650
非支配株主に帰属する当期純損失 (△)	△402	△897
親会社株主に帰属する当期純利益	6,028	6,548

【連結包括利益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2017年 4 月 1 日 至 2018年 3 月 31 日)	当連結会計年度 (自 2018年 4 月 1 日 至 2019年 3 月 31 日)
当期純利益	5,625	5,650
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	※1 1,017	※1 △878
繰延ヘッジ損益	※1 △48	※1 12
為替換算調整勘定	※1 △192	※1 247
退職給付に係る調整額	※1 831	※1 176
持分法適用会社に対する持分相当額	※1 1	※1 △5
その他の包括利益合計	※1 1,609	※1 △446
包括利益	7,235	5,203
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	7,518	6,242
非支配株主に係る包括利益	△283	△1,038

③ 【連結株主資本等変動計算書】

前連結会計年度(自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)

(単位：百万円)

	株主資本					その他の包括利益累計額					新株予約権	非支配株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	繰延ヘッジ損益	為替換算調整勘定	退職給付に係る調整累計額	その他の包括利益累計額合計			
当期首残高	16,638	20,950	29,344	△2,089	64,844	740	40	△3,849	△2,059	△5,127	—	3,596	63,313
当期変動額													
剰余金の配当			△1,908		△1,908								△1,908
親会社株主に帰属する当期純利益			6,028		6,028								6,028
自己株式の取得				△1	△1								△1
在外関係会社の支配継続子会社に対する持分変動		△151			△151								△151
その他			△0		△0								△0
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)						1,017	△48	△309	831	1,490	29	△463	1,056
当期変動額合計	—	△151	4,119	△1	3,966	1,017	△48	△309	831	1,490	29	△463	5,023
当期末残高	16,638	20,799	33,464	△2,090	68,811	1,757	△7	△4,158	△1,228	△3,637	29	3,133	68,336

当連結会計年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

(単位：百万円)

	株主資本					その他の包括利益累計額					新株予約権	非支配株主持分	純資産合計	
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	繰延ヘッジ損益	為替換算調整勘定	退職給付に係る調整累計額	その他の包括利益累計額合計				
当期首残高	16,638	20,799	33,464	△2,090	68,811	1,757	△7	△4,158	△1,228	△3,637	29	3,133	68,336	
会計方針の変更による累積的影響額			△83		△83								△75	△159
会計方針の変更を反映した当期首残高	16,638	20,799	33,380	△2,090	68,727	1,757	△7	△4,158	△1,228	△3,637	29	3,057	68,176	
当期変動額														
剰余金の配当			△2,332		△2,332								△2,332	
親会社株主に帰属する当期純利益			6,548		6,548								6,548	
自己株式の取得				△0	△0								△0	
その他	19	19	△0		38								38	
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)						△878	12	382	176	△305	17	△993	△1,282	
当期変動額合計	19	19	4,214	△0	4,253	△878	12	382	176	△305	17	△993	2,971	
当期末残高	16,658	20,819	37,595	△2,091	72,981	879	5	△3,776	△1,051	△3,943	47	2,063	71,148	

④ 【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2017年 4月 1日 至 2018年 3月 31日)	当連結会計年度 (自 2018年 4月 1日 至 2019年 3月 31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	9,205	6,478
減価償却費	5,408	5,983
のれん償却額	2,651	2,145
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	268	66
受取利息及び受取配当金	△185	△231
支払利息	947	1,041
有形固定資産除却損	33	21
投資有価証券評価損益 (△は益)	268	—
持分法による投資損益 (△は益)	117	67
段階取得に係る差損益 (△は益)	△91	—
事業譲渡損益 (△は益)	△141	—
事業構造改革費用	304	—
債務消滅益	—	△148
減損損失	1,128	2,772
固定資産除却損	—	497
特別退職金	—	254
関係会社退職給付制度終了損	—	294
関係会社清算損益 (△は益)	—	827
無償修理費用	—	522
退職給付に係る資産の増減額 (△は増加)	377	242
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	△56	87
売上債権の増減額 (△は増加)	△3,563	△359
たな卸資産の増減額 (△は増加)	1,252	449
前払費用の増減額 (△は増加)	△584	63
仕入債務の増減額 (△は減少)	1,770	△572
未払費用の増減額 (△は減少)	1,324	1,368
その他	△1,000	△3,815
小計	19,436	18,056
利息及び配当金の受取額	174	296
利息の支払額	△949	△1,041
特別退職金の支払額	—	△150
法人税等の支払額	△4,119	△2,648
営業活動によるキャッシュ・フロー	14,541	14,511

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△1,446	△591
定期預金の払戻による収入	630	1,295
有形固定資産の取得による支出	△3,192	△3,363
有形固定資産の売却による収入	211	65
無形固定資産の取得による支出	△1,881	△2,376
投資有価証券の取得による支出	△375	△102
投資有価証券の売却による収入	6	1
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	※2 △3,032	※2 △1,604
事業譲受による支出	△108	—
事業譲渡による収入	200	253
短期貸付金の増減額 (△は増加)	27	79
長期貸付けによる支出	△4	△220
長期貸付金の回収による収入	10	6
その他	△98	△109
投資活動によるキャッシュ・フロー	△9,053	△6,667
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	△1,255	2,284
長期借入れによる収入	261	—
長期借入金の返済による支出	△3,460	△6,979
ファイナンス・リース債務の返済による支出	△593	△680
自己株式の取得による支出	△1	△0
配当金の支払額	△1,908	△2,332
非支配株主への配当金の支払額	△75	△88
連結の範囲の変更を伴わない子会社株式の取得による支出	△224	—
財務活動によるキャッシュ・フロー	△7,258	△7,797
現金及び現金同等物に係る換算差額	△234	189
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△2,004	236
現金及び現金同等物の期首残高	14,703	12,698
現金及び現金同等物の期末残高	※1 12,698	※1 12,935

【注記事項】

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1. 連結の範囲に関する事項

(1) 連結子会社数 82社

〔主要会社名〕

「第1 企業の概況 4 関係会社の状況」に記載しているため省略いたしました。

(連結子会社の異動)

当連結会計年度において、KIDE Clinical Systems, Oy(現、Topcon Healthcare Solutions EMEA Oy)及びThunderbuild Group B.V. は、株式を取得したことにより、Topcon Healthcare Solutions Asia-Pacific Ptd.Ltd.、Topcon (Beijing) Medical Technology Co.,Ltd.、Topcon Positioning France S.A.S. 及びTopcon Positioning (Great Britain) Ltd. は、設立したことに伴い、それぞれ連結子会社としております。また、RDS Technology Ltd. は、当社連結子会社のTopcon Technology Ltd. と合併したことに伴い、連結子会社から除外しております。

(2) 主要な非連結子会社の名称等

〔主要な非連結子会社〕(株)トプコンジーエス

(連結の範囲から除いた理由)

非連結子会社は、小規模であり、合計の総資産、売上高、当期純損益(持分に見合う額)及び利益剰余金(持分に見合う額)等は、いずれも連結財務諸表に重要な影響を及ぼしていないためであります。

2. 持分法の適用に関する事項

(1) 持分法適用の非連結子会社数 1社

〔主要な会社名〕(株)トプコンジーエス

(2) 持分法適用の関連会社数 10社

〔主要な会社名〕(株)トプコン・エシロールジャパン

(持分法適用の関連会社の異動)

当連結会計年度において、PT WEE0 Solutions Frontierは合併で設立したことにより、持分法適用の関連会社としております。

(3) 持分法適用会社のうち、TSD Integrated Controls, LLC及びTopcon InfoMobility S.r.l. は、決算日が12月31日であります。連結財務諸表の作成にあたっては、同日現在の財務諸表を使用し、連結決算日との間に生じた重要な取引については、連結上、必要な調整を行っております。それ以外の持分法適用会社のうち、決算日が連結決算日と異なる会社については、当該会社の事業年度に係る財務諸表を使用しております。

3. 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社のうち、以下14社の決算日は12月31日であります。連結財務諸表の作成にあたっては、同日現在の財務諸表を使用し、連結決算日との間に生じた重要な取引については、連結上、必要な調整を行っております。

Topcon (Beijing) Opto-Electronics Development Corporation、
Topcon (Beijing) Medical Technology Co.,Ltd.、
Topcon Optical (Dongguan) Technology Ltd.、Cacioppe Communications Companies, Inc.、
Topcon Precision AG Europe S.L.、Topcon Positioning Spain, S.L.U.、
Topcon Positioning Portugal, L.D.A.、Topcon Positioning Canarias, S.L.、
Shanghai Topcon-Sokkia Technology & Trading Co., Ltd.
ifa systems AG及びその子会社4社

また、それ以外の連結子会社の決算日は、連結決算日と一致しております。

4. 会計方針に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

① 有価証券

満期保有目的の債券

償却原価法

その他有価証券

時価のあるもの

決算末日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は、全部純資産直入法により処理し、売却原価は、移動平均法により算定)

時価のないもの

移動平均法による原価法

② たな卸資産

当社及び国内連結子会社は、平均法による原価法(貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)により評価しており、在外連結子会社は、平均法による低価法、又は、先入先出法による低価法により評価しております。

(2) 重要な減価償却資産の減価償却方法

① 有形固定資産(リース資産を除く)

定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物及び構築物 3年～50年

機械装置及び運搬具 4年～7年

② 無形固定資産(リース資産を除く)

当社及び国内連結子会社は、自社利用のソフトウェアは、社内における利用可能期間(5～10年)に基づく定額法を採用し、在外連結子会社は、主として定額法を採用しております。

③ リース資産

所有権移転ファイナンス・リース取引に係るリース資産

自己所有の固定資産に適用する減価償却方法と同一の方法を採用しております。

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

(3) 重要な引当金の計上基準

① 貸倒引当金

当社及び連結子会社は、債権の貸倒損失に備えるため一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別にそれぞれ回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

② 製品保証引当金

販売した製品の無償アフターサービス費用に備えるため、売上高に対する経験率により計上しております。

③ 役員退職慰労引当金

一部の国内連結子会社は、役員退職慰労金の支出に備えて、内規に基づく期末要支給額を計上しております。

(4) 退職給付に係る会計処理の方法

① 退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

② 数理計算上の差異の費用処理方法

数理計算上の差異は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(5～10年)による定額法により、それぞれ発生の翌連結会計年度から費用処理することとしております。

③ 小規模企業等における簡便法の採用

一部の連結子会社は、退職給付に係る負債及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。

(5) 重要な外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算の基準

外貨建金銭債権債務は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。なお、在外連結子会社の資産及び負債は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、収益及び費用は期中平均相場により円貨に換算し、換算差額は純資産の部における為替換算調整勘定及び非支配株主持分に含めてお

ります。

(6) 重要なヘッジ会計の方法

① ヘッジ会計の方法

繰延ヘッジ処理を採用しております。なお、金利スワップについては特例処理を採用しております。

② ヘッジ手段とヘッジ対象

ヘッジ手段	ヘッジ対象
金利スワップ	借入金の支払金利
為替予約	外貨建債権債務

③ ヘッジ方針

「財務管理規則」に基づき、為替相場変動リスク及び金利変動リスクについて、デリバティブ取引を実需の範囲とする方針であり、投機目的によるデリバティブ取引は行わないこととしております。

④ ヘッジ有効性評価の方法

ヘッジ手段とヘッジ対象に関する重要な条件が同一であり、継続して為替及び金利の変動による影響を相殺又は一定の範囲に限定する効果が見込まれるため、ヘッジの有効性の判定は省略しております。

(7) のれんの償却方法及び償却期間

のれんは、20年以内の効果の及ぶ期間に基づく定額法を採用しております。

(8) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なリスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する流動性の高い短期的な投資からなっております。

(9) その他連結財務諸表作成のための重要な事項

① 消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

② 連結納税制度の適用

連結納税制度を適用しております。

(会計方針の変更)

当社グループのIFRS適用子会社は、当連結会計年度よりIFRS第15号(顧客との契約から生じる収益)を適用しております。IFRS第15号の適用にあたっては、経過措置として認められている本基準の適用による累積的影響額を適用開始日に認識する方法を採用しております。この取扱いによる当社グループの当連結会計年度の連結財務諸表に与える影響は軽微であります。

(未適用の会計基準等)

- ・「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 平成30年3月30日)
- ・「収益認識に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第30号 平成30年3月30日)

(1) 概要

収益認識に関する包括的な会計基準であります。収益は、次の5つのステップを適用し認識されます。

- ステップ1：顧客との契約を識別する。
- ステップ2：契約における履行義務を識別する。
- ステップ3：取引価格を算定する。
- ステップ4：契約における履行義務に取引価格を配分する。
- ステップ5：履行義務を充足した時に又は充足するにつれて収益を認識する。

(2) 適用予定日

2022年3月期の期首より適用予定であります。

(3) 当該会計基準等の適用による影響

影響額は、当連結財務諸表の作成時において評価中であります。

(表示方法の変更)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日。以下「税効果会計基準一部改正」という。)を当連結会計年度の期首から適用し、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示する方法に変更するとともに、税効果会計関係注記を変更しました。

この結果、前連結会計年度の連結貸借対照表において、「流動資産」の「繰延税金資産」5,941百万円は、「投資その他の資産」の「繰延税金資産」7,949百万円に含めて表示しており、「流動負債」の「繰延税金負債」25百万円は、「固定負債」の「繰延税金負債」2,942百万円に含めて表示しております。

また、税効果会計関係注記において、税効果会計基準一部改正第4項に定める「税効果会計に係る会計基準」注解(注8)(1)(評価性引当額の合計額を除く。)に記載された内容を追加しております。ただし、当該内容のうち前連結会計年度に係る内容については、税効果会計基準一部改正第7項に定める経過的な取扱いに従って記載しておりません。

(連結貸借対照表関係)

※1. 減価償却累計額

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当連結会計年度 (2019年3月31日)
減価償却累計額	40,698百万円	40,481百万円

※2. 非連結子会社及び関連会社に係る注記

非連結子会社及び関連会社に対する主な資産・負債は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当連結会計年度 (2019年3月31日)
投資有価証券(株式)	725百万円	819百万円

3. 債権流動化

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当連結会計年度 (2019年3月31日)
受取手形及び売掛金譲渡残高	2,517百万円	2,720百万円

※4. 連結会計年度末日満期手形

期末日満期手形の会計処理については、当社は、満期日に決済があったものとして処理しております。なお、当連結会計年度末日が金融機関の休日であったため、以下の期末日満期手形を満期日に決済が行われたとして処理しております。

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当連結会計年度 (2019年3月31日)
受取手形	563百万円	521百万円
支払手形	662	761

5. コミットメントライン契約

当社は、資金調達の機動性及び安定性の確保を目的として、取引金融機関とコミットメントライン契約(2019年3月~2021年3月)を締結しております。当該契約に基づく連結会計年度末における借入金未実行残高は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当連結会計年度 (2019年3月31日)
コミットメントラインの総額	22,000百万円	22,000百万円
借入実行残高	200	—
差引額	21,800	22,000

上記のコミットメントライン契約には、次の財務制限条項が付されております。

- (1) 各事業年度末日における連結貸借対照表における純資産の部の合計金額から為替換算調整勘定の合計金額を控除した金額を、2018年3月決算期末における連結貸借対照表における純資産の部の合計金額から為替換算調整勘定の合計金額を控除した金額の75%に相当する金額以上に維持することを確約する。

- (2) 報告書等に記載される連結損益計算書における営業利益が2期連続して赤字とにならないようにすること。
 (3) 株式会社格付投資情報センターによる発行体格付を、BBB-以上に維持することを確約する。

(連結損益計算書関係)

- ※1. 期末たな卸高は収益性の低下に伴う簿価切下後の金額であり、次のたな卸資産評価損が売上原価に含まれております。

前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
574 百万円	552百万円

- ※2. 販売費及び一般管理費のうち、主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
従業員給料手当	21,540百万円	25,250百万円
退職給付費用	905	898
減価償却費	3,887	4,262
のれん償却額	2,651	2,145
貸倒引当金繰入額	279	196

- ※3. 一般管理費及び当期製造費用に含まれる研究開発費の総額は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
一般管理費	8,638百万円	9,962百万円
当期製造費用	4,326	4,051
計	12,964	14,014

- ※4. 事業譲渡益

前連結会計年度の事業譲渡益は、当社の連結子会社である株式会社トプコンテクノハウスの検査装置事業の譲渡に伴う利益であります。

- ※5. 事業構造改革費用

前連結会計年度の事業構造改革費用は、当社の連結子会社であるifa systems AGにおいて発生した、IoT事業戦略の変更に伴うリストラ費用であり、主に、人員削減費用、事務所移転費用、弁護士含むコンサル費用および固定資産の廃却損等であります。

- ※6. 減損損失

(前連結会計年度)

前連結会計年度において、IoT事業戦略の変更に伴い、ifa systems AGに関連する事業資産について減損の必要が生じたため、以下の事業の資産グループについて減損損失を計上しました。

用途	場所	種類	金額
遊休資産	本社	ソフトウェア	198百万円
事業用資産	欧州	のれん	426百万円
		その他無形固定資産	504百万円

当社グループは、事業用資産については、事業区分をもとに、独立したキャッシュ・フローを生み出す単位ごとに資産のグルーピングを行っています。また、遊休資産については個別にグルーピングを行っています。当連結会計年度において、欧州子会社に帰属するのれん及び無形固定資産について、事業環境の変化により当初想定した収益が見込めなくなったことから、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しております。なお、当該資産グループの回収可能価額は使用価値により測定しており、将来キャッシュ・フロ

一を8.0%で割り引いて算定しております。また、本社において、遊休となった資産の帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しております。なお、当該資産グループの回収可能価額は正味売却価額により測定し、零として評価しております。

(当連結会計年度)

当連結会計年度において、一部の事業資産について減損の必要が生じたため、以下の事業の資産グループについて減損損失を計上しました。

用途	場所	種類	金額
事業用資産	欧州	その他無形固定資産	2,772百万円

当社グループは、事業用資産については、事業区分をもとに、独立したキャッシュ・フローを生み出す単位ごとに資産のグルーピングを行っています。当連結会計年度において、欧州子会社が所有する一部の「その他無形固定資産」について、IoT関連事業の将来の投資計画の見直しを行ったことにより、当初想定した収益が見込めなくなったため、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しております。なお、当該資産グループの回収可能価額は、処分コスト控除後の公正価値により測定しており、公正価値は第三者への売却見込額を基礎として算定しております。

※7. 債務消滅益

当連結会計年度の債務消滅益は、一部の国内連結子会社において、過年度に計上した未払債務の履行義務が消滅したことによるものであります。

※8. 固定資産除却損の内容は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
その他無形固定資産	— 百万円	497 百万円

※9. 関係会社退職給付制度終了損

当連結会計年度の関係会社退職給付制度終了損は、当社連結子会社である(株)ソキア・トプコンの解散に伴い、同社の退職給付制度の終了を決議したため、制度終了時の損失の額を合理的に見積もって計上したものであります。

※10. 関係会社清算損

当連結会計年度の関係会社清算損は、当社連結子会社であるTopcon (Beijing) Opto-Electronics Development Corporationの解散を決議したことに伴う損失であり、主に、たな卸資産の廃却損や、割増退職金等であります。

(連結包括利益計算書関係)

※1. その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
その他有価証券評価差額金：		
当期発生額	1,480百万円	△1,265百万円
組替調整額	—	0
税効果調整前	1,480	△1,265
税効果額	△463	387
その他有価証券評価差額金	1,017	△878
繰延ヘッジ損益：		
当期発生額	△73	15
組替調整額	—	—
税効果調整前	△73	15
税効果額	24	△3
繰延ヘッジ損益	△48	12
為替換算調整勘定：		
当期発生額	△192	247
組替調整額	—	—
税効果調整前	△192	247
税効果額	—	—
為替換算調整勘定	△192	247
退職給付に係る調整額：		
当期発生額	△84	△451
組替調整額	1,266	682
税効果調整前	1,181	231
税効果額	△350	△54
退職給付に係る調整額	831	176
持分法適用会社に対する 持分相当額：		
当期発生額	1	△5
組替調整額	—	—
持分法適用会社に対する 持分相当額	1	△5
その他の包括利益合計	1,609	△446

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度 期首株式数(千株)	当連結会計年度 増加株式数(千株)	当連結会計年度 減少株式数(千株)	当連結会計年度末 株式数(千株)
発行済株式				
普通株式	108,085	—	—	108,085
合計	108,085	—	—	108,085
自己株式				
普通株式	2,073	0	—	2,074
合計	2,073	0	—	2,074

(変動事由の概要)

単元未満株式の買取りによる普通株式の自己株式の増加 0千株

2. 新株予約権及び自己新株予約権に関する事項

会社名	内訳	目的となる 株式の種類	目的となる株式の数(株)				当連結会計 年度末残高 (百万円)
			当連結会計 年度期首	増加	減少	当連結 会計年度末	
提出会社	ストック・オプション としての新株予約権	—	—	—	—	—	29
合計			—	—	—	—	29

3. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
2017年6月6日 取締役会	普通株式	848	8	2017年3月31日	2017年6月16日
2017年10月27日 取締役会	普通株式	1,060	10	2017年9月30日	2017年12月1日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の 種類	配当金の総額 (百万円)	配当の 原資	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
2018年5月22日 取締役会	普通株式	1,060	利益剰余金	10	2018年3月31日	2018年6月6日

当連結会計年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度 期首株式数(千株)	当連結会計年度 増加株式数(千株)	当連結会計年度 減少株式数(千株)	当連結会計年度末 株式数(千株)
発行済株式				
普通株式	108,085	20	—	108,105
合計	108,085	20	—	108,105
自己株式				
普通株式(注)	2,074	0	—	2,074
合計	2,074	0	—	2,074

(変動事由の概要)

ストック・オプションの権利行使による普通株式の増加 20千株

単元未満株式の買取りによる普通株式の自己株式の増加 0千株

2. 新株予約権及び自己新株予約権に関する事項

会社名	内訳	目的となる 株式の種類	目的となる株式の数(株)				当連結会計 年度末残高 (百万円)
			当連結会計 年度期首	増加	減少	当連結 会計年度末	
提出会社	ストック・オプション としての新株予約権	—	—	—	—	—	47
合計			—	—	—	—	47

3. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
2018年5月22日 取締役会	普通株式	1,060	10	2018年3月31日	2018年6月6日
2018年10月31日 取締役会	普通株式	1,272	12	2018年9月30日	2018年12月4日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の 種類	配当金の総額 (百万円)	配当の 原資	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
2019年5月21日 取締役会	普通株式	1,272	利益剰余金	12	2019年3月31日	2019年6月5日

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

※1. 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
現金及び預金勘定	14,316百万円	13,894百万円
預入期間が3か月を超える定期預金	△1,617	△958
現金及び現金同等物	12,698	12,935

※2. 株式の取得により新たに連結子会社となった会社の資産及び負債の主な内訳

前連結会計年度(自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

当連結会計年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(リース取引関係)

(借主側)

1. ファイナンス・リース取引

(1) 所有権移転ファイナンス・リース取引

① リース資産の内訳

無形固定資産

ソフトウェアであります。

② リース資産の減価償却の方法

連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項「4. 会計方針に関する事項 (2) 重要な減価償却資産の減価償却方法」に記載のとおりであります。

(2) 所有権移転外ファイナンス・リース取引

① リース資産の内訳

有形固定資産

主として、設計開発用・事務用コンピュータ、電子部品自動実装機(「機械装置及び運搬具」、「工具、器具及び備品」)であります。

② リース資産の減価償却の方法

連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項「4. 会計方針に関する事項 (2) 重要な減価償却資産の減価償却方法」に記載のとおりであります。

2. オペレーティング・リース取引

オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当連結会計年度 (2019年3月31日)
1年内	45百万円	18百万円
1年超	12	17
合計	58	35

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、資金運用については短期的な預金等に限定し、資金調達については銀行借入による方針です。なお、大型M&A等による特殊な資金需要に対しては、社債等の直接金融も含めた資金調達方法を都度検討しております。また、キャッシュマネジメントシステム(CMS)の有効活用により適正な資金管理を図っております。デリバティブは、為替変動リスクおよび金利変動リスクを回避するために利用しており、投機的な取引は行わない方針です。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である受取手形及び売掛金は、顧客の信用リスクに晒されております。グローバルに事業を展開していることから生じている外貨建ての営業債権は、為替の変動リスクに晒されておりますが、先物為替予約を利用してヘッジしております。

投資有価証券は、主に取引先企業との業務提携等に関連する株式であり、市場価格の変動リスクに晒されております。

営業債務である支払手形及び買掛金は、そのほとんどが1年以内の支払期日です。

借入金、社債及びファイナンスリースは、主に設備投資や研究開発投資に必要な資金の調達及び営業取引に係る資金調達を目的としたものであり、償還日は決算日後最長7年後であります。このうち一部は変動金利であるため金利の変動リスクに晒されておりますが、金利スワップ取引をヘッジ手段として利用しております。なお、当社は、資金調達の機動性及び安定性の確保を目的として、取引金融機関とコミットメントライン契約を締結しておりますが、この契約には財務制限条項が付されており、これに抵触した場合、契約先の要求により、契約が解除される可能性があります。

なお、ヘッジ会計に関するヘッジ手段とヘッジ対象、ヘッジ方針、ヘッジの有効性の評価方法等については、前述の「会計方針に関する事項」に記載されている「重要なヘッジ会計の方法」をご覧ください。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

① 信用リスク(取引先の契約不履行等に係るリスク)の管理

当社は、債権管理規則に従い、営業債権について、財務担当部門が取引先の状況を定期的にモニタリングし、取引相手ごとに期日及び残高を管理するとともに、財務状況等の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減を行っております。連結子会社についても、当社の債権管理規則に準じて、各社において同様の管理を行っております。デリバティブの利用にあたっては、信用リスクを軽減するために、格付の高い金融機関とのみ取引を行っておりますので、信用リスクはほとんど無いと判断しております。

当期の連結決算日現在における最大信用リスク額は、信用リスクにさらされる金融資産の貸借対照表価額により表されております。

② 市場リスク(為替や金利等の変動リスク)の管理

投資有価証券については、定期的に時価や発行体(取引先企業)の財務状況等を把握し、保管部門において取引先企業との関係を勘案して保有状況を継続的に見直しております。

デリバティブ取引につきましては、取引権限やリスク管理方針等を定めた社内規定に基づき、財務担当部門において取引・記帳及び契約先と残高照合等を行っております。月次の取引実績は、財務担当部門所管の役員及び取締役会に報告しております。連結子会社においても、当社の社内規定に準じて管理をそれぞれ行っております。

③ 資金調達に係る流動性リスク(支払期日に支払いを実行できなくなるリスク)の管理

当社は、各部署からの報告に基づき財務担当部門が適時に資金繰計画を作成・更新すると共に、手許流動性を各社売上高の1ヶ月分相当以上に維持することなどにより、流動性リスクを管理しております。

(4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいる為、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することもあります。また、「2. 金融商品の時価等に関する事項」におけるデリバティブ取引に関する契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引に係る市場リスクを示すものではありません。

2. 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは含まれておりません。

前連結会計年度(2018年3月31日)

	連結貸借対照表計上額 (百万円)	時価(百万円)	差額(百万円)
(1) 現金及び預金	14,316	14,316	—
(2) 受取手形及び売掛金	44,647		
貸倒引当金 (*1)	△1,967		
	42,680	42,680	—
(3) 投資有価証券			
その他有価証券	4,022	4,022	—
資産計	61,020	61,020	—
(1) 支払手形及び買掛金	12,384	12,384	—
(2) 短期借入金 (*2)	11,126	11,126	—
(3) 社債	20,000	20,142	142
(4) 長期借入金 (*2)	17,098	17,256	158
(5) リース債務	5,060	4,949	△110
負債計	65,671	65,861	190
デリバティブ取引 (*3)	234	234	—

当連結会計年度(2019年3月31日)

	連結貸借対照表計上額 (百万円)	時価(百万円)	差額(百万円)
(1) 現金及び預金	13,894	13,894	—
(2) 受取手形及び売掛金	45,609		
貸倒引当金 (*1)	△2,098		
	43,510	43,510	—
(3) 投資有価証券			
その他有価証券	2,759	2,759	—
資産計	60,164	60,164	—
(1) 支払手形及び買掛金	11,990	11,990	—
(2) 短期借入金	13,563	13,563	—
(3) 社債	20,000	20,133	133
(4) 長期借入金	10,497	10,661	163
(5) リース債務	4,494	4,494	0
負債計	60,545	60,843	297
デリバティブ取引 (*3)	△24	△24	—

(*1)受取手形及び売掛金に係る貸倒引当金を控除しております。

(*2)長期借入金の支払期日が1年以内になったことにより、短期借入金に計上されたものについては、本表では長期借入金として表示しております。

(*3)デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しております。

(注) 1. 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

資 産

(1) 現金及び預金、(2) 受取手形及び売掛金

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(3) 投資有価証券

これらの時価について、株式は取引所の価格に基づき算定しており、債券は取引所の価格又は取引金融機関から提示された価格に基づき算定しております。また、保有目的ごとの有価証券に関する事項については、注記事項「有価証券関係」をご参照下さい。

負 債

(1) 支払手形及び買掛金、(2) 短期借入金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(3) 社債

当社の発行する社債の時価は、市場価格に基づき算出しております。

(4) 長期借入金、(5) リース債務

これらの時価については、元利金の合計額を新規に同様の借入れ又はリース取引を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しております。

デリバティブ取引

注記事項「デリバティブ取引関係」をご参照下さい。

2. 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品の連結貸借対照表計上額

区分	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当連結会計年度 (2019年3月31日)
非上場株式	1,008百万円	1,202百万円

これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、「(3) 投資有価証券」には含めておりません。

3. 金銭債権の連結決算日後の償還予定額

前連結会計年度(2018年3月31日)

	1年以内 (百万円)	1年超 5年以内 (百万円)	5年超 10年以内 (百万円)	10年超 (百万円)
現金及び預金	14,316	—	—	—
受取手形及び売掛金	44,647	—	—	—
合計	58,964	—	—	—

当連結会計年度(2019年3月31日)

	1年以内 (百万円)	1年超 5年以内 (百万円)	5年超 10年以内 (百万円)	10年超 (百万円)
現金及び預金	13,894	—	—	—
受取手形及び売掛金	45,609	—	—	—
合計	59,503	—	—	—

4. 長期借入金及びその他の有利子負債の連結決算日後の返済予定額
前連結会計年度(2018年3月31日)

	1年以内 (百万円)	1年超 2年以内 (百万円)	2年超 3年以内 (百万円)	3年超 4年以内 (百万円)	4年超 5年以内 (百万円)	5年超 (百万円)
短期借入金	11,126	—	—	—	—	—
社債	—	—	10,000	—	10,000	—
長期借入金	6,649	—	1,900	4,709	3,324	515
リース債務	670	622	624	628	619	1,895
合計	18,447	622	12,524	5,337	13,944	2,410

当連結会計年度(2019年3月31日)

	1年以内 (百万円)	1年超 2年以内 (百万円)	2年超 3年以内 (百万円)	3年超 4年以内 (百万円)	4年超 5年以内 (百万円)	5年超 (百万円)
短期借入金	13,563	—	—	—	—	—
社債	—	10,000	—	10,000	—	—
長期借入金	—	3,338	4,153	2,441	—	563
リース債務	641	667	649	640	631	1,263
合計	14,204	14,006	4,803	13,082	631	1,827

(有価証券関係)

1. その他有価証券

前連結会計年度(2018年3月31日)

	種類	連結貸借対照表 計上額(百万円)	取得原価 (百万円)	差額 (百万円)
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの	株式	4,022	1,472	2,550
	小計	4,022	1,472	2,550
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの	株式	—	—	—
	小計	—	—	—
合計		4,022	1,472	2,550

(注) 非上場株式(連結貸借対照表計上額1,008百万円)については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

当連結会計年度(2019年3月31日)

	種類	連結貸借対照表 計上額(百万円)	取得原価 (百万円)	差額 (百万円)
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの	株式	2,220	904	1,316
	小計	2,220	904	1,316
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの	株式	538	570	△31
	小計	538	570	△31
合計		2,759	1,474	1,284

(注) 非上場株式(連結貸借対照表計上額1,202百万円)については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

2. 連結会計年度中に売却したその他有価証券

前連結会計年度(自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

当連結会計年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

3. 減損処理を行なった有価証券

	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
その他有価証券	268百万円	—百万円

なお、減損処理に当たっては、期末における時価が取得原価に比べ50%以上下落した場合には全て減損処理を行ない、30%~50%下落した場合には、回復可能性を考慮して必要と認められた額について減損処理を行っております。

(デリバティブ取引関係)

1. ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

通貨関連

前連結会計年度(2018年3月31日)

区分	取引の種類	契約額等 (百万円)	契約額等の うち1年超 (百万円)	時価 (百万円)	評価損益 (百万円)
市場取引以外の取引	為替予約取引				
	売建				
	US\$	902	—	12	12
	EUR	546	—	11	11
	小計	1,449	—	24	24
	買建				
	円	15	—	1	1
US\$	677	—	△8	△8	
小計	692	—	△7	△7	
市場取引以外の取引	通貨スワップ取引				
	売建				
	US\$	4,188	—	230	230
小計	4,188	—	230	230	
合計		6,330	—	247	247

(注) 時価の算定方法

取引先金融機関等から提示された価格等に基づき算定しております。

当連結会計年度(2019年3月31日)

区分	取引の種類	契約額等 (百万円)	契約額等の うち1年超 (百万円)	時価 (百万円)	評価損益 (百万円)
市場取引以外の取引	為替予約取引				
	売建				
	US\$	2,429	—	△13	△13
	EUR	1,161	—	15	15
	SEK	76	—	△0	△0
	GBP	126	—	△3	△3
	小計	3,794	—	△2	△2
	買建				
	円	41	—	△0	△0
	US\$	911	—	6	6
小計	953	—	6	6	
市場取引以外の取引	通貨スワップ取引				
	売建				
	US\$	4,072	—	△35	△35
小計	4,072	—	△35	△35	
合計		8,820	—	△30	△30

(注) 時価の算定方法

取引先金融機関等から提示された価格等に基づき算定しております。

2. ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

(1) 通貨関連

前連結会計年度(2018年3月31日)

ヘッジ会計の方法	取引の種類	主なヘッジ対象	契約額等 (百万円)	契約額等のうち1年超 (百万円)	時価 (百万円)
繰延ヘッジ 処理	為替予約取引				
	売建				
	GBP	売掛金	221	—	△1
	SEK	売掛金	114	—	2
	小計		336	—	1
	買建				
RUB	未払費用	470	—	△13	
小計			470	—	△13
合計			807	—	△12

(注) 時価の算定方法

取引先金融機関等から提示された価格等に基づき算定しております。

当連結会計年度(2019年3月31日)

ヘッジ会計の方法	取引の種類	主なヘッジ対象	契約額等 (百万円)	契約額等のうち1年超 (百万円)	時価 (百万円)
繰延ヘッジ 処理	為替予約取引				
	買建				
	RUB	未払費用	408	—	6
合計			408	—	6

(注) 時価の算定方法

取引先金融機関等から提示された価格等に基づき算定しております。

(2) 金利関連

前連結会計年度(2018年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(2019年3月31日)

該当事項はありません。

(退職給付関係)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社及び連結子会社は、従業員の退職給付に充てるため、積立型、非積立型の確定給付制度及び確定拠出制度を採用しております。確定給付企業年金制度(積立型制度)では、給与と勤務期間に基づいた一時金又は年金を支給しており、退職一時金制度(非積立型制度)では、退職給付として、給与と勤務期間に基づいた一時金を支給しております。また、一部の連結子会社が有する確定給付企業年金制度及び退職一時金制度は、簡便法により退職給付に係る負債及び退職給付費用を計算しております。

2. 確定給付制度

(1) 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表（簡便法を適用した制度を除く。）

	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
退職給付債務の期首残高	18,266 百万円	17,569 百万円
勤務費用	526	711
利息費用	92	156
数理計算上の差異の発生額	△504	775
退職給付の支払額	△811	△1,099
その他	—	3,723
退職給付債務の期末残高	17,569	21,838

(2) 年金資産の期首残高と期末残高の調整表（簡便法を適用した制度を除く。）

	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
年金資産の期首残高	12,754 百万円	12,946 百万円
期待運用収益	402	456
数理計算上の差異の発生額	△15	485
事業主からの拠出額	299	443
退職給付の支払額	△494	△521
その他	—	2,979
年金資産の期末残高	12,946	16,789

(3) 簡便法を適用した制度の、退職給付に係る負債の期首残高と期末残高の調整表

	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
退職給付に係る負債の期首残高	1,231 百万円	1,260 百万円
退職給付費用	199	327
退職給付の支払額	△115	△184
制度への拠出額	△55	△60
退職給付に係る負債の期末残高	1,260	1,342

(4) 退職給付債務及び年金資産の期末残高と連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債及び退職給付に係る資産の調整表

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当連結会計年度 (2019年3月31日)
積立型制度の退職給付債務	15,034 百万円	19,656 百万円
年金資産	△14,427	△18,234
	607	1,422
非積立型制度の退職給付債務	5,275	4,968
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	5,883	6,391
退職給付に係る負債	5,883	6,391
退職給付に係る資産	—	—
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	5,883	6,391

(注) 簡便法を適用した制度を含みます。

(5) 退職給付費用及びその内訳項目の金額

	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
勤務費用	526 百万円	711 百万円
利息費用	92	156
期待運用収益	△402	△456
数理計算上の差異の費用処理額	693	411
簡便法で計算した退職給付費用	199	327
確定給付制度に係る退職給付費用	1,109	1,150

(注) 当連結会計年度において、上記以外に関係会社退職給付制度終了損294百万円を特別損失に計上しております。

(6) 退職給付に係る調整額

退職給付に係る調整額に計上した項目（税効果控除前）の内訳は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
数理計算上の差異	1,181 百万円	231 百万円
合計	1,181	231

(7) 退職給付に係る調整累計額

退職給付に係る調整累計額に計上した項目（税効果控除前）の内訳は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当連結会計年度 (2019年3月31日)
未認識数理計算上の差異	1,739 百万円	1,507 百万円
合計	1,739	1,507

(8) 年金資産に関する事項

① 年金資産の主な内訳

年金資産合計に対する主な分類ごとの比率は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当連結会計年度 (2019年3月31日)
債券	32.1 %	18.1 %
株式	21.9	13.3
現金及び預金	3.5	2.5
生命保険会社の一般勘定	27.6	54.3
その他	14.9	11.8
合計	100.0	100.0

② 長期期待運用収益率の設定方法

年金資産の長期期待運用収益率を決定するため、現在及び予想される年金資産の配分と、年金資産を構成する多様な資産からの現在及び将来期待される長期の収益率を考慮しております。

(9) 数理計算上の計算基礎に関する事項

主要な数理計算上の計算基礎

	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
割引率	0.0～0.6 %	0.2～1.3 %
長期期待運用収益率	2.5～6.8	1.3～2.5
予想昇給率	2.3～3.1	2.3～2.6

3. 確定拠出制度

連結子会社の確定拠出制度への要拠出額は、前連結会計年度884百万円、当連結会計年度835百万円であります。

(ストック・オプション等関係)

1. スtock・オプションにかかる費用計上額及び科目名

	前連結会計年度	当連結会計年度
販売費及び一般管理費	29百万円	57百万円

2. スtock・オプションの内容、規模及びその変動状況

(1) スtock・オプションの内容

	第1回新株予約権	第2回新株予約権	第3回新株予約権
会社名	提出会社	提出会社	提出会社
決議年月日	2017年6月28日	2018年6月27日	2018年6月27日
付与対象者の区分及び人数	取締役(社外取締役を除く) 6名	取締役(社外取締役を除く) 6名	当社執行役員 1名
株式の種類及び付与数(注)1	普通株式 25,000株	普通株式 25,000株	普通株式 100,000株
付与日	2017年7月13日	2018年7月12日	2018年7月12日
権利確定条件	(注)2	(注)2	(注)3
対象勤務期間	定めはありません。	定めはありません。	定めはありません。
権利行使期間	自 2018年7月13日 至 2028年7月13日	自 2019年7月12日 至 2029年7月12日	自 2021年7月1日 至 2026年6月30日

(注) 1. 株式数に換算して記載しております。

2. 新株予約権の行使にあたっては、下記の全ての条件が成就されていることを要するものとします。

①新株予約権者が割当日から1年以上、割当日に就任していた役職と同等以上の役職に継続して就任していること(但し、割当日から1年以内に行われる定時株主総会の終了時において任期が満了する者については、当該任期満了時まで継続して就任していたこと。)

②新株予約権者において当社就業規則に定める各懲戒事由由相当の事実が発生していないこと並びに当社の定める内部規律及び当社と締結している契約に違反していないと当社が認めること。

③新株予約権者が死亡した場合においては、その配偶者(配偶者が存しない場合においては法定相続人のうち最年長の者)又は当社が別途認めた者が、新株予約権者の死亡した日から3か月以内に、当社の定める方式にて行使すること。

3. 新株予約権の行使にあたっては、下記の全ての条件が成就されていることを要するものとします。

①新株予約権者は、2021年3月期における新株予約権者が担当する当社の事業(以下「担当事業」といいます)の連結売上高を指標とし、当社取締役会で決定した段階的な目標値を超過した場合に、それぞれ定められた割合の個数の新株予約権を行使することができるものとする。

②新株予約権者が自己の責に帰すべき事由以外的事由により解任された場合または当社が担当事業の全部を第三者に譲渡した場合であって、かかる解任日または譲渡日が一定の期間中の場合、新株予約権者は、当該解任日または譲渡日の属する事業年度の前事業年度における担当事業の連結売上高を指標とし、当社取締役会で決定した段階的な目標値を超過した場合に、それぞれ定められた割合の個数の新株予約権を行使することができるものとする。

③新株予約権者が、自己の責に帰すべき事由により解任された場合その他新株予約権割当契約書に定める場合、新株予約権者は新株予約権を行使することはできない。

④権利行使期間内に新株予約権者が死亡した場合においては、その配偶者(配偶者が存しない場合においては法定相続人のうち最年長の者)又は当社が別途認めた者が、新株予約権者の死亡した日から3か月以内に、当社の定める方式にて行使する場合に限り、新株予約権の行使を認めるものとする。

⑤その他の新株予約権の行使に関する条件については、新株予約権の募集事項を決定する取締役会の決議に基づき、当社と新株予約権を引き受けようとする者との間で締結する「新株予約権割当契約書」に定めるところによる。

(2) ストック・オプションの規模及びその変動状況

当連結会計年度(2019年3月期)において存在したストック・オプションを対象とし、ストック・オプションの数については、株式数に換算して記載しております。

① ストック・オプションの数

	第1回新株予約権	第2回新株予約権	第3回新株予約権
会社名	提出会社	提出会社	提出会社
決議年月日	2017年6月28日	2018年6月27日	2018年6月27日
権利確定前(株)			
前連結会計年度末	20,000	—	—
付与	—	25,000	100,000
失効	—	—	—
権利確定	20,000	—	—
未確定残	—	25,000	100,000
権利確定後(株)			
前連結会計年度末	—	—	—
権利確定	20,000	—	—
権利行使	20,000	—	—
失効	—	—	—
未行使残	—	—	—

② 単価情報

	第1回新株予約権	第2回新株予約権	第3回新株予約権
会社名	提出会社	提出会社	提出会社
決議年月日	2017年6月28日	2018年6月27日	2018年6月27日
権利行使価格(円)	1	1	2,202
行使時平均株価(円)	1,857	—	—
付与日における公正な評価単価(円)	1,992	1,768	571

3. 当連結会計年度に付与されたストック・オプションの公正な評価単価の見積方法

(1) 使用した評価技法 ブラック・ショールズ式

(2) 主な基礎数値及びその見積方法

	第2回新株予約権	第3回新株予約権
株価変動性 (注) 1	33.8%	47.6%
予想残存期間 (注) 2	1年	5.5年
予想配当 (注) 3	24円/株	24円/株
無リスク利率 (注) 4	△0.1%	△0.1%

(注) 1. 予想残存期間と同期間の過去株価実績に基づき算定しております。

2. 権利行使期間の始期までの期間としております。

3. 2019年3月期の配当予想によります。

4. 予想残存期間に対応する期間に対応する国債の利回りであります。

4. ストック・オプションの権利確定数の見積方法

将来の失効数の合理的な見積りは困難であるため、実績の失効数のみ反映させる方法を採用しております。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳 (百万円)

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当連結会計年度 (2019年3月31日)
(繰延税金資産)		
たな卸資産	2,422	2,632
未払賞与	502	490
未払事業税	107	108
退職給付に係る負債	2,052	1,987
未実現利益	810	651
貸倒引当金	342	328
ソフトウェア	784	890
繰越欠損金(注)2	2,229	1,995
その他	3,536	4,785
繰延税金資産小計	12,787	13,871
税務上の繰越欠損金に係る評価性引当額(注)2	—	△1,892
将来減算一時差異等の合計に係る評価性引当額	—	△680
評価性引当額小計(注)1	△2,878	△2,572
繰延税金資産合計	9,908	11,298
(繰延税金負債)		
減価償却費	2,318	3,447
その他有価証券評価差額金	790	403
その他	1,791	797
繰延税金負債合計	4,901	4,648
繰延税金資産の純額	5,007	6,649

(注)1 評価性引当額の主な変動の内容は、連結子会社における将来課税所得見込額の増加に伴う、評価性引当額の減少によるものであります。

(注)2 税務上の繰越欠損金及びその繰延税金資産の繰越期限別の金額 (百万円)

	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超	合計
税務上の繰越欠損金(※)	107	163	229	282	124	1,087	1,995
評価性引当額	△107	△159	△223	△273	△122	△1,006	△1,892
繰延税金資産	—	4	6	8	2	81	103

(※) 税務上の繰越欠損金は、法定実効税率を乗じた金額であります。

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当連結会計年度 (2019年3月31日)
法定実効税率	30.86%	30.62%
(調整)		
交際費等損金不算入の永久差異	2.54	3.03
受取配当金等益金不算入の永久差異	△0.50	△0.13
住民税均等割等	0.13	0.21
評価性引当額の増減	△6.47	△17.11
税額控除	△4.42	△11.92
連結子会社税率差等	1.26	△4.90
持分法による投資損益	△0.39	0.02
税率変更による影響	△3.23	—
のれん償却額	8.43	9.50
のれん減損損失	1.16	—
連結子会社当期純損失	3.04	2.87
未実現利益に係る税効果未認識額の増減	△0.47	△0.40
その他	6.95	0.99
税効果会計適用後の法人税等の負担率	38.89	12.78

(企業結合等関係)

当連結会計年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

取引に重要性がないため、記載を省略しております。

(資産除去債務関係)

前連結会計年度(自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)

取引に重要性がないため、記載を省略しております。

当連結会計年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

取引に重要性がないため、記載を省略しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1. 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社は、取り扱う製品及びサービスにより分類された単位で、国内及び海外の包括的な戦略を立案し、事業展開を行っております。

従って、当社は、その構成単位である「スマートインフラ事業」「ポジショニング・カンパニー」「アイケア事業」及び「その他」を報告セグメントとしております。

各報告セグメントで製造・販売している主要製品は、以下の通りとなります。

「スマートインフラ事業」

トータルステーション(自動追尾トータルステーション、モータードライブトータルステーション、マニュアルトータルステーション、工業計測用トータルステーション、イメージングステーション)、レイアウトナビゲーター、MILLIMETER GPS、3D移動体計測システム、3Dレーザースキャナー、データコレクタ、セオドライト、電子レベル、レベル、ローテーションレーザー、パイプレーザー

「ポジショニング・カンパニー」

測量用GNSS(GPS+GLONASS+GALILEO等)受信機、GNSSリファレンスステーションシステム、土木施工用マシンコントロールシステム、精密農業用マシンコントロールシステム、農業向け計量システム、アセットマネジメントシステム、土木施工・精密農業システム向けディスプレイ

「アイケア事業」

3次元眼底像撮影装置、眼底カメラ、無散瞳眼底カメラ、眼科用レーザー光凝固装置、ノンコンタクトタイプトノメーター、スリットランプ、手術用顕微鏡、スペキュラーマイクロスコープ、光学式眼軸長測定装置、眼科検査データファイリングシステムIMAGEnet、眼科電子カルテシステムIMAGEneteカルテ、ウェブフロントアナライザー、オートレフラクトメータ、オートケラトレフラクトメータ、オートケラトレフラクトトノメーター、視力検査装置、屈折検査システム、視力表、レンズメーター、スクリーノスコープ、デジタルPDメーター、検眼レンズセット

なお、スマートインフラ事業とポジショニング・カンパニーは、事業関連性が高く、対象とする顧客も類似しております。そのため、スマートインフラ事業とポジショニング・カンパニーは、双方の製品の販売を行っており、スマートインフラ事業は主に日本及びアジアの各地域で、ポジショニング・カンパニーは主に北米及びヨーロッパの各地域で、販売活動を行っております。

2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告セグメントの会計処理の方法は、連結財務諸表の会計処理の方法と概ね同一であります。

報告セグメントの利益は、営業利益(のれん償却・全社費用配分前)ベースの数値であります。

報告セグメント間の内部収益及び振替高は、市場実勢価格に基づいております。

3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報
前連結会計年度(自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)

(単位：百万円)

	報告セグメント					調整額	連結財務諸表計上額
	スマートインフラ事業	ポジショニング・カンパニー	アイケア事業	その他	計		
売上高							
外部顧客への売上高	27,270	69,548	46,249	2,490	145,558	—	145,558
セグメント間の内部売上高又は振替高	9,356	5,397	266	2	15,023	△15,023	—
計	36,626	74,945	46,515	2,493	160,582	△15,023	145,558
セグメント利益	5,102	8,018	2,038	88	15,247	△3,173	12,073
セグメント資産	40,653	53,118	48,960	3,539	146,272	14,475	160,747
その他の項目							
減価償却費	1,324	2,590	1,371	121	5,408	—	5,408
持分法適用会社への投資額	35	482	171	35	725	—	725
有形固定資産及び無形固定資産の増加額	1,816	1,990	1,238	106	5,151	—	5,151

(注) 1. 「その他」の区分は、精密計測事業及び光デバイス事業であります。

2. セグメント利益の調整額△3,173百万円は、主に各報告セグメントに配分していないのれんの償却額及び全社費用(先端研究開発費)であります。

3. セグメント資産の調整額は、セグメント間消去と全社資産の額であります。全社資産の主なものは、のれん14,771百万円、親会社での余資運用資金(現金及び預金)及び長期投資資金(投資有価証券)4,545百万円であります。

当連結会計年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

(単位：百万円)

	報告セグメント					調整額	連結財務諸表計上額
	スマートインフラ事業	ポジショニング・カンパニー	アイケア事業	その他	計		
売上高							
外部顧客への売上高	26,857	72,698	47,434	1,697	148,688	—	148,688
セグメント間の内部売上高又は振替高	9,886	5,023	278	0	15,190	△15,190	—
計	36,744	77,722	47,713	1,698	163,878	△15,190	148,688
セグメント利益又はセグメント損失(△)	6,393	8,358	2,896	△65	17,583	△3,986	13,596
セグメント資産	42,331	55,893	48,231	2,398	148,855	11,433	160,288
その他の項目							
減価償却費	700	2,582	1,367	81	4,732	1,250	5,983
持分法適用会社への投資額	35	574	175	35	819	—	819
有形固定資産及び無形固定資産の増加額	563	3,341	1,033	63	5,002	736	5,739

(注) 1. 「その他」の区分は、精密計測事業及び光デバイス事業であります。

2. セグメント利益又はセグメント損失の調整額△3,986百万円は、主に各報告セグメントに配分していないのれんの償却額及び全社費用(先端研究開発費)であります。

3. セグメント資産の調整額は、セグメント間消去と全社資産の額であります。全社資産の主なものは、のれん13,162百万円、親会社での余資運用資金(現金及び預金)及び長期投資資金(投資有価証券)3,580百万円であります。

【関連情報】

前連結会計年度(自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)

1. 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

(単位：百万円)

日本	北米	ヨーロッパ	中国	アジア・オセアニア	その他	合計
30,708	43,197	35,628	7,650	17,053	11,319	145,558

(注) 売上高は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております。
北米のうち、米国は41,807百万円であります。

(2) 有形固定資産

(単位：百万円)

日本	北米	ヨーロッパ	中国	アジア・オセアニア	その他	合計
7,104	3,956	4,186	177	440	34	15,900

(注) 北米のうち、米国は3,834百万円であります。
ヨーロッパのうち、イタリアは1,968百万円であります。

3. 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、連結損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載はありません。

当連結会計年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

1. 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

(単位：百万円)

日本	北米	ヨーロッパ	中国	アジア・オセアニア	その他	合計
33,389	44,565	36,361	7,483	15,901	10,986	148,688

(注) 売上高は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております。
北米のうち、米国は42,963百万円であります。

(2) 有形固定資産

(単位：百万円)

日本	北米	ヨーロッパ	中国	アジア・オセアニア	その他	合計
7,417	4,248	4,544	203	510	26	16,950

(注) 北米のうち、米国は4,138百万円であります。
ヨーロッパのうち、イタリアは1,831百万円であります。

3. 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、連結損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載はありません。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前連結会計年度(自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)

(単位:百万円)

	報告セグメント					消去及び 全社	合計
	スマート インフラ 事業	ポジショ ニング・ カンパニー	アイケア 事業	その他	計		
減損損失	—	—	1,128	—	1,128	—	1,128

当連結会計年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

(単位:百万円)

	報告セグメント					消去及び 全社	合計
	スマート インフラ 事業	ポジショ ニング・ カンパニー	アイケア 事業	その他	計		
減損損失	—	—	2,772	—	2,772	—	2,772

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前連結会計年度(自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)

のれんの償却額2,651百万円及び未償却残高14,771百万円は、報告セグメントに配分しておりません。

当連結会計年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

のれんの償却額2,145百万円及び未償却残高13,162百万円は、報告セグメントに配分しておりません。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

前連結会計年度(自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

前連結会計年度(自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)

取引に重要性がないため、記載を省略しております。

当連結会計年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

取引に重要性がないため、記載を省略しております。

(1株当たり情報)

	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
1株当たり純資産額	614円78銭	651円11銭
1株当たり当期純利益	56円87銭	61円76銭
潜在株式調整後1株当たり当期純利益	56円86銭	61円75銭

(注) 1株当たり当期純利益及び潜在株式調整後1株当たり当期純利益の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
1株当たり当期純利益		
親会社株主に帰属する当期純利益(百万円)	6,028	6,548
普通株主に帰属しない金額(百万円)	—	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する 当期純利益(百万円)	6,028	6,548
普通株式の期中平均株式数(株)	106,012,193	106,023,948
潜在株式調整後1株当たり当期純利益		
親会社株主に帰属する当期純利益調整額(百万円)	—	—
普通株式増加数(株)	11,688	18,396
(うち新株予約権(株))	(11,688)	(18,396)
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後 1株当たり当期純利益の算定に含めなかった 潜在株式の概要		—

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

⑤ 【連結附属明細表】

【社債明細表】

会社名	銘柄	発行年月日	当期首残高 (百万円)	当期末残高 (百万円)	利率 (%)	担保	償還期限
(株)トプコン	第1回無担保社債	2015年 7月27日	10,000	10,000	0.447	無担保社債	2020年 7月27日
〃	第2回無担保社債	2015年 7月27日	10,000	10,000	0.708	無担保社債	2022年 7月27日
合計	—	—	20,000	20,000	—	—	—

(注) 連結決算日後5年内における1年ごとの償還予定額の総額

1年以内 (百万円)	1年超2年以内 (百万円)	2年超3年以内 (百万円)	3年超4年以内 (百万円)	4年超5年以内 (百万円)
—	10,000	—	10,000	—

【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (百万円)	当期末残高 (百万円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	11,126	13,563	2.8	—
1年以内に返済予定の長期借入金	6,649	—	—	—
1年以内に返済予定のリース債務	670	641	—	—
長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く。)	10,449	10,497	1.1	2020年4月～ 2023年3月
リース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)	4,390	3,853	—	2020年4月～ 2026年3月
その他有利子負債	—	—	—	—
合計	33,286	28,555	—	—

- (注) 1. 「平均利率」については、借入金等の期末残高に対する加重平均利率を記載しております。
2. リース債務の平均利率については、リース料総額に含まれる利息相当額を控除する前の金額でリース債務を連結貸借対照表に計上しているため、記載しておりません。
3. 長期借入金及びリース債務(1年以内に返済予定のものを除く)の連結決算日後5年内における1年ごとの返済予定額の総額

区分	1年超2年以内 (百万円)	2年超3年以内 (百万円)	3年超4年以内 (百万円)	4年超5年以内 (百万円)
長期借入金	3,338	4,153	2,441	—
リース債務	667	649	640	631

【資産除去債務明細表】

当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における資産除去債務の金額が、当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における負債及び純資産の合計額の100分の1以下であるため、連結財務諸表規則第92条の2の規定により記載を省略しております。

(2) 【その他】

当連結会計年度における四半期情報等

(累計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	当連結 会計年度
売上高 (百万円)	33,406	70,271	103,106	148,688
税金等調整前四半期(当期)純利益 (百万円)	1,451	4,012	4,880	6,478
親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益 (百万円)	492	2,146	2,518	6,548
1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	4.64	20.25	23.75	61.76

(会計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
1株当たり四半期純利益 (円)	4.64	15.60	3.51	38.01

2 【財務諸表等】

(1) 【財務諸表】

① 【貸借対照表】

(単位：百万円)

	前事業年度 (2018年3月31日)	当事業年度 (2019年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	701	902
受取手形	※1, ※3 759	※1, ※3 685
売掛金	※1 14,852	※1 13,318
製品	3,992	4,342
仕掛品	814	466
原材料及び貯蔵品	1,657	1,601
前払費用	199	196
短期貸付金	※1 4,754	※1 4,787
未収入金	※1 2,169	※1 2,125
その他	※1 157	※1 156
貸倒引当金	△75	△80
流動資産合計	29,984	28,503
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	2,447	2,442
構築物（純額）	19	17
機械及び装置（純額）	325	287
車両運搬具（純額）	0	0
工具、器具及び備品（純額）	1,105	1,342
土地	236	236
リース資産（純額）	100	142
建設仮勘定	38	17
有形固定資産合計	4,273	4,485
無形固定資産		
特許権	91	61
借地権	57	57
ソフトウェア	5,886	5,104
その他	765	377
無形固定資産合計	6,801	5,600
投資その他の資産		
投資有価証券	3,844	2,678
関係会社株式	76,643	74,103
関係会社出資金	907	668
長期貸付金	3	3
長期前払費用	896	632
繰延税金資産	4,074	4,738
その他	303	328
貸倒引当金	△6	△5
投資その他の資産合計	86,666	83,148
固定資産合計	97,741	93,235
資産合計	127,725	121,738

(単位：百万円)

	前事業年度 (2018年3月31日)	当事業年度 (2019年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形	※3 162	※3 292
買掛金	※1 6,138	※1 5,659
短期借入金	※1 22,135	※1 21,911
リース債務	621	635
未払金	※1 235	※1 159
未払費用	※1 3,036	※1 3,252
未払法人税等	669	754
前受金	14	13
預り金	45	43
製品保証引当金	706	343
その他	106	103
流動負債合計	33,872	33,169
固定負債		
社債	20,000	20,000
長期借入金	9,934	9,934
リース債務	4,374	3,825
退職給付引当金	2,946	2,764
その他	5	5
固定負債合計	37,260	36,529
負債合計	71,133	69,698
純資産の部		
株主資本		
資本金	16,638	16,658
資本剰余金		
資本準備金	19,127	19,147
その他資本剰余金	1,924	1,924
資本剰余金合計	21,051	21,071
利益剰余金		
利益準備金	571	571
その他利益剰余金		
別途積立金	14,082	14,082
繰越利益剰余金	4,786	1,054
利益剰余金合計	19,440	15,708
自己株式	△2,090	△2,091
株主資本合計	55,039	51,346
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	1,523	645
評価・換算差額等合計	1,523	645
新株予約権	29	47
純資産合計	56,592	52,039
負債純資産合計	127,725	121,738

② 【損益計算書】

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 2017年 4月 1日 至 2018年 3月 31日)	当事業年度 (自 2018年 4月 1日 至 2019年 3月 31日)
売上高	※1 44,894	※1 45,976
売上原価	※1 33,369	※1 32,114
売上総利益	11,524	13,862
販売費及び一般管理費		
販売費	※2 3,122	※2 3,088
一般管理費	※2 7,567	※2 8,201
販売費及び一般管理費合計	10,689	11,289
営業利益	834	2,572
営業外収益		
受取利息及び配当金	※1 3,315	※1 4,252
受取賃貸料	※1 178	※1 177
雑収入	209	210
営業外収益合計	3,703	4,639
営業外費用		
支払利息	※1 280	※1 243
社債利息	115	115
為替差損	404	140
賃貸原価	80	88
雑支出	352	637
営業外費用合計	1,233	1,224
経常利益	3,305	5,988
特別損失		
関係会社出資金評価損	—	402
無償修理費用	—	419
減損損失	198	—
固定資産除却損	—	497
関係会社株式評価損	—	5,923
特別退職金	—	65
特別損失合計	198	7,308
税引前当期純利益又は税引前当期純損失 (△)	3,106	△1,319
法人税、住民税及び事業税	337	356
法人税等調整額	△445	△276
法人税等合計	△108	79
当期純利益又は当期純損失 (△)	3,215	△1,399

③ 【株主資本等変動計算書】

前事業年度(自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)

(単位：百万円)

	株主資本							
	資本金	資本剰余金			利益剰余金			
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計	利益準備金	その他利益剰余金		利益剰余金合計
					別途積立金	繰越利益剰余金		
当期首残高	16,638	19,127	1,924	21,051	571	14,082	3,479	18,133
当期変動額								
新株の発行								
剰余金の配当							△1,908	△1,908
当期純利益							3,215	3,215
自己株式の取得								
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）								
当期変動額合計	—	—	—	—	—	—	1,307	1,307
当期末残高	16,638	19,127	1,924	21,051	571	14,082	4,786	19,440

	株主資本		評価・換算差額等		新株予約権	純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	評価・換算差額等合計		
当期首残高	△2,089	53,733	559	559	—	54,293
当期変動額						
新株の発行		—				—
剰余金の配当		△1,908				△1,908
当期純利益		3,215				3,215
自己株式の取得	△1	△1				△1
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）			963	963	29	993
当期変動額合計	△1	1,305	963	963	29	2,299
当期末残高	△2,090	55,039	1,523	1,523	29	56,592

当事業年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

(単位：百万円)

	株主資本							
	資本金	資本剰余金			利益剰余金			
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計	利益準備金	その他利益剰余金		利益剰余金合計
					別途積立金	繰越利益剰余金		
当期首残高	16,638	19,127	1,924	21,051	571	14,082	4,786	19,440
当期変動額								
新株の発行	19	19		19				
剰余金の配当							△2,332	△2,332
当期純損失(△)							△1,399	△1,399
自己株式の取得								
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)								
当期変動額合計	19	19	—	19	—	—	△3,732	△3,732
当期末残高	16,658	19,147	1,924	21,071	571	14,082	1,054	15,708

	株主資本		評価・換算差額等		新株予約権	純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	評価・換算差額等合計		
当期首残高	△2,090	55,039	1,523	1,523	29	56,592
当期変動額						
新株の発行		39				39
剰余金の配当		△2,332				△2,332
当期純損失(△)		△1,399				△1,399
自己株式の取得	△0	△0				△0
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)			△877	△877	17	△860
当期変動額合計	△0	△3,692	△877	△877	17	△4,552
当期末残高	△2,091	51,346	645	645	47	52,039

【注記事項】

(重要な会計方針)

1. 資産の評価基準及び評価方法

(1) 有価証券

満期保有目的の債券	償却原価法
関係会社株式	移動平均法による原価法
その他有価証券	
時価のあるもの	決算末日の市場価格等に基づく時価法 (評価差額は、全部純資産直入法により処理し、売却原価は、移動平均法により算定)
時価のないもの	移動平均法による原価法

(2) たな卸資産

製品	総平均法による原価法
仕掛品	見込生産品は総平均法による原価法 注文生産品は個別法による原価法
原材料及び貯蔵品	移動平均法による原価法 (貸借対照表価額は、収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)

2. 固定資産の減価償却方法

(1) 有形固定資産(リース資産除く)

定額法

なお、主な耐用年数は、以下のとおりであります。

建物及び構築物	3～50年
機械装置及び運搬具	4～7年

(2) 無形固定資産(リース資産除く)

自社利用のソフトウェアは社内における利用可能期間(5～10年)に基づく定額法を採用しております。その他の無形固定資産は定額法を採用しております。

(3) リース資産

所有権移転ファイナンス・リース取引に係るリース資産

自己所有の固定資産に適用する減価償却方法と同一の方法を採用しております。

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

3. 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は、決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。

4. 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

債権の貸倒損失に備えるため一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別にそれぞれ回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 製品保証引当金

販売した製品の無償アフターサービス費用に備えるため、売上高に対する経験率により計上しております。

(3) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき、計上しております。

①退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

②数理計算上の差異の費用処理方法

数理計算上の差異は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(10年)による定額法により、

それぞれ発生の翌事業年度から費用処理することとしております。

なお、当事業年度末においては、年金資産見込額が退職給付債務見込額から未認識数理計算上の差異を調整した額を上回るため、当該超過額540百万円を前払年金費用として投資その他の資産の「長期前払費用」に含めて計上しております。

5. ヘッジ会計の方法

(1) ヘッジ会計の方法

金利スワップについては特例処理を採用しており、通貨スワップについては振当処理を採用しております。

(2) ヘッジ手段とヘッジ対象

ヘッジ手段	ヘッジ対象
金利スワップ	借入金の支払金利
通貨スワップ	外貨建貸付金及び外貨建予定取引

(3) ヘッジ方針

「財務管理規則」に基づき、為替相場変動リスク及び金利変動リスクについて、デリバティブ取引の限度額を実需の範囲とする方針であり、投機目的によるデリバティブ取引は行なわないこととしております。

(4) ヘッジ有効性評価の方法

ヘッジ手段とヘッジ対象に関する重要な条件が同一であり、継続して為替及び金利の変動による影響を相殺又は一定の範囲に限定する効果が見込まれるため、ヘッジの有効性の判定は省略しております。

6. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

(1) 退職給付に係る会計処理

退職給付に係る未認識数理計算上の差異、未認識過去勤務費用の会計処理の方法は、連結財務諸表におけるこれらの会計処理の方法と異なっております。

(2) 消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

(3) 連結納税制度の適用

連結納税制度を適用しております。

(表示方法の変更)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」（企業会計基準第28号 平成30年2月16日）を当事業年度の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。

(貸借対照表関係)

※1. 関係会社に対する金銭債権及び金銭債務 (区分表示したものを除く)

	前事業年度 (2018年3月31日)	当事業年度 (2019年3月31日)
短期金銭債権	19,473百万円	17,996百万円
短期金銭債務	24,732	26,371

2. 債権流動化

	前事業年度 (2018年3月31日)	当事業年度 (2019年3月31日)
受取手形及び売掛金譲渡残高	421百万円	668百万円

※3. 期末日満期手形

期末日満期手形の会計処理については、当社は、満期日に決済があったものとして処理しております。なお、当事業年度末日が金融機関の休日であったため、以下の期末日満期手形を満期日に決済が行われたとして処理しております。

	前事業年度 (2018年3月31日)	当事業年度 (2019年3月31日)
受取手形	257百万円	177百万円
支払手形	7百万円	3百万円

4. コミットメントライン契約

当社は、資金調達機動性及び安定性の確保を目的として、取引金融機関とコミットメントライン契約(2019年3月～2021年3月)を締結しております。当該契約に基づく当事業年度末における借入金未実行残高は、次のとおりであります。

	前事業年度 (2018年3月31日)	当事業年度 (2019年3月31日)
コミットメントラインの総額	22,000百万円	22,000百万円
借入実行残高	200	—
差引額	21,800	22,000

上記のコミットメントライン契約には、次の財務制限条項が付されております。

- (1) 各事業年度末日における連結貸借対照表における純資産の部の合計金額から為替換算調整勘定の合計金額を控除した金額を、2018年3月決算期末における連結貸借対照表における純資産の部の合計金額から為替換算調整勘定の合計金額を控除した金額の75%に相当する金額以上に維持することを確約する。
- (2) 報告書等に記載される連結損益計算書における営業利益が2期連続して赤字とならないようにすること。
- (3) 株式会社格付投資情報センターによる発行体格付を、BBB-以上に維持することを確約する。

5. 貸出コミットメント

キャッシュマネジメントシステム(CMS)による関係会社に対する貸出コミットメントは次のとおりであります。

	前事業年度 (2018年3月31日)	当事業年度 (2019年3月31日)
CMSによる貸付限度額の総額	42,000百万円	10,000百万円
貸付実行残高	561	711
差引貸付未実行残高	41,438	9,288

(損益計算書関係)

※1. 関係会社との取引高

	前事業年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当事業年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
営業取引による取引高		
売上高	38,567百万円	40,083百万円
仕入高	21,989	22,132
営業取引以外の取引による取引高	4,092	4,655

※2. 販売費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前事業年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当事業年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
給料手当	487百万円	540百万円
従業員賞与	179	173
退職給付費用	61	47
減価償却費	178	217

一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前事業年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当事業年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
給料手当	1,480	1,789
従業員賞与	709	668
退職給付費用	327	269
減価償却費	578	660

(有価証券関係)

子会社株式及び関連会社株式は、市場価格がなく時価を把握することが極めて困難と認められるため、子会社株式及び関連会社株式の時価を記載しておりません。

なお、時価を把握することが極めて困難と認められる子会社株式及び関連会社株式の貸借対照表計上額は次のとおりです。

(単位：百万円)

区分	前事業年度 (2018年3月31日)	当事業年度 (2019年3月31日)
子会社株式	76,545	74,005
関連会社株式	98	98

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (2018年3月31日)	当事業年度 (2019年3月31日)
(繰延税金資産)		
たな卸資産	1,678百万円	1,816百万円
未払賞与	245	233
未払事業税	55	61
退職給付引当金	902	846
ソフトウェア	784	890
貸倒引当金	25	26
未払費用	125	224
繰越欠損金	20	—
その他	1,278	1,226
繰延税金資産小計	5,115	5,325
評価性引当額	△128	△136
繰延税金資産合計	4,987	5,189
(繰延税金負債)		
前払年金費用	239	165
その他有価証券評価差額金	672	284
繰延税金負債合計	912	450
繰延税金資産の純額	4,074	4,738

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前事業年度 (2018年3月31日)	当事業年度 (2019年3月31日)
法定実効税率 (調整)	30.86%	税引前当期純損失を計上しているため、記載を省略しております。
交際費等損金不算入の永久差異	3.92	
受取配当金等益金不算入の永久差異	△31.43	
住民税均等割等	0.12	
評価性引当額	0.40	
税額控除	△8.25	
その他	0.89	
税効果会計適用後の法人税等の負担率	△3.49	

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

④ 【附属明細表】

【有形固定資産等明細表】

(単位：百万円)

区分	資産の種類	当期首 残高	当期 増加額	当期 減少額	当期 償却額	当期末 残高	減価償却 累計額
有形固定資産	建物	10,718	151	52	150	10,817	8,375
	構築物	455	—	—	2	455	438
	機械及び装置	4,350	61	83	96	4,328	4,041
	車両運搬具	5	—	—	0	5	5
	工具、器具及び備品	7,040	787	636	456	7,191	5,848
	土地	236	—	—	—	236	—
	リース資産	333	87	—	45	420	278
	建設仮勘定	38	70	92	—	17	—
	計	23,178	1,159	864	750	23,472	18,986
無形固定資産	特許権	241	—	—	29	241	180
	借地権	58	—	—	—	58	1
	ソフトウェア	8,956	208	—	994	9,164	4,060
	その他	1,007	328	830	78	505	128
		計	10,263	536	830	1,102	9,970

(注) 1. 当期増加額のうち主なものは次のとおりであります。

建物	空調機代替	40百万円
	トイレ改修	34百万円
工具器具及び備品	修理代替機	380百万円
	金型・専用工具	235百万円
ソフトウェア	ERP関連	39百万円
	営業用支援ツール	30百万円
	クラウドプラットフォーム	23百万円

2. 当期減少額のうち主なものは次のとおりであります。

工具器具及び備品	金型・専用工具	410百万円
その他無形	独占購入権	730百万円

3. 当期首残高及び当期末残高は、取得価額により記載しております。

【引当金明細表】

(単位：百万円)

科目	当期首残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
貸倒引当金	82	15	11	85
製品保証引当金	706	—	363	343

(2) 【主な資産及び負債の内容】

連結財務諸表を作成しているため、記載を省略しております。

(3) 【その他】

該当事項はありません。

第6 【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	6月中
基準日	3月31日
剰余金の配当の基準日	9月30日、3月31日
単元株式数	100株
単元未満株式の買取り 取扱場所	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
株主名簿管理人	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
取次所	—
買取手数料	株式の売買の委託に係る手数料相当額として別途定める金額
公告掲載方法	電子公告により行う。ただし電子公告によることができない事故その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載して行う。
株主に対する特典	期末あるいは中間期末500株以上所有株主が対象 500株以上 メガネ30%割引券1枚※ ※本割引券は愛眼株式会社(メガネの愛眼)全国各店舗において使用可能

第7 【提出会社の参考情報】

1 【提出会社の親会社等の情報】

当社には、親会社等はありません。

2 【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

(1) 有価証券報告書及びその添付書類並びに確認書

事業年度(第125期)(自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)2018年6月27日関東財務局長に提出

(2) 内部統制報告書及びその添付書類

2018年6月27日関東財務局長に提出

(3) 四半期報告書及び確認書

(第126期第1四半期)(自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)2018年8月9日関東財務局長に提出

(第126期第2四半期)(自 2018年7月1日 至 2018年9月30日)2018年11月9日関東財務局長に提出

(第126期第3四半期)(自 2018年10月1日 至 2018年12月31日)2019年2月12日関東財務局長に提出

(4) 臨時報告書及び臨時報告書の訂正報告書

2018年6月27日関東財務局長に提出

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第2号の2に基づく臨時報告書であります。

2018年6月28日関東財務局長に提出

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2に基づく臨時報告書であります。

2018年7月4日関東財務局長に提出

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第4号に基づく臨時報告書であります。

2018年7月13日関東財務局長に提出

2018年6月27日提出臨時報告書の訂正報告書であります。

2019年3月15日関東財務局長に提出

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第4号に基づく臨時報告書であります。

2019年4月4日関東財務局長に提出

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第4号に基づく臨時報告書であります。

(5) 発行登録書(株券、社債券等)及びその添付書類

2019年6月14日関東財務局長に提出

(6) 訂正発行登録書

2019年6月14日関東財務局長に提出

2019年6月14日提出発行登録書(株券・社債券等)の訂正発行登録書であります。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

2019年6月26日

株式会社トプコン
取締役会 御中

EY新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	古 杉 裕 亮	Ⓔ
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	腰 原 茂 弘	Ⓔ
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	市 川 亮 悟	Ⓔ

<財務諸表監査>

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社トプコンの2018年4月1日から2019年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社トプコン及び連結子会社の2019年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

<内部統制監査>

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、株式会社トプコンの2019年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。

内部統制報告書に対する経営者の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した内部統制監査に基づいて、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき内部統制監査を実施することを求めている。

内部統制監査においては、内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための手続が実施される。内部統制監査の監査手続は、当監査法人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。また、内部統制監査には、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、株式会社トプコンが2019年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

※1. 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。

2. XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

独立監査人の監査報告書

2019年6月26日

株式会社トプコン
取締役会 御中

EY新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	古 杉 裕 亮	Ⓜ
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	腰 原 茂 弘	Ⓜ
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	市 川 亮 悟	Ⓜ

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社トプコンの2018年4月1日から2019年3月31日までの第126期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社トプコンの2019年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- ※1. 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。
2. XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

【表紙】

【提出書類】	内部統制報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の4第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2019年6月26日
【会社名】	株式会社トプコン
【英訳名】	TOPCON CORPORATION
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 平野 聡
【最高財務責任者の役職氏名】	取締役兼上席執行役員 財務本部長 秋山 治彦
【本店の所在の場所】	東京都板橋区蓮沼町75番1号
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

1 【財務報告に係る内部統制の基本的枠組みに関する事項】

代表取締役社長平野聡及び取締役兼上席執行役員財務本部長秋山治彦は、当社の財務報告に係る内部統制の整備及び運用に責任を有しており、企業会計審議会の公表した「財務報告に係る内部統制の評価及び監査の基準並びに財務報告に係る内部統制の評価及び監査に関する実施基準の設定について（意見書）」に示されている内部統制の基本的枠組みに準拠して財務報告に係る内部統制を整備及び運用しております。

なお、内部統制は、内部統制の各基本的要素が有機的に結びつき、一体となって機能することで、その目的を合理的な範囲で達成しようとするものであります。このため、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性があります。

2 【評価の範囲、基準日及び評価手続に関する事項】

財務報告に係る内部統制の評価は、当事業年度の末日である2019年3月31日を基準日として行われており、評価に当たっては、一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠いたしました。

本評価においては、連結ベースでの財務報告全体に重要な影響を及ぼす内部統制（全社的な内部統制）の評価を行った上で、その結果を踏まえて、評価対象とする業務プロセスを選定しております。当該業務プロセスの評価においては、選定された業務プロセスを分析した上で、財務報告の信頼性に重要な影響を及ぼす統制上の要点を識別し、当該統制上の要点について整備及び運用状況を評価することによって、内部統制の有効性に関する評価を行いました。

財務報告に係る内部統制の評価の範囲は、当社並びに連結子会社及び持分法適用会社について、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性の観点から必要な範囲を決定いたしました。財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性は、金額的及び質的影響の重要性を考慮して決定しており、当社及び連結子会社50社を対象として行った全社的な内部統制の評価結果を踏まえ、業務プロセスに係る内部統制の評価範囲を合理的に決定いたしました。なお、連結子会社32社、持分法適用関連会社10社及び持分法適用非連結子会社1社については、金額的及び質的重要性の観点から僅少であると判断し、全社的な内部統制の評価範囲に含めておりません。

業務プロセスに係る内部統制の評価範囲については、各事業拠点の前連結会計年度の売上高（連結会社間取引消去後）の金額が高い拠点から合算していき、前連結会計年度の連結売上高の概ね2/3に達している12事業拠点を「重要な事業拠点」といたしました。選定した重要な事業拠点においては、企業の事業目的に大きく関わる勘定科目として売上高、売掛金及び棚卸資産に至る業務プロセスを評価の対象といたしました。さらに、選定した重要な事業拠点にかかわらず、それ以外の事業拠点をも含めた範囲について、重要な虚偽記載の発生可能性が高く、見積りや予測を伴う重要な勘定科目に係る業務プロセスやリスクが大きい取引を行っている事業又は業務に係る業務プロセスを財務報告への影響を勘案して重要性の大きい業務プロセスとして評価対象に追加しております。

3 【評価結果に関する事項】

上記の評価の結果、当事業年度末日時点において、当社の財務報告に係る内部統制は有効であると判断いたしました。

4 【付記事項】

該当事項はありません。

5 【特記事項】

該当事項はありません。

